

お問い合わせ先

製品に関するお問い合わせは、お客様相談センターをご利用ください。

全国共通電話番号 0570-01-9000（商品該当番号；86）

【受付時間】

<平 日> 9：00～17：00（但し、12：00～13：00 除く）

<土/日/祝> 休み

携帯電話等をご使用の場合は、043-211-9622 をご利用ください。
（なお、受付時間及び、音声対応システムの内容を変更する場合がありますのでご了承ください）

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な保守用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後 7 年間です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です）

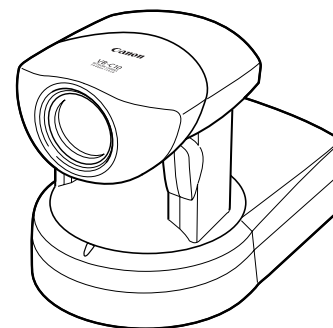
Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社

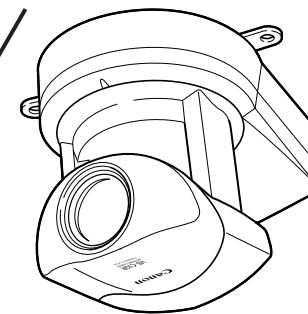
〒261-8711 千葉県千葉市美浜区中瀬 1 丁目 7 番 2

ネットワークカメラ

VB-C10/VB-C10R ユーザーズマニュアル



VB-C10



VB-C10R

ご使用の前に、必ずこの使用説明書をお読みください。

特に「△ 安全にお使いいただくために」の項は必ずお読みになり、正しくご使用ください。また、お読みになった後、本書はいつでも見られる場所に保管してください。

はじめに

このたびは「キヤノンネットワークカメラ VB-C10/VB-C10R（以下、本機）」をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

このマニュアルは、本機の設定や活用方法について説明しています。ご使用前によくお読みになって、本機を有効に活用してください。また、本書中の「安全にお使いいただくために」およびCD-ROMのReadMe ファイルは必ずお読みください。

著作権について

お客様が撮影した映像や画像は、個人で楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用することはできませんのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
2. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については万全を期して作成しましたが、お気づきの点がございましたら、裏表紙に記載の窓口までご連絡ください。
4. 運用した結果の影響につきましては、2. 項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

ラジオテレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

ライブ映像公開に際してのお願い

ライブ映像の公開に際しては、プライバシーや肖像権に十分なご配慮をお願いします。弊社の責任で設置・運用しているカメラサイトに関しては、この点につきまして次のような配慮をし、運用しています。

- 人が特定できないよう、ズーム倍率に制限を加えるなどの処置を行っています。
- 特定の建築物や屋内などが映し出される場合には、管理者の方に対して、予め了承をいただいてから、カメラの設置を行っています。

ライブ映像公開に伴う一切の責任は、カメラサイト運用者となり、弊社は責任を負いかねますので十分なご配慮をお願いします。

商標について

- Canon はキャノン株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。
- その他、本書に記載された商品名、社名等は各社の商標または登録商標です。
- 本製品では、GNU General Public License (GPL) に基づくソフトウェアである Linux カーネル、gcc-libs、readline、init、sftpd、net-tools、mactool、telnetd、syslogd、boa および GNU Lesser General Public License (LGPL) に基づく glibc、termcap および modified BSD License に基づく ash、sh、ping を使用しています。Linux カーネル、それ以外の GPL ソフトウェア、LGPL ソフトウェア、modified BSD ソフトウェアに対応するライセンス文書の原文は、それぞれ付属 CD の LICENSE フォルダ内の COPYING.txt、GPL.txt、LGPL.txt、mBSD.txt をご覧下さい。

なお、GPL もしくは LGPL の条文に従って、お客様がプログラムのリソースコードを必要とされる場合、

<http://canon.jp/webview/webview-tech> をご参照ください。

目次

■ △ 安全にお使いいただくために	vii
本書で使用しているマークについて	vii
日常のお手入れ	xi

1 章 ご使用の前に

■ VB-C10/VB-C10R の特長	1-2
■ システム構成	1-4
■ 動作環境	1-6
WebView Livescope ビューワソフトウェア	1-6
VB 管理ツール	1-6
VBCollector	1-7
WebView Livescope MV ソフトウェア Ver. 2.0/LE	1-7
■ 同梱品をお確かめください	1-8
■ 各部の名称とはたらき	1-9

2 章 設置

■ ご使用の前に	2-2
設置する	2-2
接続する	2-4
電源の ON/OFF	2-4
■ ネットワーク構成例	2-5
LAN 環境での構成例	2-5
ISP 環境での構成例	2-5

3 章 設定手順

■ 初期設定の準備	3-2
■ 初期設定をする	3-3
■ 動作を確認する	3-6
■ 詳細な設定	3-7
設定のタイトルページへアクセスする	3-7
設定のタイトルページ	3-8
システム / ネットワークの設定ページ	3-9
日付と時刻の設定ページ	3-10
カメラの設定ページ	3-11
プリセットの設定ページ	3-15
映像蓄積と外部デバイス入出力の設定ページ	3-16
アクセス制御の設定ページ	3-19
WebView Livescope 設定の設定ページ	3-20

その他の設定ページ	3-21
管理ツールの設定ページ	3-22

4章 VB 管理ツール

■ VB 管理ツールの概要	4-2
VBAdmin 起動パネル	4-2
パノラマ作成ツール	4-2
可視範囲設定ツール	4-3
プリセット設定ツール	4-3
ログビューワ	4-3
管理者ビューワ	4-3
■ VB 管理ツールのインストール	4-4
■ VB 管理ツールを起動する	4-5
■ パノラマ作成ツール	4-7
パノラマ作成ツールの表示画面について	4-8
パノラマ画像を撮影する	4-9
パノラマ画像を更新 / 削除する	4-10
再接続する	4-11
画像を開く / 保存する	4-11
接続情報を表示する	4-11
■ 可視範囲設定ツール	4-12
可視範囲設定ツールの表示画面について	4-13
可視範囲を設定する	4-15
■ プリセット設定ツール	4-17
プリセット設定ツールの表示画面について	4-18
プリセットを設定する	4-20
■ ログビューワ	4-22
ログを開覧する	4-22
■ 管理者ビューワ	4-24
管理者ビューワを起動する	4-24
外部デバイスの操作	4-25
可視範囲制限の有効 / 無効	4-26

5章 ホームページの作成

■ 映像配信用ホームページについて	5-2
Java 版ビューワの特長	5-3
ヘルパー版ビューワの特長	5-5
■ サンプルページを見る	5-6

■ Java 版ビューワを使用して映像を配信する	5-7
Java 版ビューワを使用したホームページの作成方法	5-7
ホームページのデータを保存する	5-8
Java 版ビューワを使用したホームページの作成例	5-9
Java 版ビューワのパラメータについて	5-17
■ ヘルパー版ビューワを使用して映像を配信する	5-21
ヘルパー版ビューワを使用したホームページの作成例	5-23
■ ブラウザだけを使用して映像を配信する	5-24
■ 固定のグローバルアドレス 1 個による映像配信の例	5-26

6 章 映像蓄積機能の運用

■ 外部デバイスと連携して静止画蓄積機能を運用する	6-2
ドア開閉センサと組み合わせた応用例	6-2
■ スケジュールを決めて静止画蓄積機能を運用する	6-4
スケジュール設定による応用例	6-4
■ 蓄積映像を閲覧する	6-6
VBCollector のインストール	6-7
VBCollector を起動する	6-8
サーバを登録する	6-8
タスクを登録する	6-10
タスクの実行と中止	6-12
タスク一覧の表示内容	6-13
サービスの開始 / 停止	6-14
蓄積画像の閲覧	6-14
ログを閲覧する	6-16
ダウンロード容量の設定	6-18

7 章 故障かなと思ったら

■ トラブルシューティング	7-2
■ ログメッセージ一覧	7-4

8 章 付録












■ 主な仕様	8-2
外部デバイス入出力端子	8-3
■ 工場出荷時設定に戻す	8-4
Web ブラウザで管理ツールのページから出荷時設定に戻す	8-4
IP アドレスやパスワードが不明な場合	8-5
■ 工場出荷時設定一覧	8-6
■ 索引	8-8

安全にお使いいただくために










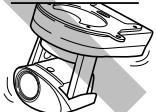



本機をお使いいただくにあたり、必ず守っていただかなければならない注意事項について説明します。守られない場合、**けがや死亡事故、物的損害**が発生することがありますので、よくお読みになった上、必ずお守りください。

本書で使用しているマークについて





本書では特にお読みいただきたい説明に、次のマークを使用しています。

マーク	意 味
 警告	この表示を無視して取扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 注意	この表示を無視して取扱いを誤った場合に、傷害または物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
  火災注意 感電注意	これらの表示を無視して取扱いを誤った場合に、火災の発生や感電の可能性が想定される内容を示しています。
  禁止 水場での使用禁止   火気禁止 分解禁止	これらの表示は火気を近づけることや水場での使用、分解すること、またその他の行為の禁止を示しています。
 プラグをコンセントから抜く	この表示は必ずプラグをコンセントから抜かなければならないことを示しています。
 お願い	操作上必ず守っていただきたい重要事項や禁止事項が書かれています。機械の故障や損傷を防ぐために、必ずお読みください。
 メモ	操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

設置上の注意

 警告   火災注意 感電注意  水場での使用禁止   火気禁止 禁止	<p>次の場所には設置しないでください。 火災、感電、ケガの原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none">● 湿気やほこりの多いところ● 油煙や湯気が当たるところ● 潮風の当たるところ● 強い直射日光が当たるところや発熱体のそばなど、温度が高くなる場所● 密閉された狭い場所● 毛足の長い敷物（じゅうたんや毛布など）の上● 引火性溶剤（アルコールやシンナーなど）の近く	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 医療機器などの人命に関わるシステムには使用しないでください。 本システムはこれらのシステムに適していません。	
 警告	<p>設置は確実に行ってください。 天井への設置は、本体と取付け金具を含む重量に充分耐えられる強度があることを確かめてください。十分な強度がないと、落下して大けがの原因となります。また、1年に1度は、必ず取付け部がゆるんでいないか点検してください。</p>	
 注意  禁止	<p>不安定なところや傾斜したところには設置しないでください。 落下などによるけがの原因になることがあります。</p>	

持ち運ぶときの注意

 注意  プラグをコンセントから抜く   火災注意 感電注意	<p>持ち運ぶときは、次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 電源プラグをコンセントから抜いてください。● 接続コードやケーブルなどを外してください。 <p>コードやケーブルが傷つき、火災や感電の原因になることがあります。</p>	
---	--	--

使用上の注意

警告



次の場合は、ただちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、最寄りの販売店にご連絡ください。

そのまま使用を続けると、火災や感電の原因になります。

- 煙が出ている、本体が異常に熱くなる、
変なにおいや音がするなどの異常状態のとき
- 機器の内部に水などが入ってしまったとき
- 異物が機器の中に入ってしまったとき
- 何らかの理由で機器が破損したとき

お客様による修理は危険ですから絶対に、おやめください。

- 本機を長期間使用しないときは、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。



警告



ご使用の際は次のことをお守りください。
守られない場合、火災や感電の原因になります。

- 機器の近くで可燃性のスプレーを使用しないでください。
- 分解、改造はしないでください。
- 衝撃を与えないでください。
- 水をかけたり、濡らしたりしないでください。



注意

本機には一時的に映像を蓄積する機能がありますが、電源をOFF にしたり、再起動すると蓄積された映像は消去されます。蓄積された映像の取得にはVBCollector をご使用ください。

(→ P.2-4 「電源のON/OFF」、P.6-6 「蓄積映像を閲覧する」)

電源に関する注意



警告



火災注意



感電注意



禁止

電源について次のことをお守りください。

守られない場合、火災や感電の原因になります。

- 必ず付属の専用 AC アダプタと AC ケーブルを使用してください。

また、AC アダプタは本製品以外には使用しないでください。

- AC 100V 以外の電源で使用しないでください。

また、海外では使用しないでください。

- 電源コードに重いものを載せないでください。

- 電源コードを引っ張る、無理に曲げる、傷つける、加工するなどしないでください。

- 濡れた手で触れないでください。

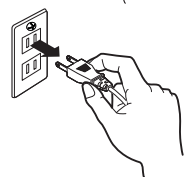
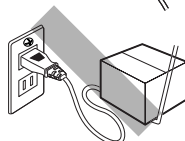
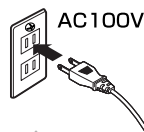
- プラグはコンセントの奥まで確実に差し込んでください。

- プラグをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いてください。

- AC アダプタは、布や布団でおおったり、つつんだりしないでください。

熱がこもりケースが変形し、火災の原因になります。

風通しのよい状態でお使いください。



お手入れに関する注意



警告



火災注意



感電注意



禁止



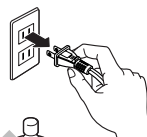
プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は次のことをお守りください。

守られない場合、火災や感電の原因になります。

- 電源を切りプラグをコンセントから抜いてください。

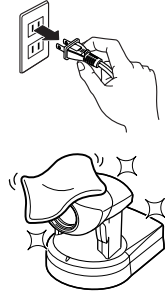
- アルコールやシンナー、ベンジンなどの引火性溶剤は使用しないでください。



日常のお手入れ

外装のお手入れ

1. 電源プラグをコンセントから抜く
2. 柔らかい布を水またはうすい中性洗剤で湿らせ、軽く汚れを拭き取る
3. 乾いた布で拭く
4. 終了したら電源プラグをコンセントに差し込む



レンズのお手入れ

市販のレンズクリーナーを使用し、レンズ表面の汚れを落とす

- レンズ表面にほこりや汚れがついていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。
- レンズ表面に傷を付けると、画像不良の原因となります。

1

ご使用の前に

この章ではご使用前に読んでいただきたいこと、および本機の特長、システム構成、動作環境、各部の名称とはたらきについて説明します。

VB-C10/VB-C10R の特長

本機は、インターネットやイントラネットを介したライブ映像配信システムです。ホームページからのライブ映像配信やモニタリングなど幅広い用途でご活用いただけます。システム構成は、本機とビューワソフトウェアから成ります。本機から配信される映像を表示し、カメラ制御を行うには付属のビューワソフトウェアをご利用ください。

■ブロードバンド映像配信機能

最大30fpsでの画像キャプチャを実現。画像の圧縮にはMotion-JPEGを採用しました。ネットワークはEthernet 100Mbps/10Mbpsの自動切替え、さらにルータを介せば専用線やADSLを利用することもできます。映像品質（5段階）、フレームレート（0.1～30fps）を自由に設定できるので、ネットワーク帯域に合わせた最適な映像配信が可能です。

■最大20クライアントが同時に映像を受信

本機1台で最大20クライアントが同時に映像を見ることができます。

■カメラと映像配信サーバ機能が一体化

パン、チルト、ズームが自在にできるカメラと、映像をネットワークに配信するサーバ機能がコンパクトに一体化。LAN ケーブルと電源があれば、お好みの場所*に設置して映像をライブ配信できます。

*直射日光の当たる場所、高温・高湿度の場所などには設置できません。（→P.vii）

■高性能16倍ズームと広い撮影領域

カメラ部は、16倍ズームレンズを搭載しています。さらに“VB-C10”ではパン角度200度（左右各100度）、チルト角度120度（上90度、下30度）、“VB-C10R”ではパン角度340度（左右各170度）、チルト角度100度（上10度、下90度）の大きな動作範囲で回転するので、幅広い撮影領域をカバーすることができます。

■天井などにも設置可能（VB-C10R）

VB-C10Rは取付け板が設けられており、天井などへ固定できます。カメラヘッドの形状も、逆に固定された場合にカメラのパンおよびチルトが適切に行えるようデザインされています。

■ビューワからの遠隔カメラ制御

ビューワソフトウェアは、「ヘルパー版ビューワ」と「Java版ビューワ」の2種類があります。ビューワから遠隔地に設置したカメラのアングル（パン、チルト）やズーム倍率を自由自在にコントロールでき、臨場感あふれる映像を見ることができます。

■パノラマ画像作成機能と各種設定

カメラの全撮影範囲をパノラマ画像として作成し、登録することができます。さらに登録したパノラマ画像を使って、可視範囲設定やプリセット設定を視覚的に分かりやすく行うことができます。

■カメラ位置プリセット機能

よく見るカメラアングル（カメラヘッドの向きやズームの位置）などは、予めプリセット登録しておけば、ビューワから見たいプリセットを選択するだけでカメラ制御ができます。プリセットは最大 8 件まで登録できます。

■可視範囲制限機能

カメラ映像で見せたくないアングルの指定やズーム倍率に制限をかけることができます。例えば、本機を利用してインターネットの定点カメラを運用する場合に、プライバシーを配慮した映像配信ができます（→ P.ii 「ライブ映像公開に際してのお願い」）。

■Web サーバと FTP サーバを内蔵

本機は Web サーバとしての機能も内蔵しています。この機能を使えば、本機 1 台で Web を使ったホームページ配信と映像配信の両方が可能です。また、FTP サーバも内蔵していますので、ホームページのデータを遠隔地からファイル転送 (FTP) することができます。

■設定、管理が容易

Web を利用した設定ページの提供により、本機を設置した場所まで行かなくてもパソコンと Web ブラウザがあれば離れた場所から設定、管理が行えます。

■セキュリティ機能の強化

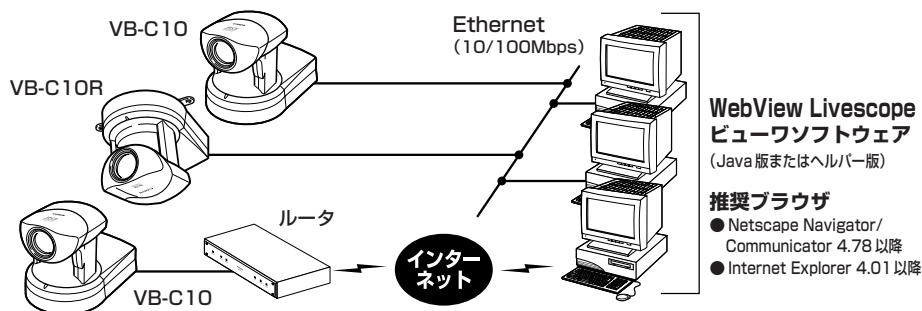
パスワードで映像の配信先を制限することができます。登録は、最大 20 クライアントまで可能です。

■外部デバイスとの連携やスケジュール管理による映像蓄積

外部デバイスからの入力の ON/OFF や、事前に設定したスケジュールに基づいた映像蓄積ができます。さらに VBCollector を使えば、本機に蓄積された静止画をパソコンに自動収集し、表示することができます。

システム構成

基本的なシステム構成例 - ビューワで映像を見る



本機と付属のビューワ「WebView Livescopeビューワソフトウェア」(→P.1-6)とのシステム構成例です。WebView Livescope ビューワソフトウェアは、「Java版ビューワ」と「ヘルパー版ビューワ」の2種類があります。

ヘルパー版ビューワは、付属のCD-ROMから事前にインストールする必要があります。Java版ビューワは、事前インストールの必要がなく、本機から自動ダウンロードされます。はじめて本機にアクセスして映像を表示したい場合でもすぐに見られますが、毎回ダウンロードするので、本機の映像を頻繁に表示してご利用になる場合には、ヘルパー版ビューワが便利です。

ホームページから観光名所などのライブ映像を配信される場合には、はじめてアクセスしてきた方でも事前インストールの必要がないJava版ビューワが便利です。

映像受信側

■ビューワソフトウェアの種類と機能

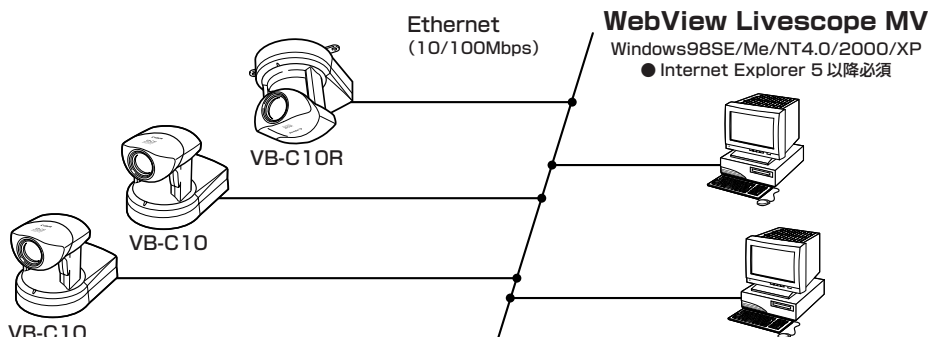
ビューワソフトウェア	機能
Java版ビューワ	<ul style="list-style-type: none">● Java アプレットが動作可能な Web ブラウザで、本機からの映像を表示できます。● Java版ビューワは自動的にダウンロードされるためヘルパー版ビューワのように事前にインストールする必要がなく、Java が動作する環境を持つプラットフォームに対応します。● ファイアウォールを導入していてもHTTPプロトコルを使用するため無条件で通過します。ただし、プラットフォームや Web ブラウザの種類によって動作が不安定な場合があります。また、ホームページをロードするときビューワもダウンロードされるので、ヘルパー版ビューワに比べて起動時間や実行速度が遅くなります。
ヘルパー版ビューワ	<ul style="list-style-type: none">● 本機からの映像を見るため、Web ブラウザから起動されるヘルパーアプリケーションです。● ヘルパー版ビューワは、事前にインストールが必要です。● 同梱の CD-ROM からインストールします。● Java版ビューワに比べ、ビューワのダウンロードが必要ないため、起動が速くなります。頻繁にご利用になる場合は、こちらのビューワを推奨します。● ファイアウォールを導入していても、HTTP プロトコルを使用することで無条件で通過します。



お願い

- ヘルパー版ビューワのインストールは付属のCD-ROMにある「MonSetup.exe」から行ってください。
- WebView Livescope ビューワソフトウェアのユーザズマニュアルは、付属のCD-ROMにあります (Mon-J.pdf)。
- 本機をインターネットへ接続する場合はインターネットアクセスプロバイダに専用線またはLAN型のダイヤルアップIP接続が必要です。LAN型のダイヤルアップで接続する場合は双方向発呼ができることを必ず確認してください。

WebView Livescope MV ソフトウェアとのシステム構成例 – オプション



本機を LAN 上に複数設置し、それらの映像を集中的にモニタリングしたい場合は、WebView Livescope MV ソフトウェア (→ P.1-7) を利用すると便利です。

WebView Livescope MV ソフトウェアは、「MV マネージャ」と「MV ステーション」から構成されます。MV マネージャでは、本機の運用状況を一元管理することができます。さらに本機の台数に応じて最適なモニタリング画面を豊富な画面例の中から選択して作成することができます。MV ステーションでは、MV マネージャで作成されたモニタリング画面を用いて本機の映像を多地点表示すると同時にカメラ制御や外部デバイスの遠隔制御を行うことができます。

■オプション商品

- WebView Livescope MV Ver. 2.0
- WebView Livescope MV Ver. 2.0 LE

■別売り商品

- ワイドコンバータ WL-37 (VB-C10 用)
- センサ
- リレー

WebView Livescope ビューワソフトウェア (→ P.1-4)

本機付属のビューワソフトウェアです。本機の映像を表示しカメラ制御を行うことができます。

Java 版ビューワ Ver. 3.20

コンピュータ本体	DOS/V 機または NEC PC98 シリーズ
OS	Windows98SE/MeまたはWindowsNT4.0 (IE 4.0以降必須) /Windows2000/WindowsXP
Web ブラウザ	Netscape Navigator/Communicator4.78 以降 (6.01、6.1 を除く)、または Microsoft Internet Explorer4.01 以降を推奨

※本ビューワはVB-C10/VB-C10Rにインストールされており、アクセスした時点でクライアントに自動的にダウンロードされます。

※上記以外の OS および Web ブラウザでは、動作が不安定なことがあります。

ヘルパー版ビューワ Ver. 3.20

コンピュータ本体	DOS/V 機または NEC PC98 シリーズ
OS	Windows98SE/MeまたはWindowsNT4.0 (IE 4.0以降必須) /Windows2000/WindowsXP
Web ブラウザ	Netscape Navigator/Communicator4.78 以降、または Microsoft Internet Explorer4.01 以降を推奨

※本機に付属の CD-ROM から事前にインストールする必要があります (→ P.1-4)。



お願い

- WebView Livescope Ver. 3.10 以前のヘルパー版ビューワ、プラグイン版ビューワを利用することもできますが、一部機能が異なります。
Macintosh の場合、WebView Livescope Ver. 1.20 のヘルパー版ビューワは一部機能が制限されます。
- ビューワソフトウェアのマニュアルは、付属の CD-ROM にあります (Mon-J.pdf)。

VB 管理ツール (→ P.4-2)

本機のパノラマ画像を作成し、それを利用して可視範囲やプリセットを視覚的に分かりやすく設定することができるツールです。

コンピュータ本体	DOS/V 機または NEC PC98 シリーズ
OS	Windows98SE/Me または WindowsNT4.0/Windows2000/WindowsXP
Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer5 以降必須

※本機に付属の CD-ROM から事前にインストールする必要があります (→ P.4-4)。

VBCollector (→ P.6-6)

本機に蓄積された静止画を閲覧するためのツールです。

コンピュータ本体	DOS/V 機または NEC PC98 シリーズ
OS	Windows98SE/Me または WindowsNT4.0/Windows2000/WindowsXP
Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer5 以降必須

※本機に付属の CD-ROM から事前にインストールする必要があります。

WebView Livescope MVソフトウェア Ver. 2.0/LE (→ P.1-5)

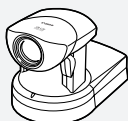
オプションのモニタリング向け専用ビューソフトウェアです。

コンピュータ本体	DOS/V 機 CPU:Pentium III 600MHz 以上推奨 メモリ:128MB 以上 ディスク容量:50MB 以上 (LE : 20MB 以上)
OS	Windows98SE/MeまたはWindowsNT4.0 (SP6.0a以上) /Windows2000 (SP1 以上) /WindowsXP
Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer5 以降必須

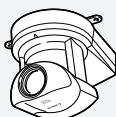
同梱品をお確かめください

本機の箱の中には次のものが入っています。不足品がある場合は、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

1.VB-C10本体（もしくはVB-C10R）

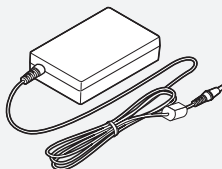


VB-C10本体

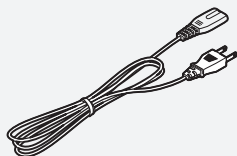


VB-C10R本体

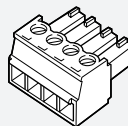
2.ACアダプタ PA-V16



3.AC ケーブル 1m



4. 外部デバイス用プラグ



5.CD-ROM



CD-ROMの内容

Readme（本書以外の注意事項など）
VBIPi.exe（IP設定ツール）
MonSetup.exe（ヘルパー版ビューワ Ver.3.20 インストーラ）
AdmSetup.exe（VB管理ツールインストーラ）
CltSetup.exe（VBCollector インストーラ）
VB-C10-J.pdf（本書PDF）
Mon-J.pdf（ビューワソフトウェアのユーザーズマニュアル）
Sample フォルダ（Sample ページのファイルシステム一式）
LICENSE フォルダ（本機内蔵ソフトウェアのライセンス書類）

6. ユーザーズマニュアル（本書）

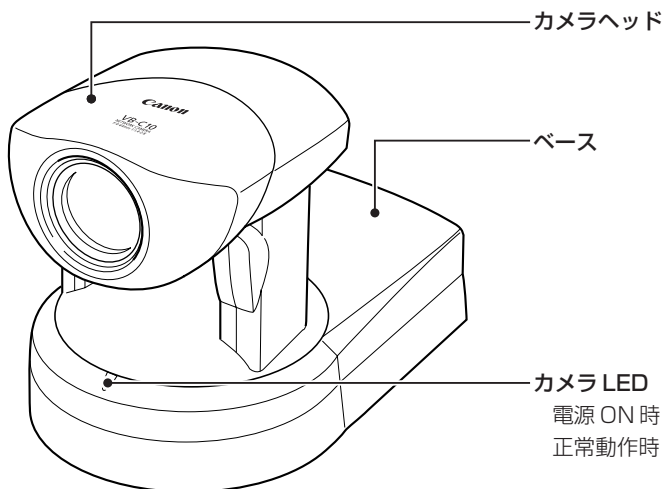
7. 保証書

8. ユーザ登録カード

各部の名称とはたらき

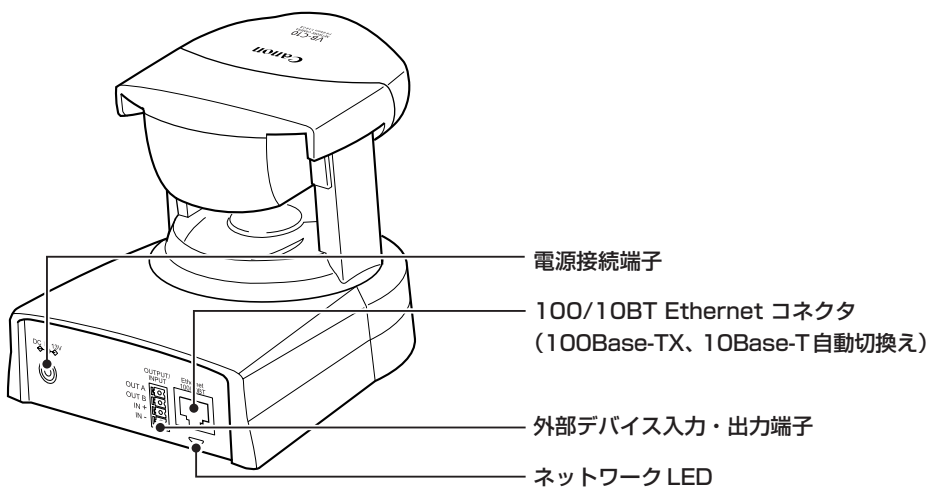
VB-C10

正面



電源 ON 時 緑色で点滅
正常動作時 緑色に点灯

背面



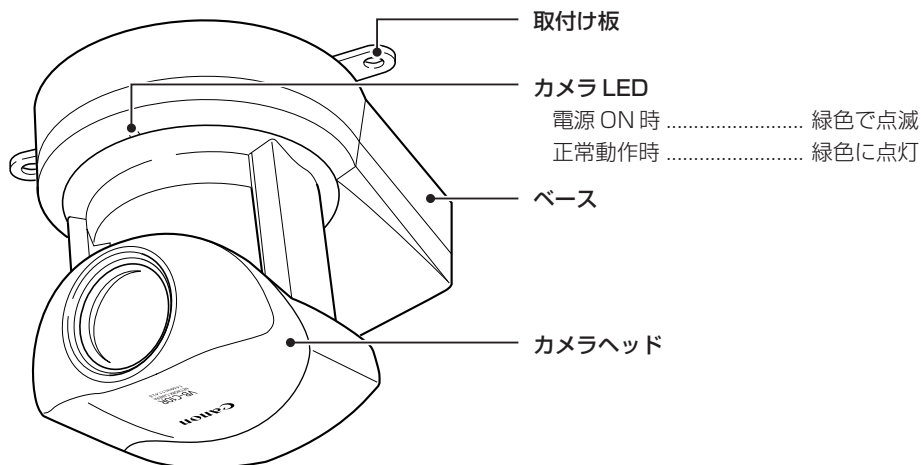
ネットワーク接続時 消灯
ネットワークの切断時 橙色に点灯
100Base-TX で通信中 .. 緑色で点滅
10Base-T で通信中 黄色で点滅

1

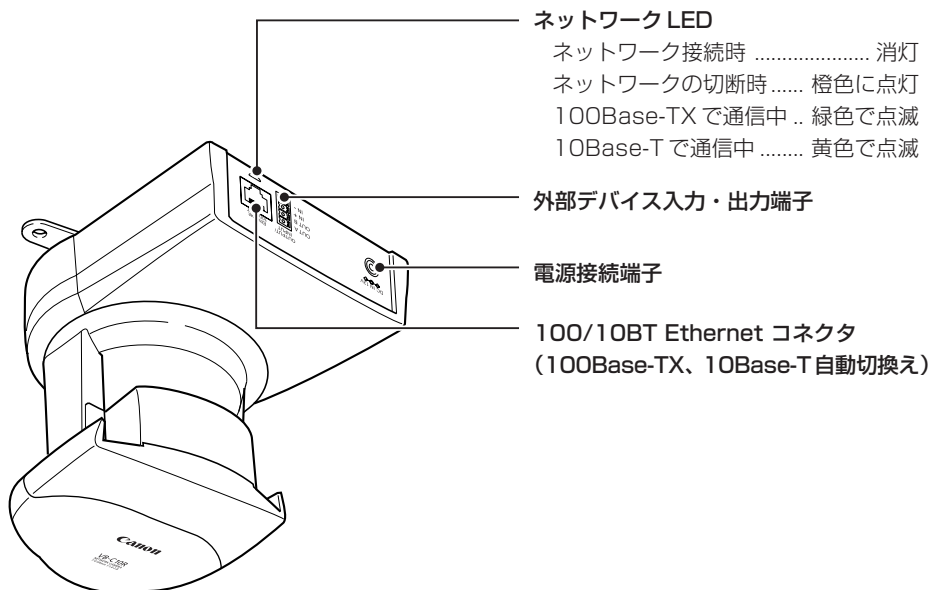
ご使用の前に

VB-C10R

正面



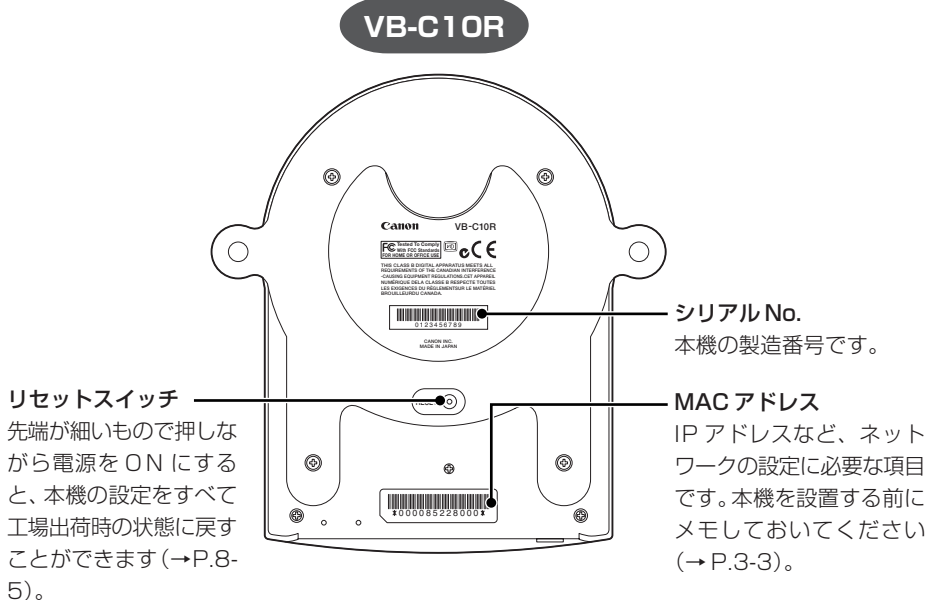
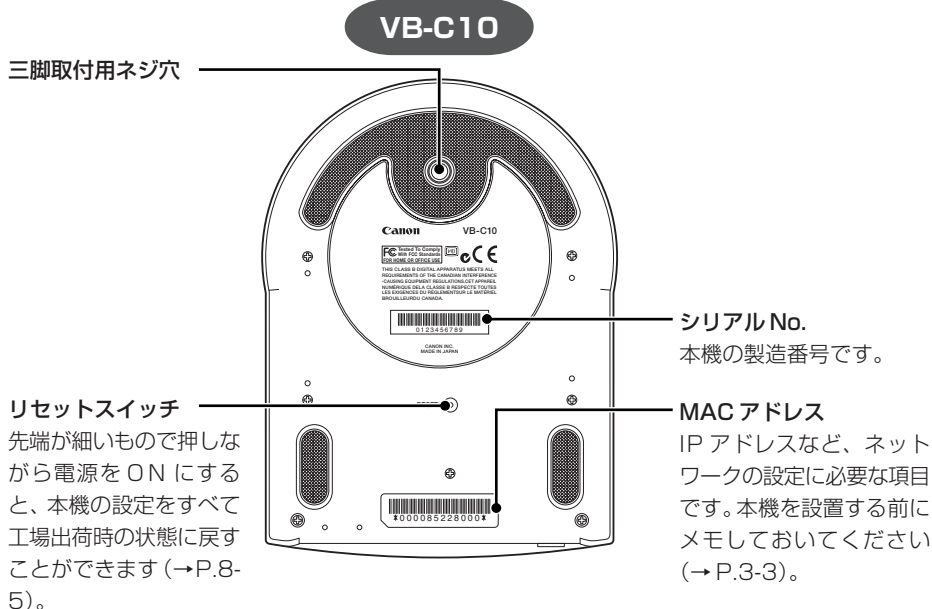
背面



底面

本機の底面には、ネットワーク設定に必要な MAC アドレスや工場出荷時設定に戻すリセットスイッチ、シリアル No. があります。

1
ご使用の前に





設置

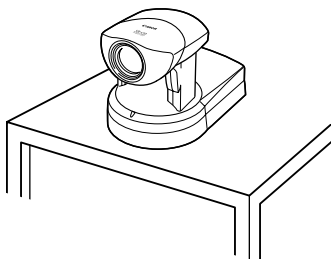
この章では各機器の接続方法やネットワーク構成例について説明します。

ご使用の前に

設置する

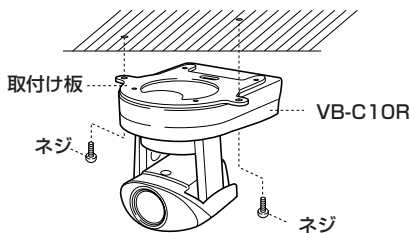
VB-C10の設置

平らで安定したところに置いてご使用ください。



VB-C10Rの設置

ネジ2ヶ（付属されていません）でしっかり固定してください。



(取付け寸法)

- ・ネジ穴間 : 120mm
- ・ネジ穴径 : 直径 6.0mm
- ・取付け板厚 : 1.6mm



警告

設置は確実に行ってください

- 天井に設置する場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 天井への設置は、本体と取付け板を含む重量に充分耐えられる強度があることをお確かめください。充分な強度がないと、落下して大けがの原因となります。
- 1年に1度は、必ず取付け部（およびオプションのワイドコンバータ使用時はワイドコンバータ取付け部）がゆるんでいないか点検してください。



お願い

- 本体の設置角度は水平に対して $\pm 20^\circ$ （VB-C10にオプションのワイドコンバータ使用時は $\pm 15^\circ$ ）です。
- 本機の底面にはネットワークの設定に必要な MAC アドレスが記されています（→P.1-11）。設置する前に、MACアドレスをメモしておくことをおすすめいたします（→P.3-3）。

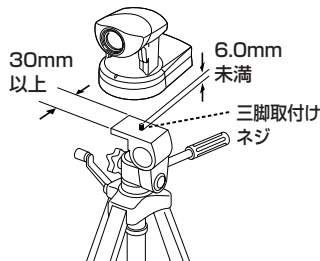
三脚を使う（VB-C10）

三脚取付け用のネジ穴は、本体底面の前寄りにあります。



お願い

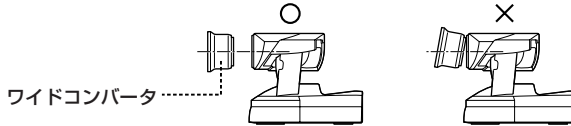
- 取付けネジを強く締め付けしないでください。ネジを強く締め付けすぎると、カメラヘッドが動かなくなるなどの故障の原因になります。
- 三脚は、必ず取付けネジの長さが6.0mm未満のものを使用してください。6.0mm以上のものを使用すると、本体が破損することがあります。また、三脚の台座は直径30mm以上のものを使用してください。



ワイドコンバータを使う (VB-C10)

オプションのワイドコンバータ WL-37 を使用すると、広角撮影（焦点距離約 0.74 倍）ができます。

ワイドコンバータは水平に、正しく装着し、しっかり締めてください。正しく装着すると、ワイドコンバータは約 3 回転して止まります。



警告

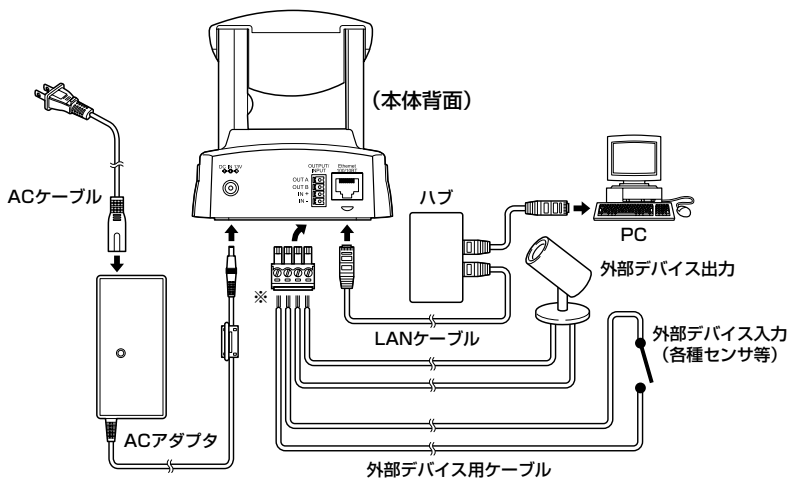
ワイドコンバータ WL-37 は VB-C10 専用です。VB-C10R に取付けて使用することはできません。使用すると、次第に取付け部がゆるみ、落下してけがの原因になります。



お願い

- 専用のワイドコンバータ以外のものを使用すると、正しく動作しない場合があります。
- ワイドコンバータ取付け時の本体の設置角度は、水平に対して $\pm 15^\circ$ です。
- 「カメラの設定」 (→ P.3-11) でワイドコンバータの使用を設定すると、以下の 3 つの機能でパン・チルトの設定値が変わります。ワイドコンバータを使う場合は、先に「カメラの設定」でワイドコンバータの使用を設定してから、パン・チルトの設定値を決めてください。
 - ・ ホームポジション設定 (→ P.3-12)
 - ・ 可視範囲制限設定 (→ P.3-12)
 - ・ プリセット設定 (→ P.3-15)

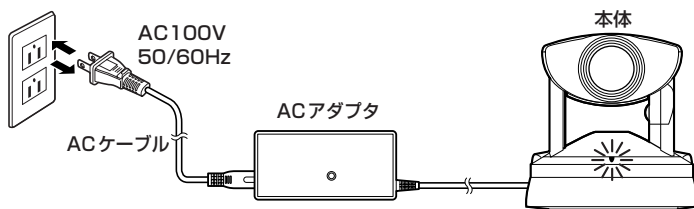
接続する



※外部デバイス用ケーブルは、先端の被覆を剥いて外部デバイス用プラグに差し込み、プラグのネジを締めて固定します。外部デバイスの接続例は、P.6-2を参照してください。

電源の ON/OFF

本機には電源スイッチがありません。ACアダプタの電源プラグを差し込むことで電源ONとなります。電源をONにすると、本機のカメラLEDが緑色に点灯します。



お願い

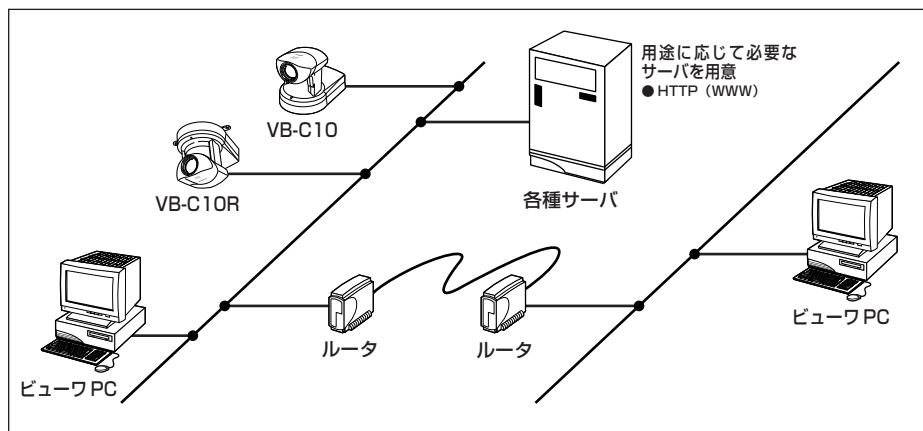
- 電源を OFF から ON にすると、カメラヘッド位置が自動的に初期化されます。
- 初期化動作中は絶対にカメラヘッドに触らないでください。正しく初期化されなかったり、故障の原因になります。
- 電源をOFFにした後、再度ONにする場合は、5秒以上の間隔をけてください。間隔が短いと動作不良の原因となります。また、電源プラグを抜き差しする場合は、「△安全にお使いいただくために・電源に関する注意」(→P.x)を必ず守ってください。
- 映像蓄積機能(→P.3-16)を使っている場合、電源をOFFにしたり、再起動すると映像はすべて消去されます。

ネットワーク構成例

本機の代表的な設置形態について説明します。

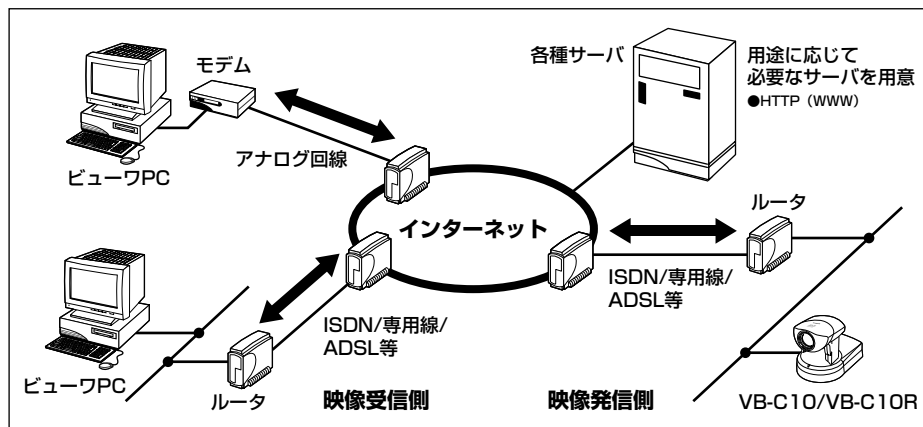
本機には固定の IP アドレスを割り当てて利用してください。

LAN 環境での構成例



本機を Ethernet で LAN 接続するケースです。映像を利用するのは本機と同じ Ethernet セグメントにあるビューワまたは、そのセグメントにアクセスできるビューワです。

ISP 環境での構成例



本機を ISP（インターネットサービスプロバイダ）に接続した環境で利用するケースです。

映像を利用するのは ISP にアクセスできるビューワです。

本機と ISP との間は、双方向の通信ができ、かつ本機では固定の IP アドレスを設定しておくことが必要です。



設定手順

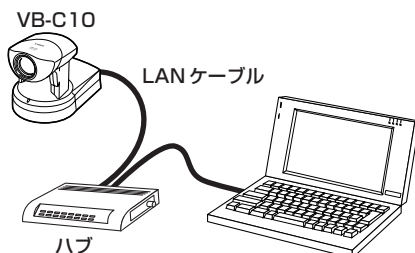
この章では本機の初期設定から動作確認、詳細な設定の方法までを説明します。

可視範囲設定、プリセット設定は、第4章のVB管理ツールを使って設定すると便利です。

初期設定の準備

本機は、初期設定の後、動作確認をすればすぐ使えるようになっています。ここでは下図のように本機 1 台を PC にピア・ツー・ピアで接続する手順を例にして説明します。

設置例



設置手順

1. 上図のように本機とハブ、PC を LAN ケーブル（10Base-T/100Base-TX）で接続する



お願い

この段階では、まだ本機に AC アダプタを接続しないでください。

2. 本機の初期設定を行う（→次ページ）

3. 動作を確認する（→ P.3-6）



お願い

Internet Explorer4.01 以降がインストールされていることを確認してください。

初期設定をする

1. PC の電源を ON にする

この段階では、まだ本機に AC アダプタを接続しないでください。

2. 本機に付属の CD-ROM を PC の CD-ROM ドライブに挿入し、プログラム「VBIPI.exe」を以下の手順で起動する

(1) デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックします。

WindowsXP をお使いのときは、[スタート] ボタン→[マイコンピュータ] の順にクリックします。

(2) 表示された [CD-ROM のアイコン] → [VBIPI.exe] の順にダブルクリックします。

3. 「VB-C10/VB-C10R IP インストーラ」ダイアログが表示されたら、本機に AC アダプタを接続して電源を入れる

本機に電源を入れる方法は、「電源の ON/OFF」(P.2-4) を参照してください。



4. 本機の MAC アドレスと現在設定されている IP アドレスが「VB-C10/VB-C10R IP インストーラ」ダイアログに表示される

表示されている MAC アドレスをクリックして選択してから [IP アドレス設定 ...] ボタンをクリックします。



- 本機の MAC アドレスは本体底面に記されています (→ P.1-11)。
- 工場出荷時には、**192.168.100.1** の IP アドレスが設定されています。お使いの環境に合わせて IP アドレスを設定してください。
- IP インストーラの動作環境は、Internet Explorer 4.01 以降が必須です。

5. 「IP アドレス設定」ダイアログが表示されるので、新しいIP アドレス、ユーザ名、パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

新しいIP アドレス : 192.168.101.7

ユーザ名 : root

パスワード : VB-C10 (出荷時設定)

* 左記の値は設定の例です。

* ユーザ名は変更できません。

* パスワードは、VB-C10/VB-C10R ともに工場出荷時設定で「VB-C10」です。

* パスワードは、「システム / ネットワーク」の設定ページで随時変更可能です (→ P.3-9)。

6. 設定した IP アドレスが表示される

IP アドレスが正常に設定されると、「VB-C10/VB-C10R IP インストーラ」ダイアログに設定した IP アドレスが表示されます。[終了] ボタンをクリックして VBIPI.exe を終了させてください。



お願い

- IP アドレスは説明のために仮に“192.168.101.7”としていますが、実際の IP アドレスはお客様の環境に合わせて変更することが必要です。
- ユーザ名、パスワードは大文字と小文字を区別して正確に入力してください。
- ユーザ名は VB-C10/VB-C10R ともに **root** で固定で、変更できません。
- システムのセキュリティ上、パスワードは定期的に変更するなどして運用されることをおすすめします。
- ネットワークの設定値が不明な場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。
- IP アドレスの設定を中止するときは、「IP アドレス設定」ダイアログの [キャンセル] ボタンを押します。

7. 下記の手順でブラウザを起動してユーザ名とパスワードを入力する

(1) ブラウザを起動して下記の URL を入力します。

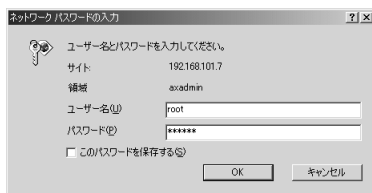
http://192.168.101.7/admin/



(2) ユーザ名とパスワードを入力します。

ユーザ名 : root

パスワード : VB-C10 (出荷時設定)



(3) 設定のタイトルページが表示されます。



以上で初期設定は完了です。

動作を確認する

初期設定が終了したら、本機が正常に動作するかを確認してください。確認はサンプルページで簡単に行えます。

1. Web ブラウザからサンプルページにアクセスする

〈例〉 <http://192.168.101.7/sample/>

IP アドレス (192.168.101.7) は「初期設定をする」(→ P.3-3) でお客様が実際に設定した値を入力してください。



IP アドレスは説明のために仮に“192.168.101.7”としていますが、実際の IP アドレスはお客様の環境に合わせて変更する必要があります。

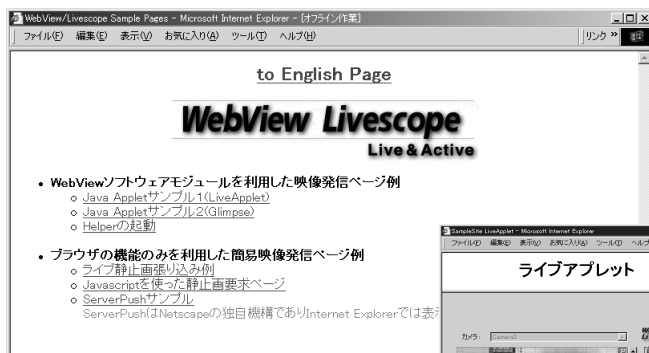
2. 各サンプルページをクリックする

各サンプルページを表示して、映像が表示されれば、正常に動作しています。

*「Helper の起動」はヘルパー版ビューワのインストールが必要です。

同梱の CD-ROM にある [MonSetup.exe] からインストールしてください。

サンプルページ



Java 版ビューワの例



*ビューワに表示されている映像は例です。



パノラマ画像の設定をすることをおすすめします。(→ P.4-7)。

設定のタイトルページへアクセスする

本機のさまざまな設定は、ブラウザによって本機のWebページにアクセスして行います。まずは設定のタイトルページにアクセスします。



お願い

本書では、これ以降のIPアドレス“192.168.100.1”（工場出荷時設定）を用いて設定の説明をします。

実際には、お客様が本機に設定したIPアドレスを入力してください。

1. ブラウザから <http://192.168.100.1/admin> にアクセスする

IPアドレスは「初期設定をする」（→ P.3-3）で設定したものを使用してください。

2. ユーザ名とパスワードを入力する

ユーザ名とパスワードを問われます。工場出荷時設定ではVB-C10/VB-C10Rともに、ユーザ名：root、パスワード：VB-C10となっていますので、それを入力してください。

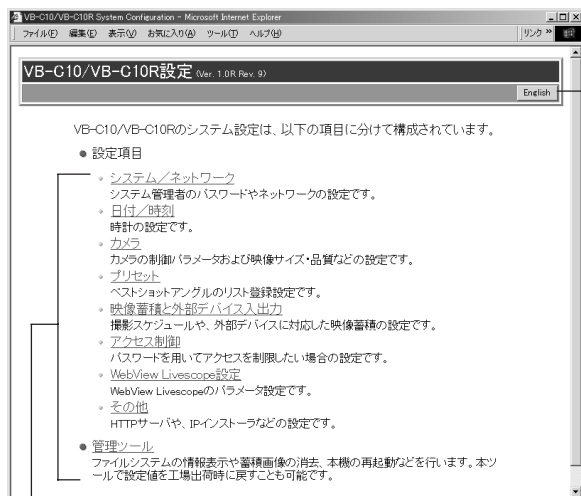
* パスワードは「システム / ネットワーク」の設定ページで随時変更可能です（→ P.3-9）。

設定のタイトルページ

設定のタイトルページ

本機のさまざまな設定は、ブラウザによって本機のWebページにアクセスして行います。この先頭画面では、各設定ページへの移動を行います。

設定のタイトルページ



● [English] ボタン

クリックすると設定ページを英語表示します。その時このボタンは「Japanese」に変わり、クリックすると日本語表示に戻ります。

- 各項目のタイトルをクリックすると、その設定ページが表示されます。



- 各ブラウザのウィンドウを同時に複数立ち上げて、並行して変更操作を行うのは避けてください。
- ブラウザの「戻る」・「進む」ボタンによる設定ページ間の移動は行わないでください。キャッシュの影響により、古い設定ページが表示され、設定値が元に戻ってしまったり、意図しない変更がなされてしまう可能性があります。
- 設定を変更するために、本機を再起動させる必要がある設定項目には、赤いチェックマークが付いています。



- 本機で映像蓄積を行っている場合 (→ P.3-16)、再起動により蓄積された静止画はすべて消去されます (→ P.ix)。

システム / ネットワークの設定ページ

このページは、管理用パスワードとイーサネットに関する設定を行います。

● 管理用パスワード

「パスワード」
パスワードを設定します。8文字以内の半角英大文字 / 小文字・数字・「-」・「_」が使用できます。

「パスワード（確認）」
上と同じパスワードを確認のため入力します。

● イーサネット

「IPアドレス」

本機に割り当てたいIPアドレスを入力します。

「サブネットマスク」

ネットワーク毎に指定されたサブネットマスク値を入力します。

「デフォルトゲートウェイアドレス」

インターネットなど広域ネットワークや、イントラネット内でも異なるセグメントに接続するときには、設定してください。

* IPアドレス・ネットマスク・デフォルトゲートウェイアドレスは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。



お願い

- 本機には固定のIPアドレスを割り当ててください。
- システムのセキュリティ上、管理用パスワードは定期的に変更するなどして運用されることをおすすめします。
- 管理用パスワードを忘れてしまった場合は、リセットスイッチを押して工場出荷時設定に戻してください（→P.8-5）。

設定を変更するには「OK」ボタンをクリックします。変更を行わない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。設定のタイトルページに戻ります。

日付と時刻の設定ページ

ここでは、日付と時刻の設定を行います。

● 日付と時刻

「カメラの現在時刻」

現在、本機に設定されている日付と時刻が表示されます。

「カメラ時刻設定」

「このコンピュータの時刻に合わせる」、「NTPサーバに合わせる」、「以下の時刻に設定する」の3種類の方法で設定できます。

「このコンピュータの時刻に合わせる」

選択すると、Webブラウザで現在本機にアクセスしているコンピュータの時刻に合わせます。

「NTPサーバに合わせる」

選択して、NTPサーバのIPアドレスを入力すると、そのNTPサーバの時刻に合わせます。

「以下の時刻に設定する」

任意の時刻を設定したい場合に選択します。日付の欄には「年・月・日」、時刻は24時間制で「時間:分:秒」と指定します。月、日、時刻は2桁の数字を入力します。たとえば、2002年1月1日午前1時5分9秒は、[2002-01-01]・[01:05:09]と入力してください。

「タイムゾーン」

適切な時間帯をリストから選択してください。



「NTPサーバに合わせる」を選択した場合、NTPサーバのIPアドレスを正しく入力しないと、日付と時刻は変更されません。

設定を変更するには「OK」ボタンをクリックします。変更を行わない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。設定のタイトルページに戻ります。

カメラの設定ページ

ここでは、カメラの制御パラメータおよび映像サイズ・映像品質などを設定します。
可視範囲制限は VB 管理ツールからの設定が便利です（→ P.4-12）。

カメラの設定

カメラ名 (半角英数字) (15文字以内)

カメラ名 (日本語) (15文字以内)

ワイドコンバータ

映像サイズ

映像品質

ホームポジション

☐ 誰も制御機能を持たないときホームポジションに移動する

パン (-100.00～100.00)

チルト (-30.04～90.00)

ズーム (3.36～43.04)

明るさ

シャッタースピード

フォーカスモード

可視範囲制限

☐ 可視範囲制限を適用する

上端

下端

左端

右端

望遠

広角

カメラの設定

「カメラ名（半角英数字）・（日本語）」
WebView Livescopeビューワのカメラ切り替えメニューで用いられます。カメラ名（半角英数字）は必ず入力してください。カメラ名（日本語）が無指定の場合は、カメラ名（半角英数字）が使われます。

「ワイドコンバータ」
カメラにワイドコンバータを装着しているときは、「使用する」を選択してください。

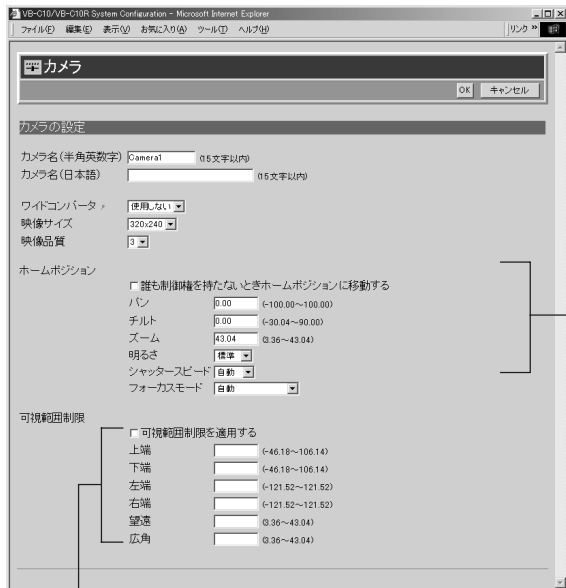
「映像サイズ」
640 × 480、320 × 240、160 × 120のいずれかを選択してください。

「映像品質」
1 ～ 5のいずれかを選択してください。値が大きいくほど、高品質になりますが、映像のデータは大きくなるためフレームレートが低下する事があります。

* VB-C10R では表示されるパン・チルトの値が変わります。



カメラ名（日本語）は、半角・全角に関係なく 1 文字として扱われます。カメラ名（半角英数字）は、Web ブラウザの言語設定が日本語以外の場合に用いられます。



●「可視範囲制限」

「可視範囲制限を適用する」をチェックすると、以下の設定が有効になります。ユーザに見せたくないアングルがある場合は、設定してください。可視範囲制限はVB管理ツールからの設定が便利です（→ P.4-12）。

「上端・下端・左端・右端」

ユーザに提供する視野の範囲を設定します。

* 設定値は上端>下端、左端<右端となるように設定してください。

「望遠・広角」

ユーザに提供するズーム視野角を設定します。

* 設定値は望遠≤広角となるように設定してください。

●「ホームポジション」

起動時のカメラ設定を指定します。「パン」「チルト」「ズーム」は「誰も制御権を持たないときホームポジションに移動する」がチェックされているとき有効になります。

「パン」

カメラのパン位置を設定します。

「チルト」

カメラのチルト位置を設定します。

「ズーム」

カメラのズーム視野角を設定します。

「明るさ」

カメラの自動露出の目標値を設定します。逆光などで映像が暗くなる場合は「明るく」を選択します。

「シャッタースピード」

カメラのシャッタースピードを設定します。自動、1/60、1/100から選択します。

「フォーカスモード」

カメラの合焦モードを設定します。

“自動”、“自動（ドーム対応）”、“無限遠に固定”のいずれかを選択します。本機を屋外ハウジングと組み合わせてご利用になる場合、フォーカスモードを“自動（ドーム対応）”に設定すると、屋外ハウジング壁面への合焦を防ぐことができます。

設定を変更するには [OK] ボタンをクリックします。変更を行わない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。設定のタイトルページに戻ります。

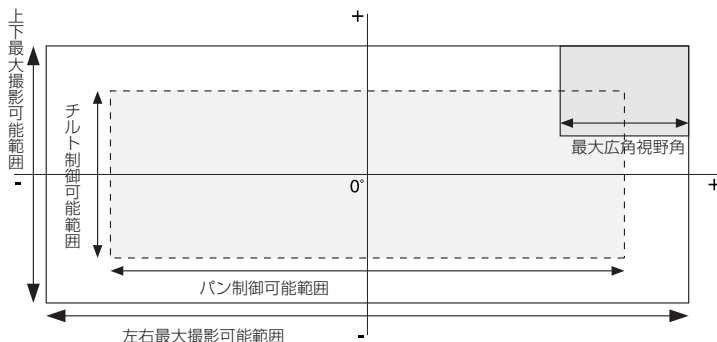


可視範囲制限は、VB管理ツールから、より容易に視覚的な設定が行えます。設定にはVB管理ツールをご使用ください（→ P.4-12）。

可視範囲制限の設定内容

カメラのパン、チルト、ズーム倍率（視野角）を制限することで、可視範囲を設定できます。

■制御可能範囲と撮影可能範囲



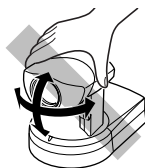
可視範囲制限は撮影範囲として指定します。撮影可能な範囲は、パン・チルト制限可能な範囲より広くなります。



お願い

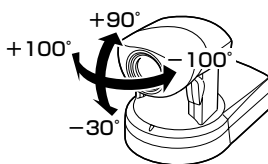
カメラヘッドの向きを手で変えないでください。

カメラヘッドの向きを誤って手で変えたり、ものなどが当たったりしてカメラヘッドが直接動いてしまった場合は、必ず一度電源をOFF/ONにし再起動してください。本機が記憶しているパン/チルト位置と、実際のパン/チルト位置のずれがなくなり、正常に動作するようになります。

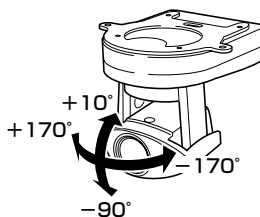


カメラヘッドの動作範囲

カメラヘッドの水平位置からの動作範囲を示します。



VB-C10



VB-C10R



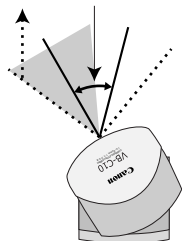
メモ

可視範囲制限について

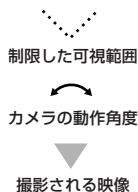
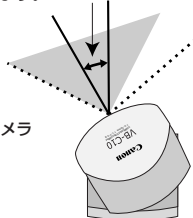
- パンおよびチルトの範囲はズーム倍率（視野角）によって変わります。

可視範囲制限を設定すると、自動的にカメラの動作角度が制限されます。

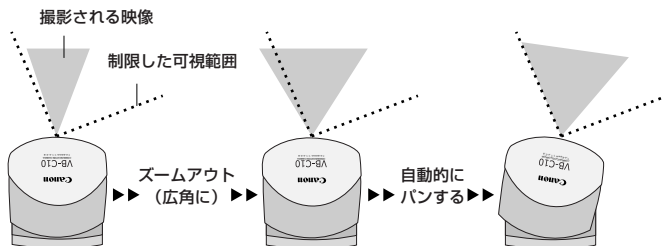
広角にした場合、カメラの動作角度がそのままだと、可視範囲を越えて撮像してしまうので、自動的に動作角度は小さくなります。



カメラ



ズームを広角側に制御することで、可視範囲を越えてしまう場合は、自動的にカメラの向き（パン・チルト）が調整されます。



- 可視範囲を狭くするとそれに伴ってズームの範囲も狭くなることがあります。

プリセットの設定ページ

このページでは、ユーザに提供したいベストショットをプリセットとして事前に設定します。プリセット設定は、VB 管理ツールからの設定が便利です (→ P.4-17)。

The screenshot shows the 'VB-C101/VB-C10R System Configuration' window. The 'プリセット' (Preset) tab is active. It contains a 'プリセット共通設定' (Common Preset Settings) section with a checkbox for 'カメラ制御をプリセットに制限する' (Limit camera control to presets). Below this are three preset configuration sections: 'プリセット 1', 'プリセット 2', and 'プリセット 3'. Each section has a '適用範囲' (Scope) dropdown, two text fields for 'プリセット名' (Preset Name) in English and Japanese (with a 15-character limit), and a 'カメラパラメータ' (Camera Parameters) section with input fields for 'パン' (Pan), 'チルト' (Tilt), 'ズーム' (Zoom), and '明るさ' (Brightness), each with a range indicator and a '検索' (Search) button.

●プリセット共通設定

「カメラ制御をプリセットに制限する」ヘルパー版ビューおよびJava版ビューフによる本機のカメラ制御をプリセット設定したアングルのみに制限できます。

●プリセット1～8

プリセットは最大 8 件が設定できます。

「適用範囲」このプリセットを映像蓄積機能 (→ P.3-16) のみに適用するか、WebView Livescopeビューフにも提供するかをチェックしてください。WebView Livescopeビューフにも提供する場合、半角英数字でのプリセット名は必ず設定してください。日本語での設定が無い場合は、半角英数字のプリセット名で代用されます。

「プリセット名 (半角英数字)」15文字以内の半角英数字で名づけてください。

「プリセット名 (日本語)」15文字以内の日本語表記で名づけてください。半角英数字が含まれた場合でも1文字と数えられます。

「カメラパラメータ」「パン」「チルト」でセットしたいアングルの中心の角度を入力してください。「ズーム」は視野角を入力してください。

「パン」カメラのパン位置を設定します。

「チルト」カメラのチルト位置を設定します。

「ズーム」カメラのズーム視野角を設定します。

「明るさ」カメラの自動露出の目標値を設定します。逆光などで映像が暗くなる場合は、「明るく」を選択します。

設定を変更するには [OK] ボタンをクリックします。変更を行わない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。設定のタイトルページに戻ります。



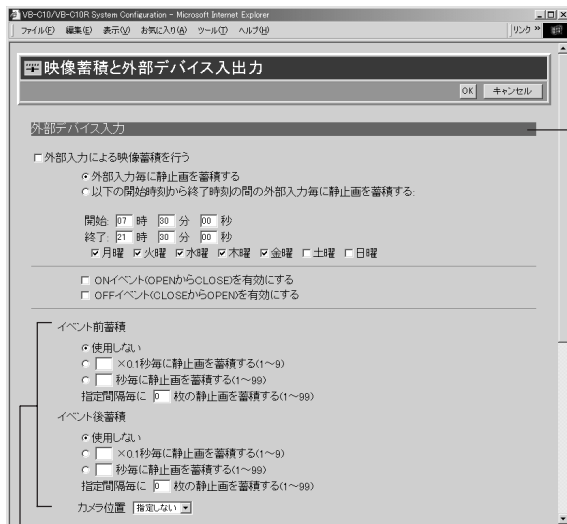
プリセットの設定変更は、接続中のビューフには適用されません。



プリセット設定は、VB 管理ツールから、より容易に視覚的な設定が行えます。設定には VB 管理ツールをご使用ください (→ P.4-17)。

映像蓄積と外部デバイス入出力の設定ページ

このページでは、映像蓄積機能の運用方法を設定します。外部デバイス（センサなど）からの入力や、事前に設定したスケジュールに基づいて静止画蓄積を行う事ができます。くわしい運用事例は「第6章 映像蓄積機能の運用」を参照してください。



外部デバイス入力

「外部入力による映像蓄積を行う」
外部デバイスから入力があった際に、映像蓄積を行う場合はチェックします。

「外部入力毎に静止画を蓄積する」
「以下の開始時刻から終了時刻の間の外部入力毎に静止画を蓄積する」
外部デバイスから入力があった際にいつでも映像蓄積を行う場合は「外部入力毎に静止画を蓄積する」を選択します。特定の期間だけ映像蓄積を行いたい場合は、「以下の開始時刻から終了時刻の間の外部入力毎に静止画を蓄積する」を選択し、開始時刻や曜日を設定してください。

「開始」「終了」
映像蓄積を開始する時刻と終了する時刻を設定します。

*「開始」と「終了」は同じ時刻に設定できません。

「曜日」
映像蓄積を行いたい曜日をチェックします。ここでチェックされた曜日で先ほど設定した「開始時刻」「終了時刻」に映像を蓄積します。

「ONイベント（OPENからCLOSE）を有効にする」
外部デバイスから“ON”入力があったときに映像を蓄積します。

「OFFイベント（CLOSEからOPEN）を有効にする」
外部デバイスからの“ON”入力が“OFF”になったときに映像を蓄積します。

「イベント前蓄積」／「イベント後蓄積」

外部デバイスからの入力の前後にどう映像を蓄積するかを設定します。外部デバイスから入力前に画像を蓄積する「イベント前蓄積」と、入力後に画像を蓄積する「イベント後蓄積」があり、少なくともどちらか一方は必ず確認してください。

「イベント前蓄積」、「イベント後蓄積」とも、使用する場合は、画像を蓄積する間隔を1秒単位か、0.1秒単位で指定し、蓄積する枚数を入力します。

「カメラ位置」

イベント後蓄積で映像蓄積を行う際のアングルを選択します。指定しない・プリセット1～8（→P.3-15）から選択してください。



お願い

- 映像蓄積を行う場合、本機の電源をOFFにしたり、再起動すると、蓄積された映像はすべて消去されます（→P.viii）。
- 本機の稼働状況などにより、設定した間隔および枚数通りに蓄積出来ない場合があります。事前に実際の稼働状況でご確認ください。



メモ

- 外部デバイスのON/OFFと映像蓄積の関係を参照してください（→P.3-18）。
- 映像蓄積を行う場合、蓄積された映像の自動収集を行うVBCollectorと組み合わせると便利です（→P.6-6）。

スケジュール

スケジュールによる映像蓄積を行う

○ ☐ 秒毎に静止画を蓄積する(1~59)

○ ☐ 分毎に静止画を蓄積する(1~59)

○ ☐ 時間毎に静止画を蓄積する(1~24)

カメラ位置 [指定しない]

静止画取得待ち時間(秒) 0 (0~10)

外部デバイス名

外部デバイス入力名(半角英数字) (15文字以内)

外部デバイス入力名(日本語) (15文字以内)

外部デバイス出力名(半角英数字) (15文字以内)

外部デバイス出力名(日本語) (15文字以内)

● スケジュール

「スケジュールによる映像蓄積を行う」
チェックすると、以下で設定した間隔で映像を蓄積します。設定できる間隔は1~59秒おき・1~59分おき・1~24時間おきです。

「カメラ位置」

映像蓄積を行う際のアングルを選択します。指定しない・プリセット1~8(→P.3-15) から選択してください。

「静止画取得待ち時間」

カメラ動作の安定を考慮して、ここで設定する時間 waited から、静止画取得を行います。最大は10秒で、0~10の整数を入力します。

● 外部デバイス名

WebView LIVESCOPE MVで用いられる外部デバイス入力・出力の名前を設定します。外部デバイス入力名、外部デバイス出力名ともデバイス名を半角英数字と日本語(漢字可)で設定できます。デバイス名(半角英数字)は必ず入力してください。デバイス名(日本語)が無指定の場合はデバイス名(半角英数字)が使われます。

* 外部デバイス入力による映像蓄積とスケジュールは併用できません。



お願い

- 蓄積に使用できるメモリ領域は最大約5MBです。空領域は管理ツールの設定ページ(→P.3-22)で確認できます。
- 本機の電源をOFFにしたり、再起動すると、蓄積された映像は消去されます。蓄積された映像の収集にはVBCollectorをご使用ください(→P.6-6)。
- 蓄積された映像の上書きはされません。蓄積映像の領域(最大約5MB)が一杯になった場合には、映像蓄積を停止します。蓄積映像の消去は「管理ツール(→P.3-22)で行えます。
- デバイス名(日本語)は、半角・全角に関係なく1文字として扱われます。

設定を変更するには[OK]ボタンをクリックします。変更を行わない場合は[キャンセル]ボタンをクリックします。設定のタイトルページに戻ります。



メモ

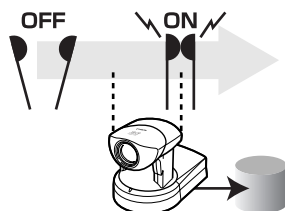
静止画像1枚あたりのデータ容量は、映像サイズ・映像品質の設定値(→P.3-11)や撮る対象物により異なります。ご参考として映像サイズ320×240、映像品質3とした場合、約5~10KBが目安です(これを超える場合があります)。静止画像1枚あたりのデータ容量を確認するには、ヘルパー版ビューワを起動後、メニューから「表示」-「動画情報」を選択し、サイズ(容量)をご確認ください。



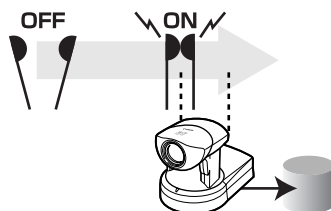
外部デバイスの ON/OFF と映像蓄積の関係



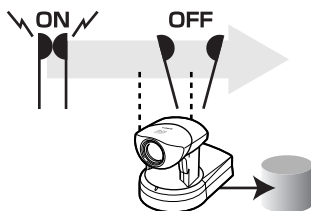
- 外部デバイスによる映像蓄積は、ON/OFFイベント前後に映像蓄積を行うことができます。



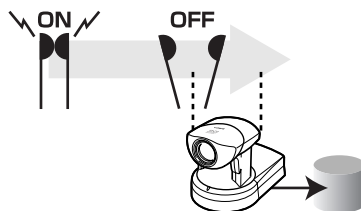
A : ON イベントのイベント前蓄積



B : ON イベントのイベント後蓄積



C : OFF イベントのイベント前蓄積



D : OFF イベントのイベント後蓄積

- A と C はイベント前蓄積時間、B と D はイベント後蓄積時間で制御されます。

アクセス制御の設定ページ

このページでは、特定のユーザのみに本機へのアクセスを許可します。制限されたクライアントはアクセスが禁止されます。

● 許可ユーザアカウント

「許可ユーザリスト」
このリストに登録されたアカウントのみが、
本機への接続を許可されます。20ユーザまで
登録可能です。

「削除」
ユーザアカウントを選択して、削除ボタン
をクリックするとリストから削除されま
す。

「追加」
アカウント名とパスワードを入力すると、
リストに許可ユーザを追加する事ができま
す。

「これらのユーザのみにアクセスを許可する。」
この項目がチェックされていると、リストに
登録されているユーザのみに本機への接続が
許可されます。

設定を変更するには [OK] ボタンをクリックします。変更を行わない場合は
[キャンセル] ボタンをクリックします。設定のタイトルページに戻ります。

WebView Livescope 設定の設定ページ

このページでは、同時クライアント数やフレームレート、カメラ制御時間などの設定を行います。

- 「ユーザへのサービス時間を設定する」
WebView Livescope ビューワへの映像配信時間を設定したい場合、この項目にチェックをつけ、開始時刻と終了時刻を設定してください。
管理者ビューワでは、設定された時間以外でも接続し、映像を表示することができます (→ P.4-24)。

● WebView Livescope

「映像送信ポート」

WebView Livescope ビューワとの間で使用する TCP ポート番号を設定します。1 ～ 65535 までの整数を入力します。デフォルトは 65310。

「カメラ制御ポート」

WebView Livescope ビューワとの間で使用する TCP ポート番号を設定します。1 ～ 65535 までの整数を入力します。デフォルトは 65311。

「最大クライアント数」

WebView Livescope ビューワから同時に接続できるクライアントの最大数を設定します。1 ～ 20 の整数を入力します。

「最大制御権待ち数」

WebView Livescope ビューワからカメラ制御権の要求を受け付けるクライアント数を設定します。最大数は 20 で、0 ～ 20 の整数を入力します。0 のときは管理者ビューワ以外のカメラ制御は禁止されます。

「最大フレームレート」

1 秒間にキャプチャする最大フレームレートを設定します。
最大 30 フレーム / 秒で、0.1 ～ 30.0 の数値を入力します。

「映像接続時間」

WebView Livescope ビューワからの最大持続時間を設定します。最大 65535 秒で、0 ～ 65535 の整数を入力します。0 は時間の制限を行いません。

「カメラ制御時間」

WebView Livescope ビューワからカメラ制御ができる最大時間を設定します。最大は 3600 秒で、1 ～ 3600 の整数を入力します。

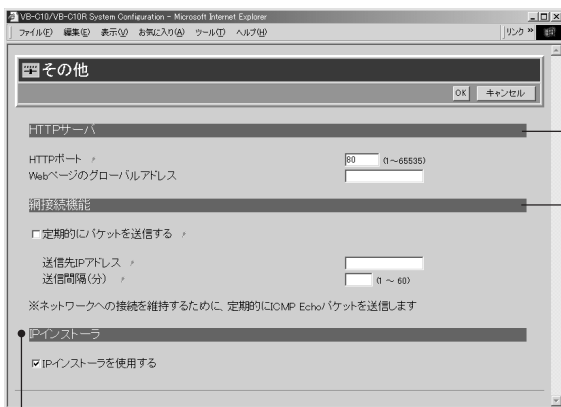
「静止画取得待ち時間」

GetStillImage コマンド (→ P.5-24) では、カメラ動作の安定を考慮して、ここで設定する時間を待ってから、静止画取得を行います。最大は 10000 ミリ秒で、0 ～ 10000 の整数を入力します。

設定を変更するには [OK] ボタンをクリックします。変更を行わない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。設定のタイトルページに戻ります。

その他の設定ページ

このページでは、その他の各種設定を行います。



IP インストラ

「IP インストラを使用する」

チェックすると、本機付属のCD-ROMに収録されているプログラム「VBIPL.exe」で、本機のIPアドレスを設定できるようになります（→P.3-3）。出荷時設定ではチェックが付いています。

HTTPサーバ

「HTTP ポート」

HTTP のTCP ポート番号を設定します。1～65535の整数を入力します。通常は80番を利用します。

「Web ページのグローバルアドレス」

本機にプライベートアドレスを設定し、ルータのNAT機能を利用して固定のグローバルアドレスを本機に対応付けて利用するような場合（→P.5-26）、ここにグローバルアドレスを記載しておく、サンプルページ（→P.5-6）を閲覧することができます。

接続機能

「定期的にパケットを送信する」

チェックすると、ネットワークとの接続が切れないように、指定したアドレスへ向けて定期的にICMP Echo パケットを送信します。

「送信先 IP アドレス」

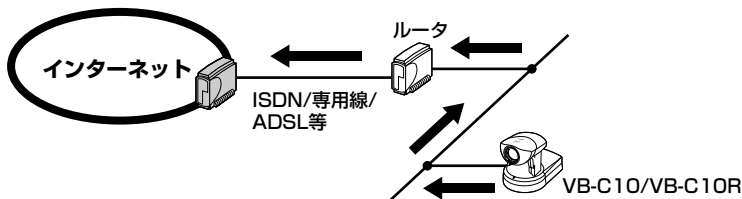
パケットの送信先になるホストのIPアドレスを入力します。

「送信間隔（分）」

パケットを送信する間隔を分単位で指定します。1～60の整数を入力します。

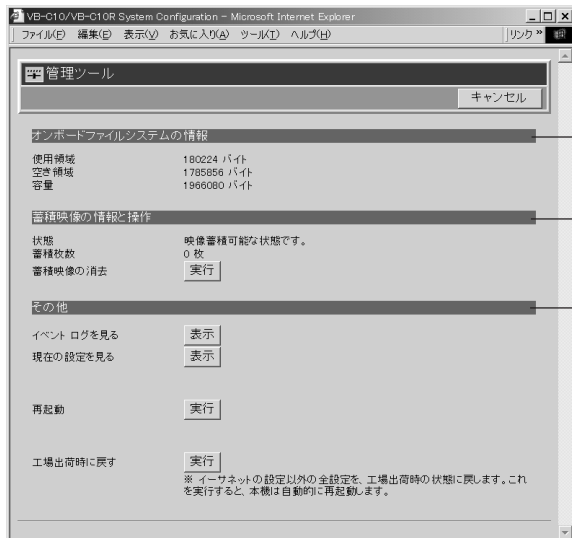


接続機能のパケット送信先は、トラフィックへの影響を考慮し、ダイヤルアップルータやブロードバンドルータの先にある最寄りのIPアドレスを設定することを推奨します。



設定を変更するには「OK」ボタンをクリックします。変更を行わない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。設定のタイトルページに戻ります。

管理ツールの設定ページ



● オンボードファイルシステムの情報

オンボードファイルシステムの、使用領域・空き領域・容量（使用領域＋空き領域）がバイト単位で表示されます。

● 蓄積映像の情報と操作

蓄積映像の状態と、蓄積済み枚数が表示されます。また、蓄積映像の消去を行う[実行]ボタンにより、蓄積済みの映像をすべて消去することができます。

● その他

「イベント ログを見る」
[表示] ボタンをクリックすると、本機の動作およびビューワなどの接続の履歴を表示します。

「現在の設定を見る」
[表示] ボタンをクリックすると、現在の設定値を一覧表示します。

「再起動」
本機を再起動します。

「工場出荷時に戻す」
[実行] ボタンをクリックすると、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスなど、ネットワーク関連を除く本機の設定を工場出荷時の状態に戻します。



お願い

オンボードファイルシステムの空き領域には、内部の作業用領域が含まれており、空き領域が100KB 前後になると、ファイルを書き込めなくなることがあります（→ P.5-8）。



メモ

本体裏面のリセットスイッチを押すと、IP アドレスを含めたすべての設定が工場出荷時に戻ります（→ P.8-5）。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、設定のタイトルページに戻ります。

4

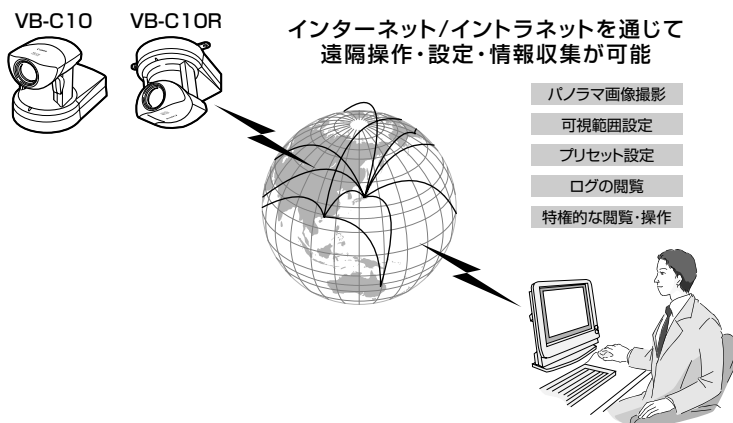
VB 管理ツール

この章ではVB 管理ツールを使ったパノラマ作成、可視範囲設定、プリセット設定、ログの閲覧、管理者ビューワの操作方法を説明します。可視範囲設定およびプリセット設定は、第3章で説明した方法でも可能ですが、VB 管理ツールを使う方が、より視覚的で分かりやすく容易に設定することができます。

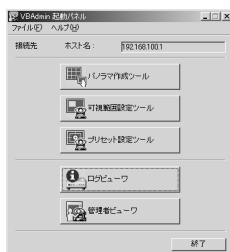
VB 管理ツールの概要

VB 管理ツールは、本機の管理・運営を容易にするためのアプリケーションです。

VB管理ツールは「VBAdmin起動パネル」およびそこから起動できる「パノラマ作成ツール」「可視範囲設定ツール」「プリセット設定ツール」「ログビューワ」「管理者ビューワ」の各アプリケーションで構成されています。イントラネット/インターネットを通じて、遠隔から本機の設定や特権的な映像閲覧、動作状況の確認などが簡単に行えます。



VBAdmin 起動パネル (→ P.4-4)



VB管理ツールのメインパネルです。ここから各ツールが起動できます。最初に VB 管理ツールのインストールを行ってください。

パノラマ作成ツール (→ P.4-7)



パノラマ画像の撮影・作成ツールです。

可視範囲設定ツール (→ P.4-12)



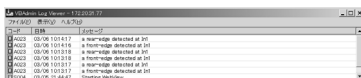
可視範囲設定を、より視覚的に、容易に行うことのできるツールです。パノラマによるプレビューを参照しながら、マウス操作での範囲設定が行えます。

プリセット設定ツール (→ P.4-17)



プリセット設定を、より視覚的に、容易に行うことのできるツールです。パノラマによるプレビューを参照しながら、マウス操作での設定が行えます。

ログビューワ (→ P.4-22)



本機に出力された動作状況のログを閲覧できるビューです。

管理者ビューワ (→ P.4-24)



本機の管理者向けビューワで、ヘルパー版ビューワ / Java版ビューワにはない特権的な機能があります。可視範囲やプリセットを設定する際に利用します。

VB 管理ツールのインストール

本機に付属の CD-ROM を使って VB 管理ツールをインストールします。



VB 管理ツールは、Internet Explorer 5以降がインストールされていることが必要です。

1. PC の電源を ON にする

すでに PC の電源が ON になっていて、Windows が起動している場合は、VB 管理ツールのインストールをはじめる前に他のアプリケーションを終了させてください。

2. 本機に付属の CD-ROM を PC の CD-ROM ドライブに挿入し、以下の手順を行う

(1) デスクトップの [マイコンピュータ] をダブルクリックします。

WindowsXP をお使いのときは、[スタート] ボタン→ [マイコンピュータ] の順にクリックします。

(2) 表示された [CD-ROM のアイコン] → [AdmSetup.exe] の順にダブルクリックします。



AdmSetup.exe

3. 画面の指示に従ってインストール作業を行う



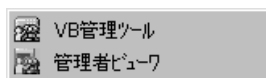
4. インストールを完了する

インストールが完了すると、デスクトップには「VB 管理ツール」と「管理者ビュー」の 2 つのアイコンが作成されます。



VB管理ツール 管理者ビュー

また、[スタート] メニューから [プログラム] → [Webview Livescope] を選択すると、同様に 2 つのショートカットが作成されています。



VB 管理ツールを起動する

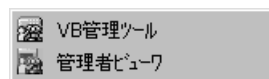
VB管理ツールは、デスクトップに作られたアイコンまたはスタートメニューから選択して起動することができます。

起動のしかた

1. VBAdmin 起動パネルから各ツールを起動する場合はデスクトップ上の「VB 管理ツール」アイコンをダブルクリックする



または、[スタート] メニューから [VB 管理ツール] を選択します。



2. VB 管理ツールを起動すると、「接続先サーバの指定」ダイアログが表示される

VB 管理ツールを利用するには、まず本機へ接続する必要があります。各項目を入力して [OK] ボタンをクリックします。



接続先サーバの指定

サーバ情報	ホスト名:	192.168.100.1
	管理者アカウント:	root
	管理者パスワード:	*****
	HTTPポート番号:	80
設定用URL	http://192.168.100.1 / admin	
プロキシ	<input type="checkbox"/> HTTPプロキシサーバを経由する	
	ホスト名:	
	ポート番号:	8080
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>		

●ホスト名

本機の IP アドレスまたはホスト名を指定します。

●管理者アカウント：root

本機に設定されている管理者アカウントは「root」で変更できません。

●管理者パスワード

P.3-9 で設定した管理者パスワードを入力します。工場出荷時の設定は VB-C10/VB-C10R とともに「VB-C10」です。

●HTTP ポート番号

本機に設定されている HTTP ポート番号を入力します工場出荷時の設定は 80 番です。

●設定用 URL：admin

本機に設定されている管理者用 URL は「admin」で変更できません。

●プロキシ

プロキシの設定については、ネットワーク管理者にご確認ください。

【HTTP プロキシサーバを経由する】

プロキシサーバを経由して本機に接続する場合、チェックします。

【ホスト名】

プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。

【ポート番号】

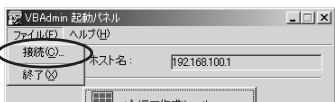
プロキシサーバのポート番号を入力します（デフォルトは 8080 番）。

3. VBAdmin 起動パネルが起動する

起動パネルから各ツールのボタンをクリックして「パノラマ作成ツール」「可視範囲設定ツール」「プリセット設定ツール」「ログビュー」「管理者ビュー」の5つのツールを起動することができます。



VBAdmin 起動パネルが起動後に接続が切断された場合などには、「ファイル」メニューから「接続」を選択すると「接続先サーバの指定」ダイアログが表示されます。



メモ

- 「パノラマ作成ツール」「可視範囲設定ツール」「プリセット設定ツール」はそれぞれ同時に起動することはできません。「ログビュー」と「管理者ビュー」は同時に起動することが可能です。
- プロキシサーバを経由して本機に接続した場合、「パノラマ作成ツール」「ログビュー」「管理者ビュー」は使用できません。

パノラマ作成ツール

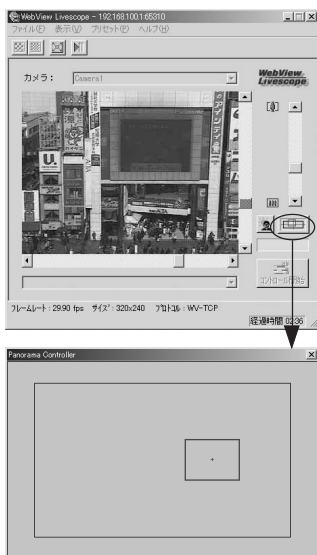
パノラマ作成ツールは、本機のパノラマ画像を撮影・作成するためのツールです。作成しておくと、ビューワからアクセスした際に、パノラマ画像を表示することができます。



4

VB管理ツール

パノラマ画像なしの場合

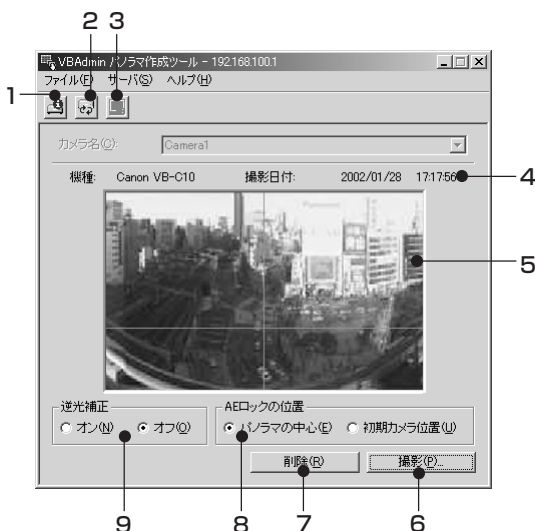


パノラマ画像ありの場合



パノラマ作成ツールの表示画面について

パノラマ作成ツールを起動して表示された GUI の機能の概要を説明します。



1 【接続情報の表示】 ボタン

本機の接続情報をダイアログに表示します。

2 【カメラ情報の再取得】 ボタン

カメラ情報およびパノラマ情報を再取得します。本ツール起動以降に本機の設定を変更した場合、最新の情報を取得できます。

3 【パノラマ画像の更新】 ボタン

撮影したパノラマ画像を本機に送信し、パノラマ画像の更新を行います。

4 撮影日付表示

パノラマ画像が撮影済みの場合にその撮影された日付を表示します。

5 パノラマ画像表示

撮影されたパノラマ画像を表示します。

6 【撮影】 ボタン

パノラマ画像を撮影します。

7 【削除】 ボタン

パノラマ画像を削除します。

8 AE ロックの位置切り替え

AE ロックの位置を「パノラマの中心」または「初期カメラ位置」に切り替えます。AE ロックは設定した位置の明るさを基準にして撮影を行う機能です。

9 逆光補正切り替え

逆光補正を行います。映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。



パノラマ画像表示はカメラの機種によって撮影可能範囲が異なるため、表示範囲も異なります。



VB-C10 のパノラマ画像



VB-C10R のパノラマ画像

パノラマ画像を撮影する



可視範囲設定 (→P.3-12) を行っている、ビューワから本機にアクセスして映像を表示していると、パノラマ画像撮影中は撮影可能な全領域を撮影・表示してしまうので、第3者に本来は見せたくない映像を見せてしまう可能性があります。パノラマ画像の撮影・表示を行う際は、十分に配慮してください。

撮影のしかた

1. AE ロックの位置および逆光補正の設定を確認して、[撮影] ボタンをクリックする



2. 撮影が開始される

途中で撮影を中止したい場合は「中断」ボタンをクリックします。



3. 撮影が完了し、その画像でよければ [OK] ボタンをクリックする

撮影をとりやめる場合や、AE ロックの位置および逆光補正を再度設定し直す場合は [キャンセル] ボタンをクリックすると、撮影した画像を破棄して初期画面に戻ります。

撮影し直す場合は [再撮影] ボタンをクリックします。また、表示された格子の各部分をダブルクリックすると、その部分のみ再撮影することができます。



パノラマ画像を更新 / 削除する

撮影が完了したら、本機に送信してパノラマ画像を更新することで、画像が反映されます。

更新のしかた

[パノラマ画像の更新] ボタンをクリックする。
または「サーバ」メニューから「パノラマ画像の更新」を選択する

パノラマ画像の更新が終了すると、本機は自動的に再起動を行い、VB 管理ツールとの接続を中止します。再起動後に再び本機と接続するかを問うダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、再接続します。パノラマ作成ツールは再接続したままで終了しても、再接続しないで終了しても構いません。



削除のしかた

[削除] ボタンをクリックし、[パノラマ画像の更新] ボタンをクリックする。

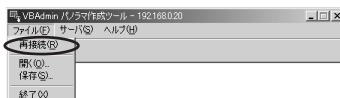
本機に保存されたパノラマ画像が削除されます。



再接続する

本機との接続が中断された場合、再接続を行います。

「ファイル」メニューから「再接続」を選択すると、本機に再接続します。

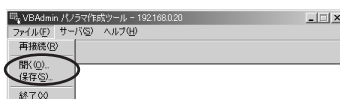


画像を開く / 保存する

パノラマ画像を画像ファイルから取り込む、画像ファイルとして出力することができます。

画像ファイルを取り込んで、パノラマ画像に使用する場合、**「ファイル」メニューから「開く」を選び、表示されたダイアログで、使用したい画像ファイルを選択します。**
 撮影したパノラマ画像を画像ファイルとして保存する場合は、**「ファイル」メニューから「保存」を選び、表示されたダイアログで、保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力します。**

ともに扱える画像ファイルは JPEG 形式のみです。



4

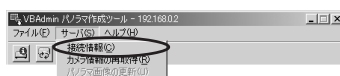
VB管理ツール

接続情報を表示する

接続中の本機との、接続情報を表示します。

「サーバ」メニューから「接続情報」を選択すると、接続情報を表示するダイアログが表示されます。

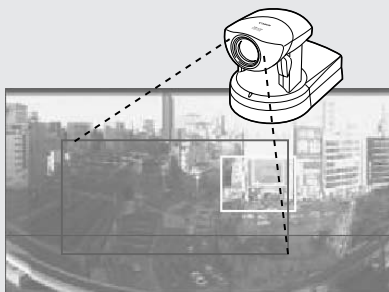
ホスト名は本機に設定した IP アドレスが表示されます (→ P.3-9)。映像ポート番号とカメラ制御ポート番号は P.3-20 で、また、HTTP ポート番号は P.3-21 で、それぞれ設定した値が表示されます。



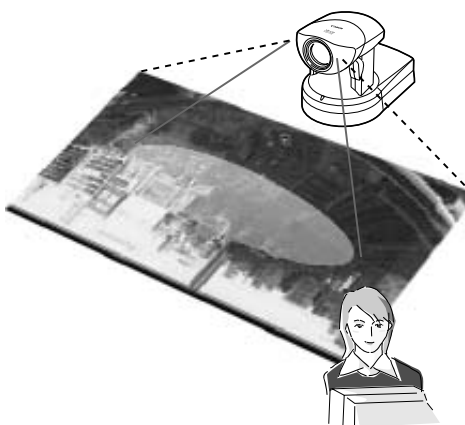
パノラマ作成ツールの起動時は、映像サイズ (→ P.3-11) が自動的に 160 × 120 になります。パノラマ作成ツールを終了すると、もとの設定サイズに戻ります。

可視範囲設定ツール

可視範囲設定ツールは、本機の可視範囲設定機能をより容易に、視覚的に設定するためのツールです。パノラマ画像を参照しながら、マウスでのドラッグなどで簡単に範囲設定が行えます。



例えば、
観光名所のライブ映像を公開したい
が、ズームに制限をかけたい。
→可視範囲設定ツールで可視範囲を
設定

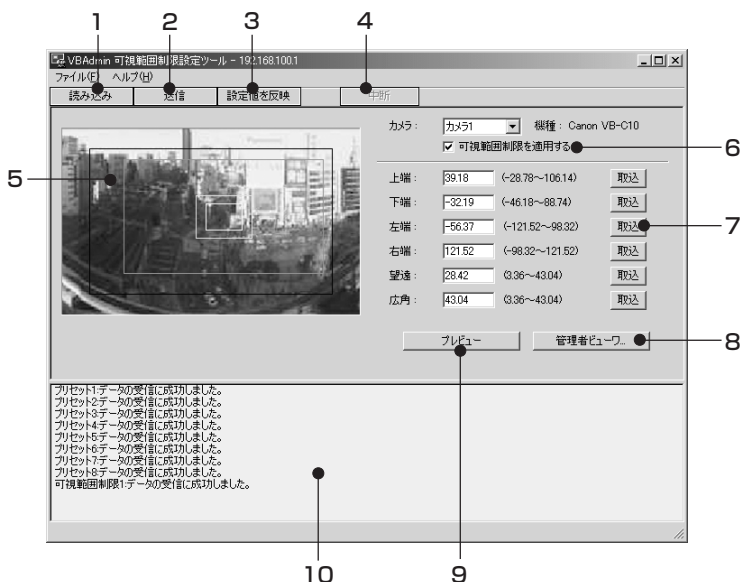


ビューでは、可視範囲設定された領域のみ表示



可視範囲設定ツールの表示画面について

可視範囲設定ツールを起動して表示された GUI の機能の概要を説明します。



1 【読み込み】ボタン

本機の現在の可視範囲設定値を読み込みます。

2 【送信】ボタン

本ツールで編集した現在の可視範囲設定値を本機に送信します。

3 【設定値を反映】ボタン

【送信】ボタンをクリックして送信された可視範囲設定値を本機に反映させます。

4 【中断】ボタン

本機との通信中にこのボタンをクリックすると、通信を中断できます。

5 パノラマプレビュー

本機に登録されているパノラマ画像を表示します。パノラマ画像上に各可視範囲設定の値を再現した枠が表示されます。これらの枠は「可視範囲制限を適用する」にチェックが入れているときに表示できます。

またドラッグ操作で枠の変形が行え、設定値に反映できます。

●可視範囲制限プレビュー枠

〔パン・チルトプレビュー枠（赤色枠）〕・・・ 現在設定している上・下・左・右端の制限設定領域

〔広角プレビュー枠（緑色枠）〕…………… 現在設定している広角制限設定領域

〔望遠プレビュー枠（黄色枠）〕…………… 現在設定している望遠制限設定領域

6 可視範囲制限を適用する

チェックした場合に可視範囲設定が適用されます。

7 可視範囲設定値入力ボックスおよび取込ボタン

可視範囲設定値入力ボックスには、現在の可視範囲設定値が表示され、数値を入力することで設定値を変更できます。取込ボタンをクリックすると、現在の撮影画角を取得して、設定値に反映することが可能です。

●可視範囲設定値

[上端] …… 可視範囲の上端限界値。取込ボタンで撮影画角の上端値を取得。

[下端] …… 可視範囲の下端限界値。取込ボタンで撮影画角の下端値を取得。

[左端] …… 可視範囲の左端限界値。取込ボタンで撮影画角の左端値を取得。

[右端] …… 可視範囲の右端限界値。取込ボタンで撮影画角の右端値を取得。

[望遠] …… 可視範囲の望遠限界値。取込ボタンで撮影画角のズーム値を取得。

[広角] …… 可視範囲の広角限界値。取込ボタンで撮影画角のズーム値を取得。

8 【管理者ビューワ】ボタン

管理者ビューワを起動できます。

9 【プレビュー】ボタン

可視範囲設定値入力ボックスで指定した設定値を可視範囲制限プレビュー枠に反映させます。

10 ステータスリスト

本ツールと本機で行われた通信の結果を表示します。



「送信」ボタンで編集した内容を本機に送信した段階では、編集内容は本機にアクセスしたビューワには反映されません。編集内容を確認した後、必ず「設定値を反映」ボタンで本機に設定を反映させてください。

可視範囲を設定する

可視範囲は次の2種類の方法で設定できます。お使いの環境またはお好みに応じて選択してください。

1：管理者ビューワから取り込んで設定値を変更する

設定のしかた

管理者ビューワを起動し、その撮影画角から、可視範囲を設定します。

- ① 「可視範囲制限を適用する」にチェックを入れる。
そして、[管理者ビューワ] ボタンをクリック
して、管理者ビューワを起動する



- ② 管理者ビューワでカメラを操作し、上端・下端・左端・右端・望遠・広角を設定したい位置に合わせて、各[取込] ボタンをクリックする

取り込まれた可視範囲は可視範囲設定値入力ボックスまたは可視範囲制限プレビュー枠で確認できます。設定値は上>下、左<右、望遠≦広角となるように設定してください。



- ③ [送信] ボタンをクリックする

ステータスリストで正しく送信されたことを確認して、[設定値を反映] ボタンをクリックすると、本機に設定値が反映されます。



2：可視範囲制限プレビュー枠から設定値を変更する

設定のしかた

パノラマ画像上の可視範囲制限プレビュー枠を利用して、可視範囲を設定します。

- ① 「可視範囲制限を適用する」にチェックを入れる。
パノラマ画像の上に表示された「パン・チルトプレビュー枠（赤色）」「望遠プレビュー枠（黄色）」「広角プレビュー枠（緑色）」をドラッグして移動・変形して可視範囲を設定する

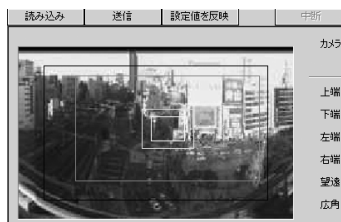
なお、望遠・広角プレビュー枠は拡大・縮小の際、縦横比は一定になります。

カメラ：	カメラ1	機種：	Canon VB-C10
<input checked="" type="checkbox"/> 可視範囲制限を適用する			



- ② [送信] ボタンをクリックする

ステータスリストで正しく送信されたことを確認して、[設定値を反映] ボタンをクリックすると、本機に設定値が反映されます。

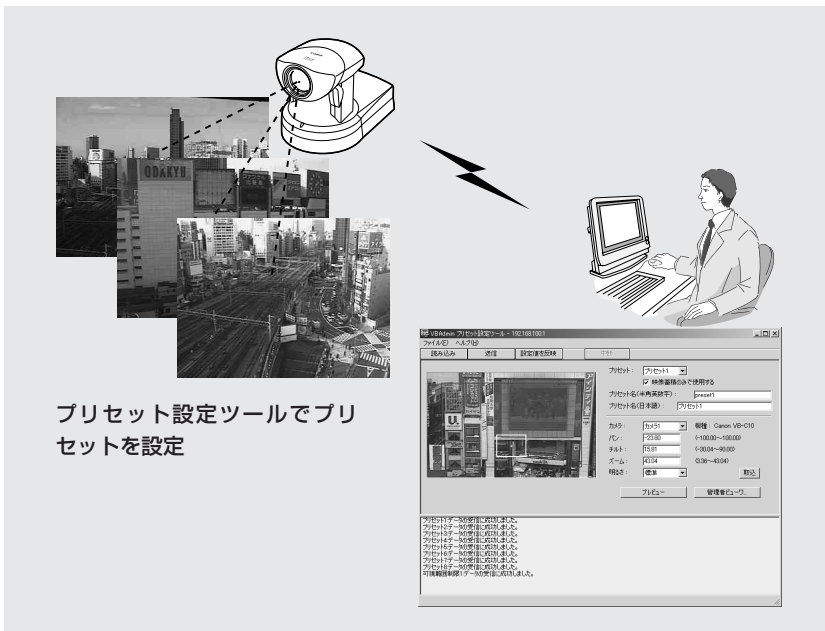


お願い

- パノラマプレビューを使ったプレビューは実際の映像と若干異なる場合がありますので、可視範囲設定を行ったのち、必ずビューワにより、実際の映像で可視範囲設定が正しく反映されているかどうかの確認を行ってください。なおその際、管理者ビューワでは通常、可視範囲設定に関係なくカメラ操作を行うことが可能ですので、「特権」メニューから「可視範囲制限」-「あり」を選択して確認を行ってください（→P.4-26）。
- 可視範囲設定を解除したい場合は、「可視範囲制限を適用する」のチェックをはずして[送信]、[設定値を反映] ボタンをクリックします。
- 「可視範囲制限を適用する」にチェックがある状態で設定値を空欄にすると、最大可視範囲が設定されます。
- 可視範囲設定についての詳細はP.3-13を参照してください。

プリセット設定ツール

プリセット設定ツールは、本機のプリセット機能をより容易に、一元的に設定するためのツールです。パノラマ画像を参照しながら、マウスでのクリック、ドラッグなどで簡単に設定が行えます。



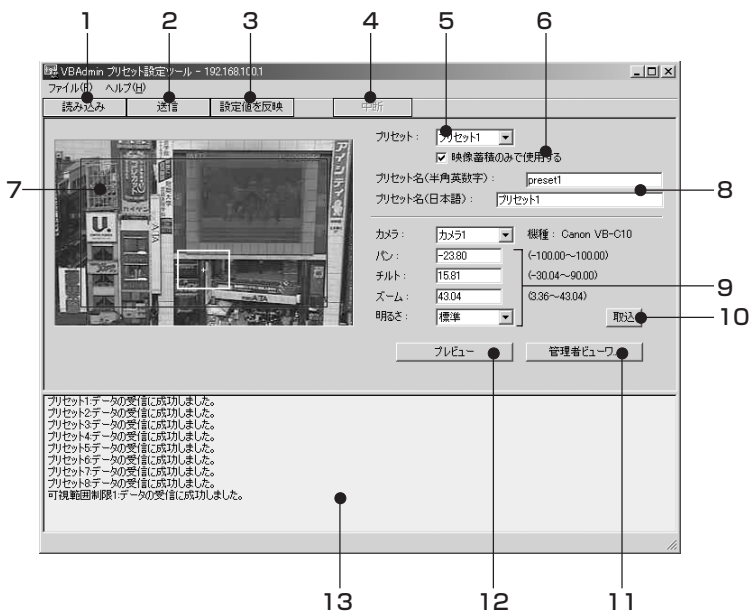
VB管理ツール

ビューワに反映



プリセット設定ツールの表示画面について

プリセット設定ツールを起動して表示された GUI の機能の概要を説明します。



1 [読み込み] ボタン

本機の現在のプリセット設定値を読み込みます。

2 [送信] ボタン

本ツールで編集した現在のプリセット設定値を本機に送信します。

3 [設定値を反映] ボタン

[送信] ボタンをクリックして送信されたプリセット設定値を本機に反映させます。

4 [中断] ボタン

本機との通信中にこのボタンをクリックすると、通信を中断できます。

5 プリセット選択ボックス

プリセット設定を行うプリセットを選択します。

6 映像蓄積のみで使用する

設定値をビューワで使用できるようにするか選択します。チェックを入れると映像蓄積でのみプリセットを使用し、チェックを外すと映像蓄積だけでなくビューワからもプリセットを使用することができます。

7 パノラマプレビュー

本機に登録されているパノラマ画像を表示します。パノラマ画像上に設定されているプリセット値を再現したプリセットプレビュー枠（黄色）が表示されます。この枠をドラッグして変形・移動したり、画像上をクリックすることで、設定値に反映できます。

また、本機で可視範囲制限が設定されていると、パノラマ画像上に可視範囲制限枠が青色または赤色で表示されます。赤色枠の場合には、入力したプリセット設定値が可視範囲外であることを示しています。

8 プリセット名

プリセット名を入力して設定できます。日本語と半角英数字が設定できます。

9 プリセット設定値入力ボックスおよび明るさ選択ボックス

プリセット設定値入力ボックスには、現在のプリセット設定値が表示され、数値を入力することで設定値を変更できます。

●プリセットの設定値

[パン] …… カメラのパン位置を設定します。

[チルト] …… カメラのチルト位置を設定します。

[ズーム] …… カメラのズーム視野角を設定します。

●明るさ

カメラの自動露出の目標値を設定します。

逆光などで映像が暗くなる場合は“明るく”を選択します。

10 [取込] ボタン

取込ボタンをクリックすると、本機の現在の撮影画角を取得して、設定値に反映することが可能です。

11 [管理者ビューワ] ボタン

管理者ビューワを起動できます。

12 [プレビュー] ボタン

プリセット設定値入力ボックスで指定した設定値をプリセットプレビュー枠に反映させます。

13 ステータスリスト

本ツールと本機で行われた通信の結果を表示します。



お願い

[送信] ボタンで編集した内容を本機に送信した段階では、編集内容は本機にアクセスしたビューワには反映されません。編集内容を確認した後、必ず [設定値を反映] ボタンで本機に設定を反映させてください。

プリセットを設定する

プリセットは次の2種類の方法で設定できます。お使いの環境またはお好みに応じて選択してください。

1：管理者ビューワから取り込んで設定値を変更する

設定のしかた

管理者ビューワを起動し、その撮影画角をプリセットに設定します。

① 設定するプリセットをプリセット選択ボックスから選択し、「プリセット名」を入力する

「管理者ビューワ」ボタンをクリックして、管理者ビューワを起動します。



② 管理者ビューワでカメラを操作し、設定したい位置に合わせて、「取込」ボタンをクリックする

取り込まれた値はプリセット設定値入力ボックスまたはプリセットプレビュー枠で確認できます。

③ 「送信」ボタンをクリックする

ステータスリストで正しく送信されたことを確認して、「設定値を反映」ボタンをクリックすると、本機に設定値が反映されます。



2：プリセットプレビュー枠から設定値を変更する

設定のしかた

パノラマ画像上のプリセットプレビュー枠を利用して、プリセットを設定します。

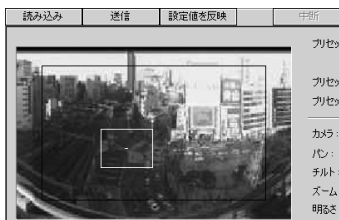
① 設定するプリセットをプリセット選択ボックスから選択し、「プリセット名」を入力する

パノラマ画像の上に表示された「プリセットプレビュー枠」をドラッグして移動・変形してプリセットを設定します。また、画像上をクリックすると、その地点を中心とするようにプリセットプレビュー枠が移動します。



② [送信] ボタンをクリックする

ステータスリストで正しく送信されたことを確認して、[設定値を反映] ボタンをクリックすると、本機に設定値が反映されます。



お願い

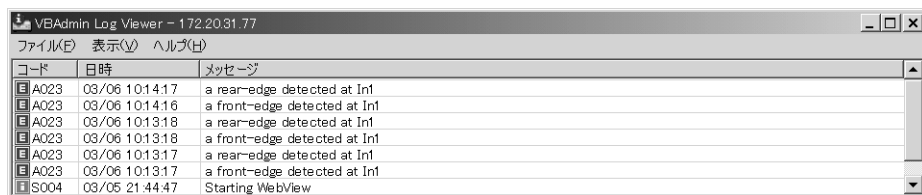
- 可視範囲制限を行っている場合は、プリセットプレビュー枠（黄色枠）が可視範囲枠（青色枠）からはみ出さないようにしてください。
- パノラマプレビューを使ったプレビューは実際の映像と若干異なる場合がありますので、プリセット設定を行ったのち、必ずビューフにより、実際の映像でプリセット設定が正しく反映されているかどうかの確認を行ってください。
- プリセット設定は一旦設定すると、削除することができません。設定したプリセットを使用させないようにするには、「映像蓄積のみで使用する」にチェックを入れることでヘルパー版ビューフでのプリセットを利用できなくすることができます。Java 版ビューフでは、LiveApplet のパラメータを変更して、プリセット選択ボックスの表示を不可にすることでプリセットを利用できなくすることができます。
- プリセット設定についての詳細は P.3-15 を参照してください。

ログビューワ

本機には動作状況をログファイルに書き出し、保存する機能があります。このログファイルの閲覧を容易にし、管理や障害の対処を実現するのが、ログビューワです。ログ表示は、すべてのログを表示させるだけでなく、フィルタリングにより、必要な情報を絞り込んで表示させることも可能です。

ログを閲覧する

VBAAdmin起動パネルから、ログビューワを起動すると、自動的に最新のログファイルを取得し、最新のログを表示します。



コード	日時	メッセージ
AO23	03/06 10:14:17	a rear-edge detected at In1
AO23	03/06 10:14:16	a front-edge detected at In1
AO23	03/06 10:13:18	a rear-edge detected at In1
AO23	03/06 10:13:18	a front-edge detected at In1
AO23	03/06 10:13:17	a rear-edge detected at In1
AO23	03/06 10:13:17	a front-edge detected at In1
S004	03/05 21:44:47	Starting WebView

ログには以下の内容が表示されます。

●コード

エラーコードが表示されます。エラーコードは「ログメッセージ一覧」(→P.7-4)を参照してください。

エラーコードとともに、そのレベルに応じた4種類のアイコンが表示されます。



[情報レベル]



[エラーレベル]



[警告レベル]



[不明]

●日時

ログの発生日時が表示されます。

●メッセージ

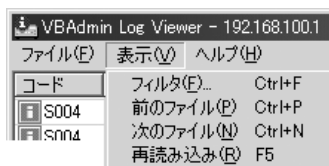
ログのメッセージが表示されます。

条件でログを選別して表示する

ログの種別、コード、日時でフィルタリングし、必要な情報だけを表示させることができます。

設定のしかた

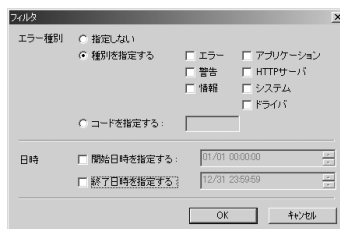
1. 「表示」メニューから「フィルタ」を選択する



2. フィルタダイアログが表示される。

以下の条件を設定して [OK] ボタンをクリックすると、設定した条件に合致するログのみ表示される

フィルタリングしない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。



[エラー種別]

エラーの種別でフィルタリングする場合は「種別を指定する」または「コードを指定する」を、しない場合は「指定しない」をチェックします。

●種別を指定する

ログのレベルを指定

「エラー」「警告」「情報」のエラーレベルで、表示させるレベルにチェックを入れます。

ログを出力したモジュールを指定

「アプリケーション」「HTTPサーバ」「システム」「ドライバ」の、モジュールで、表示させる出力元モジュールにチェックを入れます。

●コードを指定する

ログのエラーコードを指定します。入力された文字と比較して、該当するエラーコードのログのみを表示します。たとえば、「AO」と入力した場合、コードの先頭が「AO」のログを表示します。

[日時]

●開始日時を指定する

チェックを入れ、日時を入力すると、指定された日時以降に発生したログが表示されます。

●終了日時を指定する

チェックを入れ、日時を入力すると、指定された日時以前に発生したログが表示されます。



- VB-C10/VB-C10R では、「HTTPサーバ」「ドライバ」に関するログメッセージはありません。
- 「アプリケーション」「システム」はログメッセージ一覧（→P.7-4）に対応しています。
- 「アプリケーション」：アプリケーション関連のログメッセージ（→P.7-4）WebView、映像蓄積などアプリケーションに関するログメッセージです。
- 「システム」：システム関連のログメッセージ（→P.7-4）システムに関するログメッセージです。

管理者ビューワ

管理者ビューワは、本機を管理するための機能を持ったビューワです。ヘルパー版ビューワに比べ、独占的なカメラ制御権の取得、可視範囲設定の無効化、外部デバイスの操作などが可能です。

管理者ビューワを起動する

VBAdmin 起動パネルから「管理者ビューワ」をクリックする

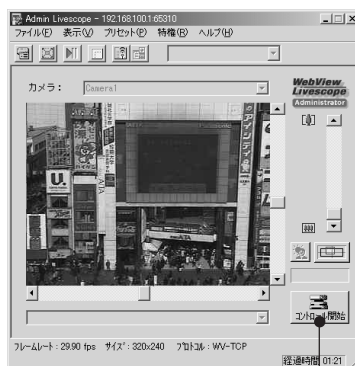
または、デスクトップの「管理者ビューワ」アイコンをダブルクリックして起動します。「Admin Livescope」ウィンドウが表示されたら、「ファイル」→「接続」の順にクリックして「接続先サーバの指定」ダイアログを表示します。

- ホスト名（本機に設定した IP アドレス→P.3-4）
- ユーザ名（root→P.3-4）
- パスワード（→P.3-9）

を入力して「OK」ボタンをクリックすると映像が表示されます。

「管理者ビューワの特権」

- サービス時間以外でも接続することが可能です（→P.3-20）。
- 接続時間が無制限となります。
- カメラ制御権の独占。他のビューワの保持制御権および獲得要求を無効化
- 可視範囲設定の無効化
- 外部デバイスの操作



制御権ボタン



お願い

管理者ビューワの操作・設定の多くはヘルパー版ビューワと共通していますので、基本的なカメラコントロールなどについては、ここでは割愛いたします。本節では、管理者ビューワに特有な機能・操作についてのみ解説いたします。ビューワソフトウェアのマニュアルは付属の CD-ROM にあります（Mon-J.pdf）。

管理者の特権について

管理者ビューワは、ヘルパー版ビューワと比べて特権を有するため、以下の点に留意してご使用ください。

- 接続時間が無制限ですので、閲覧が終わった際には、終了してください。
- カメラ制御権を獲得すると、強制的に獲得し続けます。閲覧が終わった際には、必ず終了するか、制御権ボタンを再度クリックして、制御権を解放してください。
- 可視範囲外の映像は、同時に接続している Java 版ビューワやヘルパー版ビューワにも表示されますので、設定時にはご注意ください。

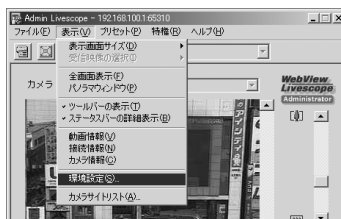
外部デバイスの操作

外部デバイス入力の状態変化の通知設定

本機に接続しているセンサなどにより外部デバイス入力の状態に変化が生じた際に、ダイアログを表示させることができます。

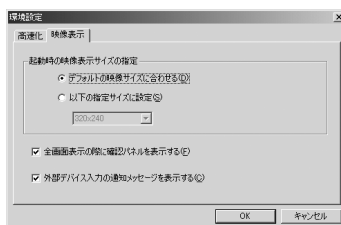
設定のしかた

1. 「表示」メニューから「環境設定」を選択する



2. 環境設定ダイアログが表示されますので、「映像表示」タブをクリックする

「外部デバイス入力の通知メッセージを表示する」にチェックが入っているのを確認して [OK] ボタンをクリックします。



外部デバイス入力の状態に変化が生じた際には、メッセージが表示されます。



お願い

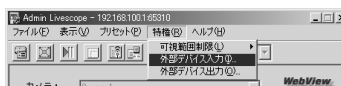
外部デバイス入力の通知メッセージは、管理者ビューワが「全画面表示」や「最小化」されている場合、通常の表示に戻った後、表示されます。また「外部デバイス入力ダイアログ」(→ P.4-26) が表示されている状態では、このメッセージは表示されません。

外部デバイス入力状態の表示と保存

外部デバイス入力の状態を表示させ、必要に応じてログとして保存することができます。

設定のしかた

1. 「特権」メニューから「外部デバイス入力」を選択する



2. 外部デバイス入力ダイアログが表示され、外部デバイス入力の状態が表示される

この内容をログとして保存するには、[保存] ボタンをクリックして、保存先とファイル名を指定します。表示された内容をクリアするには [クリア] ボタンをクリックします。

ダイアログ表示を終了するには [閉じる] ボタンをクリックします。

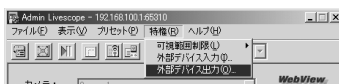


外部デバイス出力の操作

ライトなど、外部デバイス出力の ON/OFF 状態を変更することができます。

設定のしかた

1. 「制御権ボタン」をクリックしてカメラ制御権を取得し、「特権」メニューから「外部デバイス出力」を選択する



2. 外部デバイス出力ダイアログが表示される

各端子の [ON/OFF] ボタンで外部デバイス出力状態を変更することができます。

ダイアログ表示を終了するには [閉じる] ボタンをクリックします。

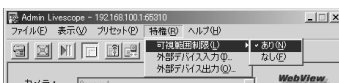


可視範囲制限の有効 / 無効

可視範囲設定を無効にして、カメラコントロールを行うか、設定を有効にするかを選択できます。

設定のしかた

- 「特権」メニューから「可視範囲制限」で、「あり」「なし」を選択します。



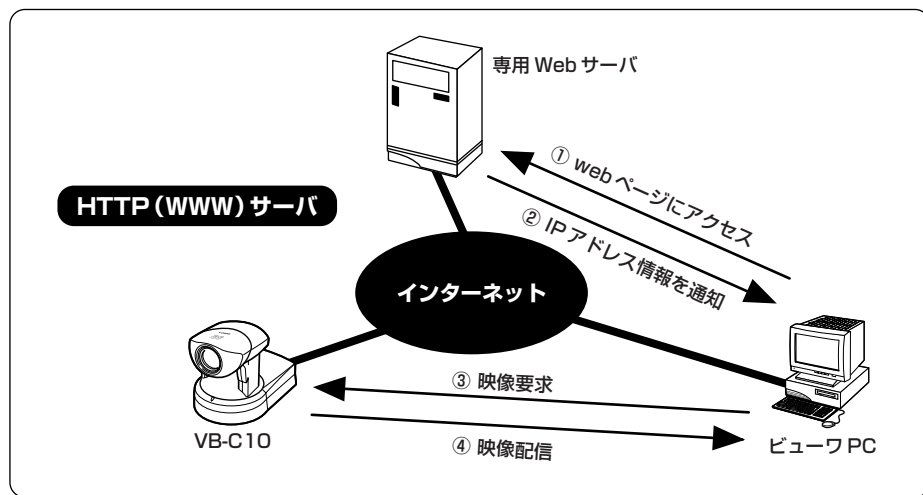


ホームページの作成

この章では本機を利用した映像配信のしかたを説明します。
ホームページ上に動画や静止画を表示させたり、複数画像を表示させるなどさまざまな方法で映像を配信できます。

映像配信用ホームページについて

本機を設置して情報配信を行うためには、専用のホームページを作成することになります。本機で利用できるビューは「Java版ビュー（カメラ制御機能あり/なし）」と「ヘルパー版ビュー」があり、それぞれ細かなパラメータの設定ができるようになっています。情報発信者はどのようなビューをサポートするかを決めて、それに対応したページを作成する必要があります。



①において映像要求に対応するリンクを選択した場合に、②で Web サーバから本機の IP アドレス情報を含んだファイルが送られます。Java版ビューを利用する場合には③の要求に対して本機からビューワ PC にアプレットがダウンロードされ、映像が配信されます。



お願い

本機には Web サーバが内蔵されています。映像配信用ホームページのコンテンツを本機内蔵のフラッシュメモリに書き込んでおけば、本機 1 台で Web を使ったホームページ配信と映像配信が可能です。ホームページのデータの保存方法は P.5-8 を参照してください。



メモ

ブラウザの言語設定を利用すれば、多言語に対応した Web の作成が可能です。たとえば、国内向けのトップページを `index-ja.html`、海外向けの英語ページを `index.html` とし、`http://vb-c10/sample/` というようにスラッシュで区切った URL をユーザに案内しておけば、アクセスしてきたブラウザの言語設定に応じて、適したファイルをサーバが発信します。言語設定機能の詳細についてはブラウザのヘルプをご覧ください。

Java 版ビューワの特長

Java アプレットで提供するビューワです。Netscape Navigator や Microsoft Internet Explorer など Java が動作する Web ブラウザで実行できます。アプレットはカメラサーバから Web ブラウザへダウンロードされ、Web ブラウザ上で実行されます。以下に Java 版ビューワの特長を記述します。

- 映像伝送、カメラ操作に WebView-HTTP プロトコルを使用しています。
- ファイアウォールを通過して外部のサイトへアクセスが可能です。
- 自動的にダウンロードされるので、クライアントでの事前のビューワインストールは不要です。
- さまざまなプラットフォームでビューワが動作します。



HTTP プロトコルを使用してビューワ起動時に Java アプレットをダウンロードするため、ヘルパー版ビューワに比べると起動時間が長くなる場合があります。

Java 版ビューワの種類について

Java 版ビューワには「映像表示」「カメラ制御」機能を持つ「LiveApplet」と「映像表示」機能だけを持つ「Glimpse」があります。両ビューワとも転送プロトコルには WebView-HTTP を使用しているので、特別な設定を行わずにファイアウォールを通過することができます。

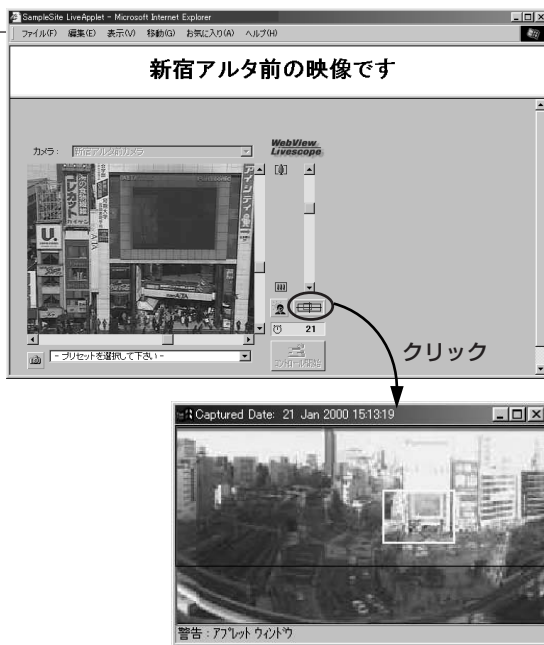
■ビューワの種類

ビューワ名	機 能
LiveApplet	① 本機からの動画映像を表示 ② カメラ制御が可能 ③ 動画領域へのオーバーレイやスーパーインポーズ表示が可能 ※ ヘルパー版ビューワとくらべ、ビューワをダウンロード後、映像を表示するため、時間がかかる
Glimpse	映像取得時間間隔を指定可能 ※ 簡易的な機能のみでサイズが小さく、LiveApplet よりダウンロードは早い

Java 版ビューワ

LiveApplet

映像表示機能
カメラ制御機能



パノラマ画像

Java 版ビューワ

Glimpse

映像表示機能



ヘルパー版ビューワの特長

ヘルパー版ビューワはWebブラウザから起動されるアプリケーションです。Java版ビューワと異なりあらかじめクライアント側のコンピュータにインストールしておかなければなりません。以下にヘルパー版ビューワの特長を記述します。

- 事前のインストールが必要ですが、一度インストールすれば、起動時間が短く、動作も安定します。
- WebView-TCPプロトコルに加え、WebView-HTTPプロトコルを使用でき、ファイアウォールを通過して外部のサイトへアクセスが可能です。
- 単独のアプリケーションとして起動可能です。



クリック



パノラマ画像

サンプルページを見る

本機には、あらかじめ映像配信用のサンプルページが準備されており、下記の方法で見ることができます。ホームページ作成の際の参考にしてください。

閲覧のしかた

1. Web ブラウザを起動し、下記の URL を入力する

http://192.168.100.1/sample/

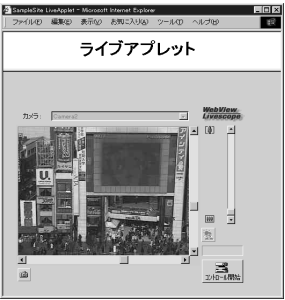
* 下線部は IP アドレスの入力例です。実際に本機へ設定した IP アドレスを入力してください。

2. 各サンプルページにリンクした以下のページが表示される。閲覧したいサンプルページをクリックする



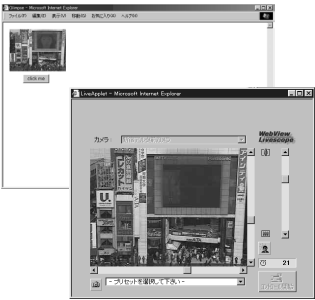
■サンプルページの例

JavaApplet サンプル 1



ライブ映像を表示し、カメラ制御を行うことができる LiveApplet のサンプルページです。

JavaApplet サンプル 2



LiveApplet と Glimpse を組み合わせたサンプルページです。

JavaScriptを使った静止画要求ページ



ライブ静止画を表示するサンプルページです。

Java 版ビューワを使用して映像を配信する

ここでは Java 版ビューワを使用した映像提供の方法や応用例を説明します。

Java 版ビューワを使用したホームページの作成方法

Java版ビューワを使用するとき、提供するホームページ内に使用するビューワのアプレットを組み込まなければなりません。しかし、特に難しいことはありません。通常のアプレットを組み込むように HTML を記述するだけで作成できます。

LiveApplet

```
<applet codebase="http://192.168.100.1/~wvdoc-01-/LiveApplet/"
  code="LiveApplet.class" archive="LiveApplet.zip"
  width=450 height=380>
<param name=url    value="http://192.168.100.1/">
<param name=cabbase value="LiveApplet.cab">
</applet>
```

Glimpse

```
<applet codebase="http://192.168.100.1/~wvdoc-01-/Glimpse/"
  code="Glimpse.class" archive="Glimpse.zip"
  width=160 height=120>
<param name=url    value="http://192.168.100.1/">
<param name=cabbase value="Glimpse.cab">
</applet>
```

アプレットに必要なパラメータは <applet>...</applet> タグの間に記述します。

アプレットに対する共通パラメータである codebase、code、archive、width、height 以外のパラメータは <param> タグを使用して記述します。

* 下線部は IP アドレスの入力例です。実際に本機へ設定した IP アドレスを入力してください。

ホームページのデータを保存する

本機にはフラッシュメモリが搭載されており、ホームページのデータが保存できます。データの保存は、FTPによるファイル転送で行います。データは/usr/html/localの下にファイルとして置いておきます。

デバイス	ファイルシステム (FTP クライアントでアクセスする場合)	URL (Web ブラウザでアクセスする場合)
オンボード フラッシュメモリ	ftp : //IP アドレス /usr/html/local	http://IP アドレス /local/



お願い

- web ブラウザをFTP クライアントとして利用する場合には
“ftp : //root : パスワード@192.168.100.1/usr/html/local” などのように IP アドレスの前に “root : パスワード@” をつけてください。anonymous FTP には対応していません。
- オンボードファイルシステムの空き領域が少なくなると、書き込み性能が低下することがあります。オンボードファイルシステムには、必要最小限のファイルだけ置くようにしてください (→ P.3-22)。

Java 版ビューワを使用したホームページの作成例

ここでは Java 版ビューワを使用したホームページの作成例を説明しています。
ここで記載する作成例を応用してオリジナリティあふれるページを作成してください。

Java 版ビューワを貼り込み、日本語表示を別フレームに表示する



1 フレームの設定

2 日本語表示を別フレーム
に表示

3 Java 版ビューワを貼り
込んだフレーム



メモ

IP アドレスの記述方法について

本機に内蔵されている Web サーバの機能により、本機の Web サーバが利用する 3 種類のファイル (html、wv h、wvp) の記述において、IP アドレスを <_P_A_D_D_R_> (全て大文字、<>も含む) と記述することが可能です。
<_P_A_D_D_R_> はアクセス時に実際の IP アドレスに置き換えられるので、本機の IP アドレスを変更した場合でも Web ページを変更する必要がありません。また、Web ページのグローバルアドレス指定により、NAT に対応することが可能です (→ P.5-26)。

1 sample.htm

```
<html>
<head>
<title>SampleSite LiveApplet</title>
</head>
<frameset rows="70,*">
<frame src="header.htm">
<frame src="lvappl.htm">
</frameset>
</html>
```

2 header.htm

```
<html>
<head>
<title>LiveApplet comment</title>
</head>
<body>
<center><h1> 新宿アルタ前の映像です </h1></center>
</body>
</html>
```

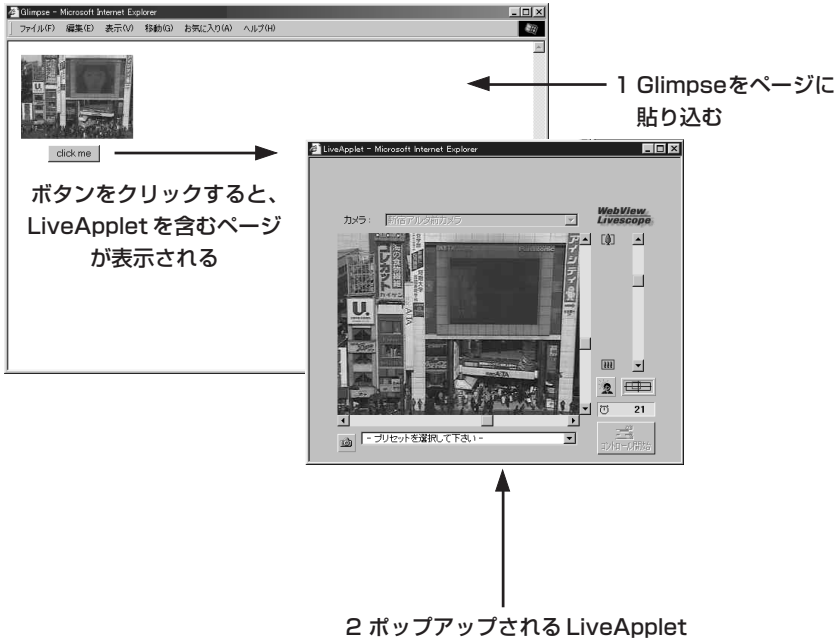
3 lvappl.htm

```
<html>
<head>
<title>LiveApplet</title>
</head>
<body>
<applet codebase="http://192.168.100.1/-wvdoc-01-/LiveApplet/"
        code="LiveApplet.class" archive="LiveApplet.zip"
        width=450 height=380>
<param name=cabbase value="LiveApplet.cab">
<param name=url value="http://192.168.100.1/">
</applet>
</body>
</html>
```

* 下線部は IP アドレスの入力例です。実際に本機へ設定した IP アドレスを入力してください。

Glimpse と LiveApplet を組み合わせて使用する

ダウンロードが速いGlimpseを使用して低レートでライブ映像を表示して、興味がある映像が表示されたときに LiveApplet を使用して高レートでカメラを操作しながら見ることのできるホームページを作成します。



```
1 glimps.htm
<html>
<head>
<script language="JavaScript">
<!--
function clicked (btn) {
    url = btn.name
    window.open (url,"LiveApplet","width=490,height=400")
}
// -->
</script>
<title>Glimpse</title>
</head>
<body>
<table>
<form name="form">
<tr><td><center>
<applet codebase="http://192.168.100.1/-wvdoc-01-/Glimpse/"
        code="Glimpse.class" archive="Glimpse.zip"
        width=160 height=120>
<param name=cabbase value="Glimpse.cab">
<param name=url value="http://192.168.100.1/">
</applet>
</center></td></tr>
<tr><td><center>
<input type="Button" name="popup.htm" value="click me"
        onClick="clicked (this) ">
</center></td></tr>
</form>
</table>
</body>
</html>

2 popup.htm
<html>
<head>
<title>LiveApplet</title>
</head>
<body>
<center>
<applet codebase="http://192.168.100.1/-wvdoc-01-/LiveApplet/"
        code="LiveApplet.class" archive="LiveApplet.zip"
        width=450 height=380>
<param name=cabbase    value="LiveApplet.cab">
<param name=url        value="http://192.168.100.1/">
</applet>
</center>
</body>
</html>
```

* 下線部は IP アドレスの入力例です。実際に本機へ設定した IP アドレスを入力してください。

カメラ制御を持たない「LiveApplet」を提供する

カメラ制御を許可しない場合などで、ライブ映像のみ表示して、カメラ制御 GUI を表示しないホームページを作成します。



```
<applet ...省略... width=320 height=240>
<param name=controller_style value="none"> ..... ①
```

① カメラ制御のユーザインタフェースを指定する。

“normal” = 通常のスタイル

“preset_only” = プリセット操作のみ表示

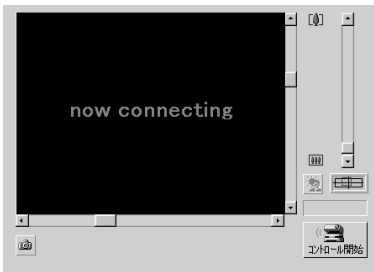
“none” = 表示しない

起動時の画面と切断時の画面を変更する

起動時と切断時の画面を画像ファイル（JPEGまたはGIF形式の画像）に変更することができます。

■設定なしの場合

起動時の画面

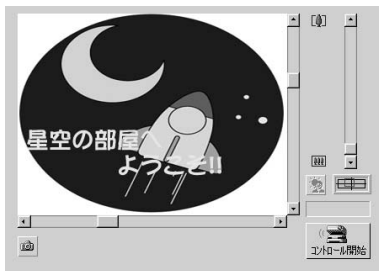


切断時の画面



■任意の画面の場合

起動時の画面（例）



切断時の画面（例）



特に設定しない場合は、起動時に「connecting to hostname」（hostnameパラメータ指定時）または「now connecting」のアニメーションが表示され、切断時に「disconnected hostname」（hostnameパラメータ指定時）または「disconnected」が表示される設定になっています。

起動画面用、切断画面用の画像を用意し、パラメータで指定することで任意の画面に変更することができます。画像の大きさはvideo_widthパラメータで指定されたサイズに自動的にリサイズされます。また、起動時の指定画面の提示時間を指定できます。

```
<param name=open_image value="/local/images/opening.jpg"> ..... ①
<param name=open_image_time value="3000"> ..... ②
<param name=close_image value="/local/images/closing.jpg"> ..... ③
```

- ① 起動時のイメージ画面のファイル名を指定する。
- ② 起動時のイメージ画面の表示時間を指定する（単位 ms：1/1000 秒）。
- ③ 切断時のイメージ画面のファイル名を指定する。



お願い

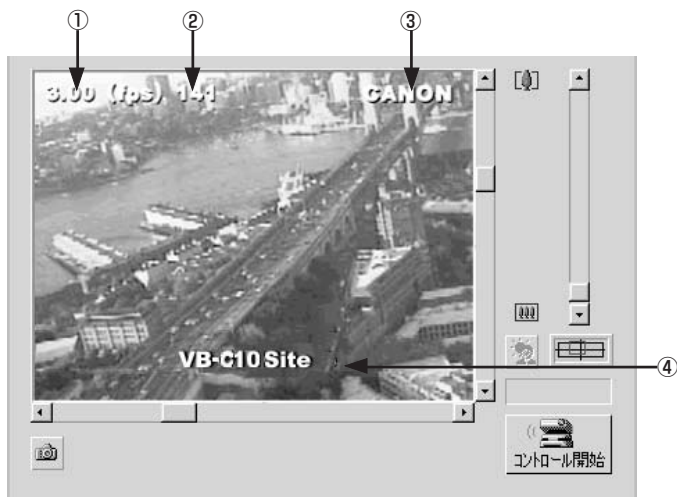
表示する画像ファイルのパスは、絶対パス名（"/" で始まる名前）で指定してください。（→ P.5-8）



メモ

- 起動時に、本機との接続中に表示される文字列はデフォルトで「now connecting」ですが、この文字列を変更するパラメータ「connect_msg」もあります。他にも表示文字列を変更するためのパラメータがいくつかありますので、P.5-17 を参照してください。
- ユーザのサービス時間を設定している場合（→ P.3-20）、設定されている時間以外は、画面イメージが表示されません。

ホスト名やフレーム数などを映像画面上に表示する



```

<param name=show_fps value="on">_____ ①
<param name=show_counter value="on">_____ ②
<param name=hostname value="CANON">_____ ③
<param name=show_hostname value="on">_____
<param name=comment value="VB-C10 Site">_____ ④
<param name=show_comment value="on">_____

```

- ① 画面上にフレームレートを表示するか、しないかを指定する。

“on” = 表示する

“off” = 表示しない

- ② 画面にフレーム数を表示するか、しないかを指定する。

“on” = 表示する

“off” = 表示しない

- ③ 画面に表示するホスト名（任意の文字列）を指定する。

画面にホスト名を表示するか、しないかを指定する。

“on” = 表示する

“off” = 表示しない

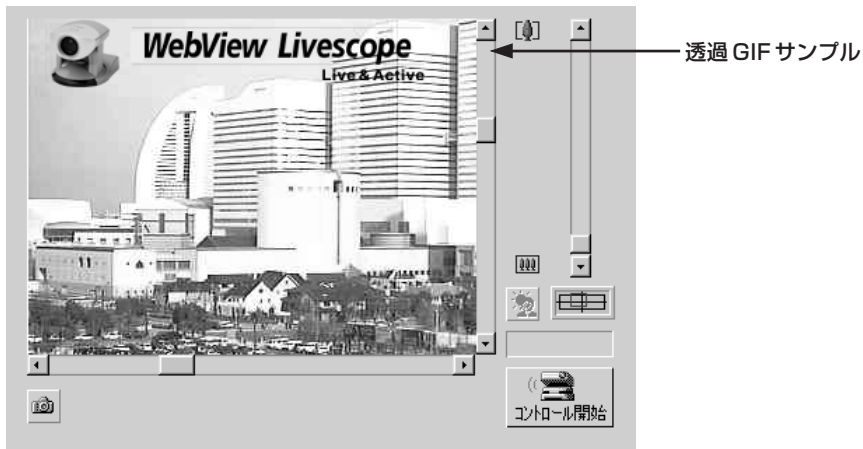
- ④ 画面に表示するコメントを指定する。

画面にコメントを表示するか、しないかを指定する。

“on” = 表示する

“off” = 表示しない

ビットマップを映像画面上に表示する



```
<param name=superimpose value="/local/logos/newlogo.gif,0,0">
```

* 下線部で表示する位置を指定します。0,0 で左上隅。省略時は中央になります。

背景色を指定する

```
<html>
<body bgcolor=#cccccc>
<applet codebase=http://...code="LiveApplet.class" width=450 height=380>
<param name=url value="http://192.168.100.1">
  <param name=bg_color value="#cccccc">
</applet>
</body>
</html>
```

* 下線部は IP アドレスの入力例です。実際に本機へ設定した IP アドレスを入力してください。

背景に画像を貼り付ける

```
<param name=bg_image value="/local/images/back.gif"> ①
<param name=image_offset value="0,0"> ②
```

- ① 表示する画像ファイルを指定する。
- ② 下線部で表示する位置を指定する。

Java 版ビューワのパラメータについて

アプレットのパラメータを変更して、用途や表現に合ったアプレットを提供することができます。各アプレットのパラメータの内容をよく理解して使用してください。

■ LiveApplet

パラメータ名	省 略	内 容
bg_color	可	アプレットの背景色を指定するときに使用する。パラメータの指定方法は“#RRGGBB”（各色要素は0～255までの数値を16進で表したもの）である。例／白“#FFFFFF” グレー“#AAAAAA” 緑“#00FF00” 省略したときはデフォルトの背景色が使用される。
close_image	可	切断時に映像表示部に現れる画面を指定できる。JPEG または GIF ファイルのファイル名を指定する。省略時はデフォルトの切断画面となる。
comment	可	アプレット上にオーバーレイして表示するコメント文字列。省略した場合はコメントが表示されない。
gui-type	可	パノラマウィンドウをポップアップ表示するか、ページに埋めこんで表示するかを指定する。埋め込み表示するには“embed”を指定。“embed”指定時は、アプレットタグのwidthとheightを大きめ（例：width=500、height=660）に指定する必要がある。
hostname	可	アプレット上で表示するホスト名。接続中などにメッセージ内でホスト名として使用される。省略するとホスト名を表示しない。
locale	可	エラーメッセージやプリセット名の日本語/英語表示を切替える。“japanese”または“english”。デフォルトは“japanese”。ただし、“japanese”を指定してもブラウザや環境により日本語の表示ができないときは英語表示になる。
open_image	可	最初の映像が表示されるまでの映像表示部に現れる画面を指定できる。JPEG または GIF ファイルのファイル名を指定する。省略時はデフォルトの起動画面となる。
open_image_time	可	open_image で初期画面を指定した場合、その表示時間を指定する。単位はms（1/1000秒）、デフォルト値は0。最初のライブ映像フレームが来るまでの間提示する。指定可能な値は0-30000（30秒）。
show_capture	可	スナップショットボタンを表示するか、しないかを指定する機能。“on”または“off”を指定。デフォルトは“on”。明示的に“off”と指定したときのみボタンが表示されない。
show_comment	可	コメントを映像上に重ねて表示する機能。“on”または“off”を指定。デフォルトは“off”。
show_counter	可	フレーム数を映像上に重ねて表示する機能。“on”または“off”を指定。デフォルトは“off”。
show_fps	可	フレームレートを映像上に重ねて表示する機能。“on”または“off”を指定。デフォルトは“off”。
show_hostname	可	ホスト名を映像上に重ねて表示する機能。“on”または“off”を指定。デフォルトは“off”。ただし、hostname パラメータが指定されているときのみ有効。
show_panobutton	可	パノラマウィンドウポップアップボタンを表示するか、しないかを指定する。デフォルトは“ON”。
superimpose	可	ビットマップを映像上に重ねて表示する機能。“ビットファイル名.x.y”を指定する。ビットマップファイルはGIF形式（透明GIFサポート）。x、yはビットマップの配置位置を映像上の座標系で指定する。省略すると映像の中央に表示される。

パラメータ名	省 略	内 容
url	不可	アプレットがアクセスする HTTP サーバの URL を指定する。codebase 属性に記述されるものと同じ IP アドレスとポート番号を指定する。
video_width	可	映像の表示サイズ (ピクセル単位)。横サイズで指定する。表示サイズは、80～640 で、横サイズの指定は任意の値で設定する。その際、縦サイズは横サイズの 3/4 になる。 例 /video_width= "240" (縦は $240 \times 3/4 = 180$)
auto_connect	可	アプレット起動と同時にカメラサーバとの接続を行うか、行わないかを指定する。"on" または "off" を指定。"on" でアプレット起動と同時に接続を行い、動画を表示。"off" ではアプレット起動と同時に接続を行わず、no_connect_msg パラメータで指定した文字列を表示。接続を行うためには connect () メソッドを呼び出す。
bg_image	可	LiveAppletのバックグラウンドに表示する画像を指定できる。JPEGまたは GIF ファイルのファイル名を指定する。指定時は WebView Livescopeのロゴは表示されない。 省略時はデフォルトの画像となる。
click_action	可	動画表示領域をクリックしたときの挙動を指定する。"pt" でカメラのパン・チルト、"non" で無反応。デフォルトは "pt"。
connect_msg	可	カメラサーバとの接続中に表示する文字列を指定する。デフォルトは "now connecting"。
controller_style	可	カメラ制御用の GUI スタイルを指定する。"normal" で通常の GUI スタイル。"preset_only" でプリセット操作のみ。"none" ですべての GUI を非表示。"preset_only" では「コントロール開始ボタン」「カメラ制御状況ウィンドウ」「プリセット選択バー」「スナップショットボタン」のみ表示する。
disconnect_msg	可	カメラサーバとの接続が切れたときに表示する文字列を指定する。デフォルトは "disconnected"。
error_msg	可	カメラサーバとの接続に失敗したときに表示する文字列を指定する。デフォルトは "can't connect"。
font_size	可	connect_msg、disconnect_msg、error_msg、no_connect_msg、too_many_msgの表示サイズを指定する。デフォルトは表示領域に依存する。
image_offset	可	bg_image で指定した画像ファイルの表示位置を指定する。画像左上端を "0,0" とし、右方向を x、下方向を y として "x,y" で指定。デフォルトは "335,0"。
no_connect_msg	可	auto_connect で "off" を指定し、アプレット起動後に表示する文字列を指定する。デフォルトは "no connection"。
overlay_font_color	可	comment および hostname で指定した文字列の表示色を指定する。色の指定は "#RRGGBB" で行う。デフォルトは黄色。
show_logo	可	画面右上部の "WebView Livescope" ログ表示を行うか、行わないかを指定する。"on" で表示、"off" で非表示。
too_many_msg	可	接続制限数超過のために、カメラサーバとの接続に失敗したときに表示する文字列を指定する。デフォルトは "too many clients"。

■ Glimpse

パラメータ名	省 略	内 容
comment	可	アプレット上にオーバーレイして表示するコメント文字列。省略した場合、コメントは表示されない。
hostname	可	アプレット上で表示するホスト名。接続中などにメッセージ内でホスト名として使用される。省略するとホスト名を表示しない。
show_counter	可	フレーム数を映像上に重ねて表示する機能。“on” または “off” を指定。デフォルトは “off”。
show_hostname	可	ホスト名を映像上に重ねて表示する機能。“on” または “off” を指定。デフォルトは “off”。ただし、hostname パラメータが指定されているときのみ有効。
sleep	可	画面が更新される時間間隔（ミリ秒単位）。省略した場合は 5 秒毎に更新される。Glimpse アプレットは複数サイトの一覧表示などに利用されることを想定しているため、負荷低減のためにこのようなパラメータを持つ。指定可能範囲は 0-300,000ms（5 分）。0 を指定すると時間間隔調整を行わない。
url	不可	アプレットがアクセスする HTTP サーバの URL を指定する。codebase 属性に記述されるものと同じ IP アドレスとポート番号を指定する。
auto_connect	可	アプレット起動と同時にカメラサーバとの接続を行うか、行わないかを指定する。“on” または “off” を指定。“on” でアプレット起動と同時に接続を行い、動画を表示。“off” ではアプレット起動と同時に接続を行わず、no_connect_msg パラメータで指定した文字列を表示。接続を行うためには connect () メソッドを呼び出す。
connect_msg	可	カメラサーバとの接続中に表示する文字列を指定する。デフォルトは “now connecting”。
disconnect_msg	可	カメラサーバとの接続が切れたときに表示する文字列を指定する。デフォルトは “disconnected”。
error_msg	可	カメラサーバとの接続に失敗したときに表示する文字列を指定する。デフォルトは “can't connect”。
font_size	可	connect_msg、disconnect_msg、error_msg、no_connect_msg の表示サイズを指定する。デフォルトは表示領域に依存する。
no_connect_msg	可	auto_connect で “off” を指定し、アプレット起動後に表示する文字列を指定する。デフォルトは “no_connection”。

■アプレットタグの記述

属性名	省 略	内 容
code	不可	アプレットのファイル名を指定。“LiveApplet.class”または“Glimpse.class”と記述する。この設定が正しく設定されていないと、アプレット（LiveAppletまたはGlimpse）のダウンロードが行われない。
codebase	不可	アプレットが置かれているディレクトリ。 http://HTTP サーバの IP アドレス：ポート番号 / ディレクトリ / この設定が正しく設定されていないと、アプレット（LiveApplet または Glimpse）のダウンロードが行われない。ディレクトリはアプレットごとに固定されている。 ディレクトリ（LiveApplet）=-wvdoc-01-/LiveApplet ディレクトリ（Glimpse）=-wvdoc-01-/Glimpse となる。
width	不可	アプレット用に取りられる領域の大きさ（ピクセル単位）。 LiveAppletの場合、アプレット描画領域より小さい値を指定した場合は、正しく表示されないことがある。カメラ制御機能の GUI を付加する場合（controller_style=normal）は、+130が目安となる。 例 / 画像 320x240 の場合、width=450 Glimpseの場合、アプレット用領域と映像表示領域が等しいので、画像サイズの横と同じ値を指定する。 例 / 画像 320x240 の場合、width=320
height	不可	width と同様。 LiveAppletの場合、+140が目安。例/画像320x240の場合、height=380 Glimpseの場合、画像サイズの縦と同じ値を指定。 例 / 画像 320x240 の場合、height=240
archive	可	アプレットのアーカイブファイル。アプレットの種類に応じて、LiveApplet.zip や Glimpse.zip を指定する。



アプレットタグの codebase 属性、およびアプレットの url パラメータに含まれる IP アドレスは、クライアントからアクセスできるものを指定してください。とくに NAT をご利用の場合、注意が必要です（→ P.5-26）。

ヘルパー版ビューワを使用して映像を配信する

ここではヘルパー版ビューワを使用した映像提供の方法や応用例を説明します。
クライアントがヘルパー版ビューワを使用して映像を受信する場合、映像配信側ではWebサーバの設定と wvh ファイルの作成を行わなければなりません。



本機に内蔵されているWebサーバを利用する場合は、以下の設定は必要ありません。
ホームページでのデータの保存方法は P.5-8 を参照してください。

Web サーバを設定する

情報発信用のホームページを保存しておく Web サーバの設定を行います。Web サーバソフトに MIME タイプを追加して、拡張子を設定します。詳細はご使用の Web サーバソフトのマニュアルを参照してください。

MIME タイプ video/x-webview-h

拡張子 wvh

Apache の場合

Apache で MIME マップを追加設定するには、
conf ディレクトリにある mime.types というファイルを編集します。

● 次の構文を使って、コンピュータに必要な MIME TYPE を追加します。

```
type/subtype extension
```

● WebView Livescope 用の設定は、次のようになります。

```
video/x-webview-h wvh (ヘルパー用設定)
```



WebサーバにMIME設定が正しく行われていないと、ヘルパー版ビューワが起動できない場合があります。必ず設定を行ってください。

wvh ファイルを作成する

ヘルパー版ビューワのアプリケーションを起動するために必要な wvh ファイルを作成します。

1. テキストエディタなどを使用して、テキストファイルを新規に作成し、テキストファイルに、次のように記述します。

```
(例) 192.168.100.1 65310
      192.168.100.1 65311
      wvhttp:192.168.100.1 80
```

- 1 行目は本機の IP アドレス（またはホスト名）と映像送信用の TCP ポート番号です。65310 が工場出荷時の設定値です（→ P.3-20）。特に指定がなければこのままご利用ください。
- 2 行目は本機の IP アドレス（またはホスト名）とカメラ制御用の TCP ポート番号です。65311 が工場出荷時の設定値です（→ P.3-20）。特に指定がなければこのままご利用ください。
- 3 行目はヘルパー版ビューワが HTTP プロトコルを利用するための設定です。[wvhttp:] に続けて本機の IP アドレスと HTTP ポート番号 80 を記述します。これにより、本機からの映像がファイアウォールを透過してご覧いただくことが可能です。
※ IP アドレスは実際に本機へ設定した IP アドレス（またはホスト名）を記述してください。

2. テキストファイルを保存、テキストエディタなどを終了した後、ファイル名と拡張子を変更することで wvh ファイルを作成します。“WebView.wvh” のように必ず拡張子 (.wvh) を付けてください。

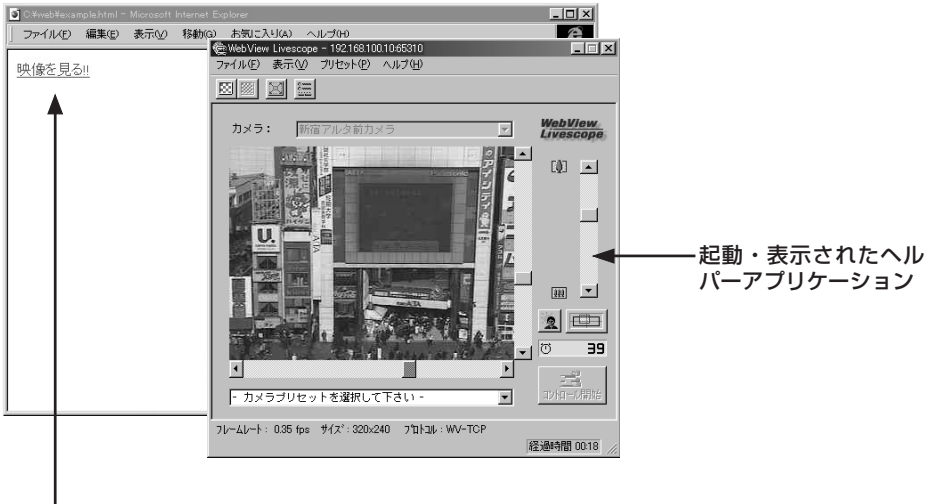


ヘルパー版ビューワは、WebView Livescope プロトコルと HTTP プロトコルの 2 つのプロトコルをサポートしています。

- WebView Livescope プロトコル
ファイアウォールを透過してご覧になれません。主にインターネットに直接接続しているクライアント向けプロトコルです。
- HTTP プロトコル
一般に Web ブラウザなどで利用するプロトコルです。このプロトコルを利用することにより、ファイアウォール内のクライアントからも映像をご覧いただくことができます。Java 版ビューワもこのプロトコルを利用しています。

ヘルパー版ビューワを使用したホームページの作成例

ここではヘルパー版ビューワを使用したホームページの作成例を説明しています。



- 1 リンクをクリックすると、ヘルパーアプリケーションが起動する

ホームページ内の画像またはテキストに wvh ファイルをリンクするタグを記述します。

- 1 ` 映像を見る!!`



本機のサンプルページのテンプレートを使用して映像を提供するには、
``を指定します。

ブラウザだけを使用して映像を配信する

WebView-HTTPプロトコルを利用してブラウザに直接本機からの映像を提供することができます。ここではその使用例を説明します。

アクセス時のライブ映像を静止画として表示する



クライアントが映像を提供するホームページをアクセスしたタイミングで、カメラが写した映像を静止画として提供することができます。

```
<IMG SRC=http://192.168.100.1/~vvhttp-01-/GetStillImage>
```

(または)

```
<IMG SRC=http://192.168.100.1/~vvhttp-01-/GetOneShot>
```

* 下線部は IP アドレスの入力例です。本機の IP アドレスを入力してください。

アクセス時のライブ映像を指定フレーム数分の動画として表示する



Netscape社の拡張機能であるサーバプッシュ形式で複数フレームの映像を配信できます。ただし、Netscape Navigatorでしか表示することはできません。作成例はクライアントがアクセスした時点から 100 フレーム分のライブ映像を配信するものです。

```
<IMG SRC=http://192.168.100.1/~vvhttp-01-/GetOneShot?frame_count=100>
```

* 下線部は IP アドレスの入力例です。本機の IP アドレスを入力してください。



frame_count=no_limit

とすると映像フレーム数は無制限になります。

指定したアングルのライブ映像を静止画で表示する

カメラのアングルをあらかじめHTMLでパラメータ指定することで指定したアングルの映像を表示することができます。ここではパン=右40度、チルト=下10度の静止画像を表示しています。

```
<IMG SRC=http://192.168.100.1/~vvhttp-01-/GetStillImage?p=40&t=-10>
```

*下線部はIPアドレスの入力例です。本機のIPアドレスを入力してください。

■ GetStillImage のパラメータについて

パラメータ	説明
p/pan	カメラのパンを指定する。pは1°単位、panは0.01°単位。 たとえば右20°にパンするには、p=20またはpan=2000とする。省略時はパンは制御されない。
t/tilt	カメラのチルトを指定する。tは1°単位、tiltは0.01°単位。省略時はチルトは制御されない。
z/zoom	カメラのズームを指定する。zは最大広角に対するズーム倍率の10倍、zoomは0.01°単位の画角（横方向）。省略時はズームは制御されない。
b/back_light	カメラの逆光補正を指定する。onのとき明るい映像、offのとき暗い映像になる。省略時は逆光補正は制御されない。
delay	カメラのフォーカスなどが安定するまでの待ち時間（ミリ秒単位）。 0～10000の範囲で指定する。
option	エラー発生時の処理を指定する。skip_on_errorが指定されたときは処理が続行され、quit_on_errorが指定されたときは処理が中止される。起こりうるエラーは、カメラ制御権確保の失敗、カメラ制御権の剥奪、カメラ選択の異常、カメラ制御の異常である。省略時はquit_on_error。
seq	古い静止画の表示を避けるため任意の番号（シーケンス番号）を指定する（整数値）。
v/image_size	映像の表示サイズを指定する。640×480、320×240、160×120が設定可能。vとimage_sizeでは書式が異なり、vは“v=640”のように横サイズのみ指定。image_sizeは“image_size=320×240”のように横×縦サイズで指定。
q/quality	静止画の画質を指定する。1～99の整数値を指定する。省略時はシステムの設定値が用いられる。



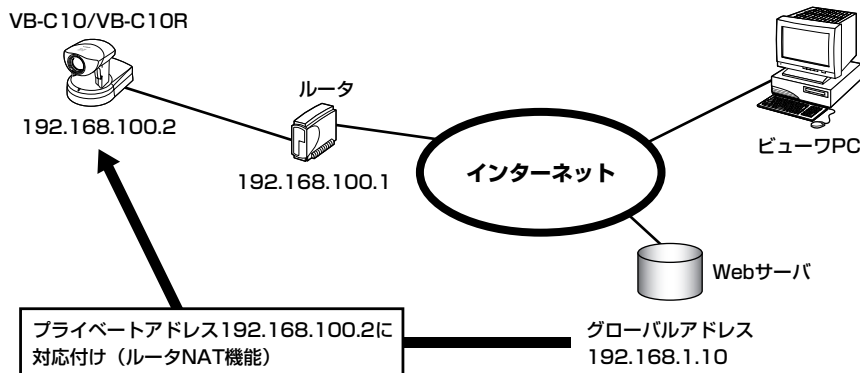
古い画像が表示されてしまう場合には、seqパラメータで任意のシーケンス番号を設定することで回避できます。

お願い

固定のグローバルアドレス1個による映像配信の例

本機でインターネットにライブ映像を公開する場合、固定のグローバルアドレスが1個必要です。プロバイダの接続サービスで固定のグローバルアドレスを1個提供してくれるサービスがありますが、これを利用することができます（注：NAT機能を持ったルータが必要です）。

例：ここでは仮にプロバイダから割り振られたグローバルアドレスが、192.168.1.10とします。
さらに本機にはプライベートアドレス192.168.100.2を設定します（ルータは192.168.100.1）。



本機のサンプルページは、実際に割り振られたIPアドレス（ここでは192.168.100.2）をもとに自動生成します。この場合、インターネット経由でhttp:// 192.168.100.2/sample/にアクセスしてもJava版ビューワやヘルパー版ビューワは表示できません。

「Web ページのグローバルアドレス」（→ P.3-21）に 192.168.1.10 を設定してください。また、本機のWebサーバを利用しない場合、映像配信用ホームページは以下のように記述してください。

Java 版ビューワの記述（→ P.5-7）は、次のようにしてください。

```
<applet codebase="http:// 192.168.1.10/~wvdoc-01-/LiveApplet/"
  code="LiveApplet.class" archive="LiveApplet.zip"
  width=450 height=380>
<param name=url      value="http:// 192.168.1.10 /">
<param name=cabbase   value="LiveApplet.cab">
</applet>
```

ヘルパー版ビューワのwvh ファイル記述（→ P.5-22）は、次のようにしてください。

```
192.168.1.10 65310
192.168.1.10 65311
wvhhttp:192.168.1.10 80
```



ルータの設定については、各メーカーにお問い合わせください。



映像蓄積機能の運用

この章では本機を利用した映像蓄積機能の具体的な運用事例を紹介します。外部デバイスからの入力やスケジュール設定によって自動的に静止画を蓄積することができます。

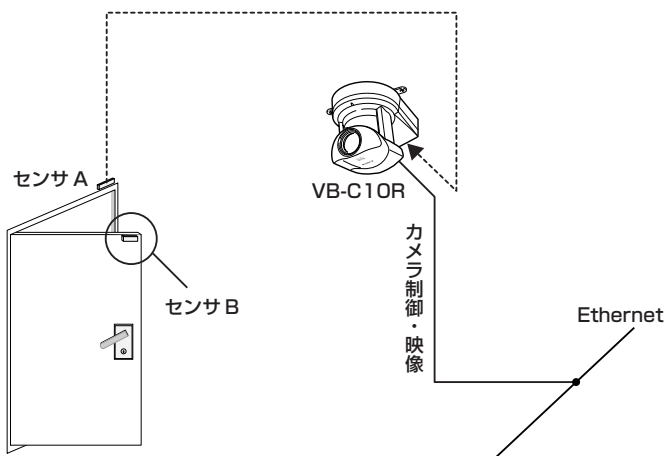
外部デバイスと連携して静止画蓄積機能を運用する

「外部デバイス入力」設定による運用によって、各種センサやスイッチを組み合わせ、外部の変化に対応して稼動する監視システムを構築する事ができます。撮影された静止画は本機のメモリに蓄積されます（→ P.3-16）。

ドア開閉センサと組み合わせた応用例

夕方5時から朝6時までの間、ドアが開いたら天井に設置したVB-C10Rで、ドアが開く3秒前から7秒後までの画像を1秒おきに撮影する監視システムです。本体背面の各コネクタに以下の機器を接続し、設置します。

設置例

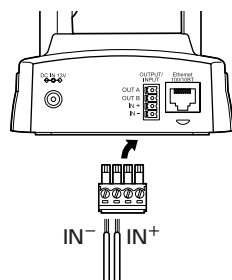


ドアに付けたセンサBがドアを開いてセンサAと離れると、接点入力IN⁺、IN⁻にONイベントが発生します。

そのイベントに対して、VB-C10Rによる入口撮影・映像蓄積を行います。

VB-C10R 接続例

コネクタ	取り付けるケーブル
IN ⁺ 、IN ⁻	ドアに取り付けるセンサ



センサからのケーブルは、先端の被覆を剥き、外部デバイス用プラグのIN⁺（⊕）、IN⁻（⊖）にさし込み、プラグのネジを締めて固定してください。

ケーブルを固定した外部デバイス用プラグは、本体背面の外部デバイス入力・出力端子にさし込んでください。

設定例

「カメラの設定ページ」に設定する撮影条件（→ P.3-11）

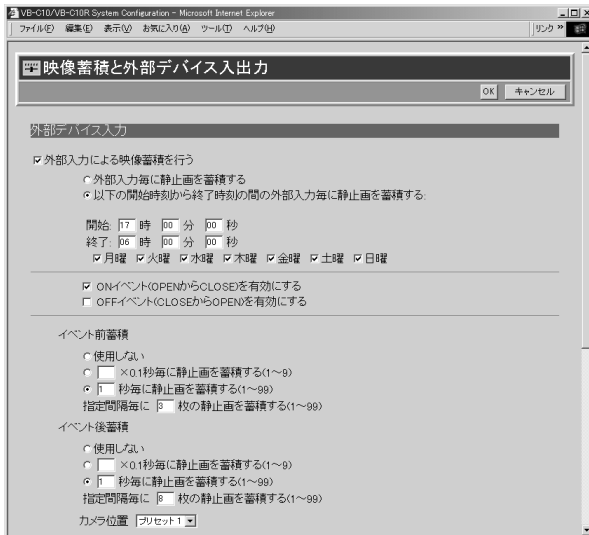
使用している VB-C10R の設定を適宜行います。

「プリセットの設定ページ」に設定する撮影条件（→ P.3-15）

開いた戸口が映るカメラアングルをプリセット 1 として設定しておきます。

設定する撮影条件（→ P.3-16）

- 「外部入力による映像蓄積を行う」をチェックします。
- 「以下の開始時刻から終了時刻の間の外部入力毎に静止画を蓄積する」を選択します。
- 開始時刻を 17 時 00 分 00 秒、終了時刻を 06 時 00 分 00 秒にします。
- 曜日はすべてチェックします。
- 「ON イベント（OPEN から CLOSE）を有効にする」をチェックします。
- 「イベント前蓄積」で [1] 秒毎に静止画を蓄積すると設定し、指定間隔毎に [3] 枚の静止画を蓄積すると設定します。これでドアが開く 3 秒前から 1 秒おきに映像が蓄積されます。
*「イベント前蓄積」では外部入力 ON になった瞬間だけは映像が蓄積されません。
- 「イベント後蓄積」で [1] 秒毎に静止画を蓄積すると設定し、指定間隔毎に [8] 枚の静止画を蓄積すると設定します。これでドアが開いた瞬間から 7 秒間、1 秒おきに映像が蓄積されます。
*「イベント後蓄積」では外部入力 ON になった瞬間から映像が蓄積されます。
- 撮影するカメラ位置はプリセット 1 にします。



* イベント後蓄積の間に入ったイベントは無視されます。

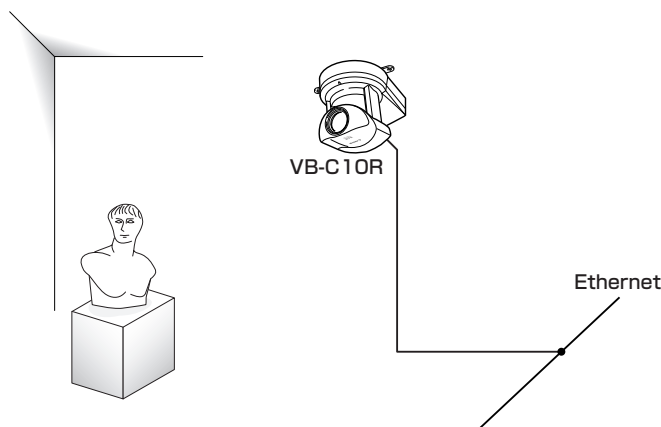
スケジュールを決めて静止画蓄積機能を運用する

「スケジュール」設定による運用によって、あらかじめ決められたスケジュールどおりに映像を取得する監視システムを構築する事ができます。撮影された静止画は本機のメモリに蓄積されます(→P.3-17)。

スケジュール設定による応用例

美術館等での、展示作品を監視するためのシステムです。10 分ごとに、天井に設置した VB-C10R で静止画像を撮影します。

設置例



あらかじめ設定したスケジュールに従って、VB-C10R による撮影・映像蓄積を行います。

設定例

「カメラの設定ページ」に設定する撮影条件（→ P.3-11）

使用している VB-C10R の設定を適宜行います。

「プリセットの設定ページ」に設定する撮影条件（→ P.3-15）

作品が映るカメラアングルをプリセット 1 として設定しておきます。

設定する撮影条件（→ P.3-17）

- 「スケジュールによる映像蓄積を行う」をチェックします。
- [10] 分毎に静止画を取得すると設定します。
- 撮影するカメラ位置はプリセット 1 にします。
- カメラが撮影位置で安定してから撮影するように、「静止画取得待ち時間」を 5 秒に設定します。

スケジュール

スケジュールによる映像蓄積を行う

☒ 秒毎に静止画を蓄積する(1～59)
☒ 10 分毎に静止画を蓄積する(1～59)
☐ 時間毎に静止画を蓄積する(1～24)

カメラ位置 [プリセット1]

静止画取得待ち時間(秒) [5] (0～10)

外部デバイス名

外部デバイス入力名(半角英数字) [] (15文字以内)
 外部デバイス入力名(日本語) [] (15文字以内)
 外部デバイス出力名(半角英数字) [] (15文字以内)
 外部デバイス出力名(日本語) [] (15文字以内)

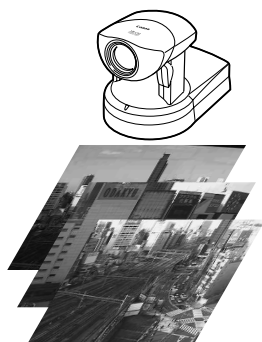


お願い

- 映像サイズによって蓄積できる静止画の枚数は変わります。あらかじめ静止画 1 枚当たりの平均的なファイルサイズを確認してください（→ P.3-17 および P.3-22）。
- 本機に蓄積された静止画を自動ダウンロードする VBCollector を使用すると、多数の静止画を蓄積することができます（→ P.6-6）。

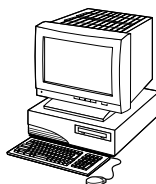
蓄積映像を閲覧する

本機に蓄積された映像を閲覧するにはVBCollectorを使用します。VBCollectorは、外部デバイス入力あるいはスケジュールに基づいて本機に蓄積された静止画を収集、表示するツールです。日、週、月単位など特定の時刻に本機へアクセスし、蓄積画像のダウンロードを行います。これにより、蓄積画像は逐次 PC に保存されるので、本機の蓄積できる画像数の許容量を超えた分の画像保存が可能になります。また、ダウンロードした画像を Web ブラウザで容易に閲覧することもできます。

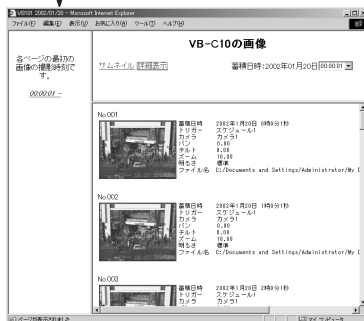


本機の映像蓄積機能による
静止画蓄積

タスクにより、定期的な
画像収集



タスク名	サーバ名	実行の頻度/時刻	最新の結果	ステータス
task1	VB-C10	2002/01/20 14:12	成功しました 2002/01/20 14:10	開始時刻2
task2	VB-C10		成功しました 2002/01/20 14:10	開始時刻2
task3	VB-C10	2002/02/04 14:14	成功しました 2002/01/29 14:10	開始時刻2
task4	VB-C10	2002/02/01 14:14	成功しました 2002/01/29 14:10	開始時刻2
task5	VB-C10	2002/02/03 14:14	成功しました 2002/01/29 14:10	開始時刻2
task6	VB-C10	2002/02/03 14:15	成功しました 2002/01/29 14:10	開始時刻2
task7	VB-C10	2002/02/05 14:10		開始時刻2



ダウンロードした画像の表示

VBCollector のインストール

本機に付属の CD-ROM を使って VBCollector をインストールします。



VBCollector は、Internet Explorer 5 以降がインストールされている必要があります。

1. PC の電源を ON にする

すでに PC の電源が ON になっていて、Windows が起動している場合は、VBCollector のインストールをはじめる前に他のアプリケーションを終了させてください。また、デスクトップのウィンドウやパネルも必ず閉じてください。

2. 本機に付属の CD-ROM を PC の CD-ROM ドライブに挿入し、以下の手順を行う

(1) デスクトップの [マイコンピュータ] をダブルクリックします。

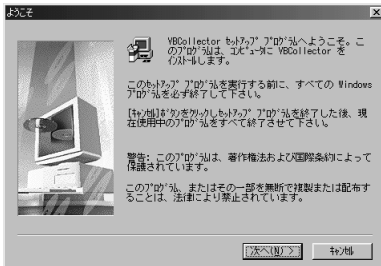
WindowsXP をお使いのときは、[スタート] ボタン→ [マイコンピュータ] の順にクリックします。

(2) 表示された [CD-ROM のアイコン] → [CltSetup.exe] の順にダブルクリックします。



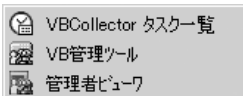
CltSetup.exe

3. 画面の指示に従ってインストール作業を行う



4. インストールを完了する

インストールが完了すると、[スタート] メニュー内に [VBCollector タスク一覧] が追加されます。

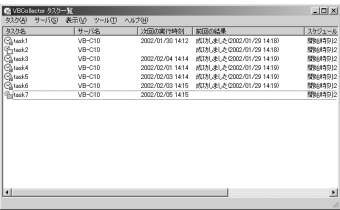
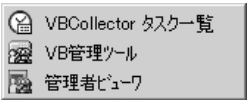


VBCollector を起動する

VBCollector は、スタートメニューから選択して起動します。

起動のしかた

【スタート】メニューから【プログラム】 - 【WebView Livescope】 - 【VBCollector タスク一覧】を選択して起動する



サーバを登録する

VBCollector を使用してネットワークカメラサーバ（以下サーバ）に蓄積された画像をダウンロードするには、あらかじめサーバを登録する必要があります。

サーバを追加する

VBCollector で画像をダウンロードするサーバを新規に追加します。

追加のしかた

1. サーバを追加するには「サーバ」メニューの「追加」を選択するか、「編集」を選択して表示された「サーバー一覧」ダイアログの「追加」ボタンをクリックする



2. 各項目を入力して [OK] ボタンをクリックする

●サーバ名

サーバを識別するための名称を設定します。

●画像の保存先

ダウンロードした画像を保存するフォルダ名を入力、または [参照] ボタンをクリックしてフォルダを選択します。ただし、ネットワークパスは指定できません。

【サーバの画像を消去する】

チェックを入れると、ダウンロードした画像をサーバから削除します。

●サーバ情報

【ホスト名】 (→ P.3-9)

IP アドレスまたはホスト名を指定します。

【HTTP ポート番号】 (→ P.3-21)

サーバに設定されている HTTP ポート番号を入力します (デフォルトは 80 番)。

【管理者アカウント】 (→ P.3-9)

root と入力します。

【管理者パスワード】 (→ P.3-9)

サーバに設定されている管理者パスワードを入力します。

●プロキシ

【HTTP プロキシサーバを経由する】

プロキシサーバを経由して接続する場合、チェックします。

【ホスト名】

プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。

【ポート番号】

プロキシサーバのポート番号を入力します (デフォルトは 8080 番)。

*本機では、PPP [ダイヤルアップ接続する] は使用できません。



【画像の保存先】までのパスに日本語が含まれる場合 (例: 保存するフォルダが日本語名)、Web ブラウザによって画像が表示されないことがあります。パスに日本語を含まないように指定し直してください。



本機の映像蓄積機能を利用される場合、[サーバの画像を消去する] にチェックを入れて運用すると便利です。

サーバ情報を編集する

登録されたサーバの内容を編集します。

編集のしかた

1. 「サーバ」メニューの「編集」を選択して表示された「サーバー一覧」ダイアログから、編集したいサーバ名をクリックして選択し、[変更] ボタンをクリックする

登録されたサーバを削除する場合は「削除」ボタンをクリックします。



2. 追加の際と同様に、各項目を変更して [OK] ボタンをクリックする



サーバを削除しても、ダウンロードした画像は削除されません。ダウンロードした画像を削除する場合には、先に「画像の削除 (→ P.6-15)」を行ってからサーバを削除してください。

タスクを登録する

タスクを追加する

画像をダウンロードするためのタスクを新規に追加します。

追加のしかた

1. タスクを追加するには「タスク」メニューの「追加」を選択する



2. 各項目を入力して [OK] ボタンをクリックする

●タスク名

タスク名を自由に設定します。

【有効にする】

追加するタスクをスケジュール通りに実行させる場合、チェックします。チェックをはずすと、追加しても実行されません。

●対象サーバ

追加するタスクを実行させ、VBCollector で蓄積画像をダウンロードしたいサーバを選択します。サーバが登録されている必要があります。

●スケジュール

【開始日】

スケジュールの起点となる年月日を設定します。タスクはここで指定した開始日以降、以下の項目で指定する条件と一致した日に実行されます。

【開始時刻】

タスクを起動する時間を設定します（24 時間制）。

【1 回】

タスクを 1 度だけ実行する場合にチェックします。開始日の開始時刻に 1 度だけ実行され、以降、実行されません。

【日単位】

タスクを何日かおきに実行する場合にチェックします。何日おきに実行するか、その日単周期を 1 ～ 31 日で設定します。

【週単位】

タスクを実行する日を曜日で指定する場合にチェックします。何週おきに実行するか、その週周期を 1 ～ 53 週で設定し、実行する曜日を指定します。

【月単位】

タスクを毎月指定した日に実行する場合にチェックします。実行する日は、1 日～31 日までの日にちによる指定、または何週の何曜日という指定が可能です。

●詳細設定

【繰り返し実行する】

タスクを時間単位で繰り返し実行する場合にチェックします。スケジュールで設定された開始時刻から、指定時間間隔で指定回数だけ繰り返しダウンロードします。チェックしない場合はスケジュールで設定された開始時刻に 1 回ダウンロードを行います。繰り返し実行を設定した場合、開始時刻になって最初のダウンロードを行う分は、繰り返し回数には数えられません。何時間おきに何回ダウンロードするか、それぞれ数値で指定します。時間は 1 ～ 23、回数は 1 ～ 23 までの数値を入力します。

【障害発生時に再実行する】

タスク実行時に正常にダウンロードが完了されなかった場合、そのタスクを再実行させる場合にチェックします。指定時間間隔で指定回数タスクを実行し直します。その間、正常にダウンロードがなされれば、それ以上タスクを繰り返しません。何分おきに何回再実行させるか、それぞれ数値で指定します。分は 1 ～ 10、回数は 1 ～ 10 までの数値を入力します。



お願い

- VBCollector で同時に実行できるタスク数は最大 16 タスクです。同時に 17 タスク以上を実行するようなスケジュールとならないように、スケジュールの設定には十分注意してください。
- VBCollector では同じサーバに対して同時に複数のタスクを実行することはできません。各タスクの「開始時刻」に幅を持たせるなどして、同じサーバに同時に複数のタスクが実行されないよう十分注意してください。

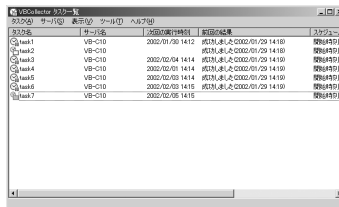
タスクを編集する

登録されたタスクの内容を編集します。

編集のしかた

1. タスク一覧で編集したいタスク名をクリックして選択し、「タスク」メニューの「変更」を選択する
またはタスク一覧で編集したいタスク名をダブルクリックする

登録されたタスクを削除する場合は「タスク」メニューの「削除」を選択します。



2. 追加の際と同様に、各項目を変更して [OK] ボタンをクリックする



タスクの実行と中止

タスクを実行する

登録されたタスクは、「タスク設定」で「有効にする」がチェックされていれば設定されたスケジュールで自動的に実行されますが、すぐにタスクを実行させる場合はタスク一覧ですぐに実行したいタスク名をクリックして選択し、「タスク」メニューの「すぐに実行」を選択します。

V5Calendar 2/20/02					
入力方法	サブメニュー	表示形式	ワークシート	ヘルプ	
標準型	CH-TH	日-月-年	新年度(旧年度)対比	新年度の結果	スプレッドシート
実業務型	CH-TH	2002/02/04 1412	成り上がり	2002/01/29 1410	履歴4件表示
稼働型	CH-TH	日-月-年	成り上がり	2002/01/29 1410	履歴4件表示
稼働型	Del	日-月-年	2002/02/04 1414	成り上がり	2002/01/29 1410
半日実行型	CH-TH	日-月-年	2002/01/31 1414	成り上がり	2002/01/29 1410
半日実行型	CH-TH	日-月-年	2002/02/03 1414	成り上がり	2002/01/29 1410
終了型	CH-TH	日-月-年	2002/02/05 1415	成り上がり	2002/01/29 1410

タスクを中止する

登録されたタスクを無効にするには「タスク設定」で「有効にする」のチェックをはずします。実行されているタスクを中止させるには、タスク一覧で中止したいタスク名をクリックして選択し、「タスク」メニューの「中止」を選択します。

[illegible]

タスク一覧の表示内容

タスク一覧では、タスクのさまざまな実行状況が確認できます。

タスク名	サーバ	実行中	次回の実行時刻	前回の実行時刻	実行結果	スケジュール
task1	VB-C10	2002/01/09 14:12	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task2	VB-C10		実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task3	VB-C10	2002/02/04 14:14	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task4	VB-C10	2002/02/01 14:14	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task5	VB-C10	2002/02/01 14:14	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task6	VB-C10	2002/02/03 14:15	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task7	VB-C10	2002/02/03 14:15			成功	毎時0分

●タスク名

タスク設定時に「タスク名」として入力した名称が表示されます。
タスク名の左には、タスクの状態をアイコンで表示します。



〔実行中〕

現在、このタスクは実行中です。



〔待機中〕

現在、このタスクは次回の実行予定時刻まで実行待機中です。



〔無効〕

タスク設定で「有効にする」がチェックされておらず、現在このタスクは実行されていません。



〔実行予定なし〕

現在、このタスクの実行予定はありません。



〔設定内容破損〕

このタスクは設定内容に矛盾が生じたため、タスクが実行されません。

●サーバ名

タスク設定時に「対象サーバ」で選択したサーバ名が表示されます。

●次回の実行時刻

タスクの次の実行開始日時が表示されます。

●前回の結果

タスクを最後に実行した結果と実行終了時刻が表示されます。

●スケジュール

タスクの開始日・開始時刻・実行間隔が表示されます。

タスク一覧の表示内容を更新する

表示されているタスク一覧の内容を最新のものに更新するには、「表示」メニューの「最新の情報に更新」を選択します。

タスク名	サーバ	実行中	次回の実行時刻	前回の実行時刻	実行結果	スケジュール
task1	VB-C10	2002/01/09 14:12	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task2	VB-C10		実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task3	VB-C10	2002/02/04 14:14	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task4	VB-C10	2002/02/01 14:14	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task5	VB-C10	2002/02/01 14:14	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task6	VB-C10	2002/02/03 14:15	実行済み2002/01/29 14:10	2002/01/09 14:10	成功	毎時0分
task7	VB-C10	2002/02/03 14:15			成功	毎時0分

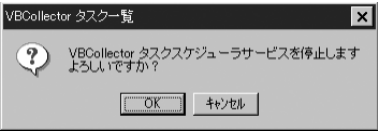
サービスの開始 / 停止

タスクスケジューラサービスの開始 / 停止を行うことができます。

設定のしかた



「ツール」メニューの「サービスの開始」または「サービスの停止」を選択します。サービスが開始されている場合は「サービスの停止」、サービスが停止されている場合は「サービスの開始」のみ選択できます。



確認のダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。

蓄積画像の閲覧

タスクスケジューラに基づいてダウンロードした蓄積画像は、「サーバ情報」で指定したフォルダに保存されます。VBCollector では閲覧を容易に行えるように Web ブラウザに出力する機能を備えています。

画像を表示する

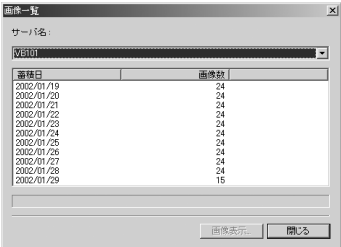
ダウンロードした画像をサーバ名と日付で選択し、Web ブラウザに一覧表示します。

表示のしかた

1. 「ツール」メニューの「画像の表示」を選択する



2. 画像一覧ダイアログが表示されます。閲覧したいサーバ名を選び、一覧表示したい日付をクリックして選択し、[画像表示] ボタンをクリックする



3. 確認のダイアログが表示されるので [OK] ボタンをクリックする



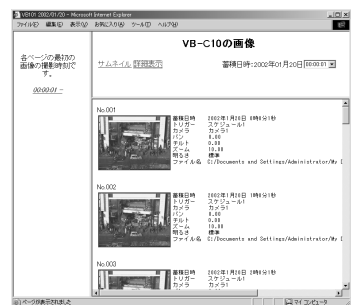
4. 画像を表示する HTML が生成され、Web ブラウザが起動し、選択した日付のサムネイル画像が 100 枚単位で表示される

閲覧したい画像をクリックすると、保存された原寸で表示されます。



5. 上フレームの「詳細表示」リンクをクリックすると、画像の詳細な情報が記載されたサムネイルが表示される

閲覧したい画像をクリックすると、保存された原寸で表示されます。



6

映像蓄積機能の運用

画像を削除する

ダウンロードした画像を削除します。

削除のしかた

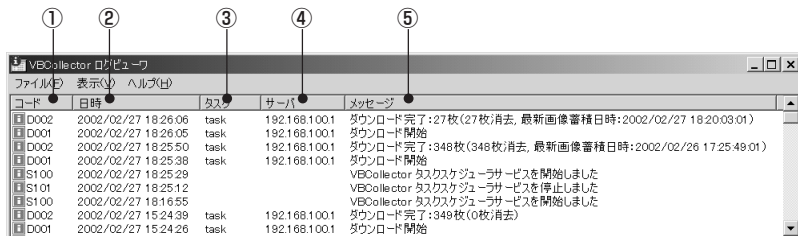
「ツール」メニューの「画像の削除」を選択する

画像一覧ダイアログで削除したい画像をダウンロードしたサーバ名を選び、削除したい日付をクリックして選択し、[画像削除] ボタンをクリックします。



ログを閲覧する

VBCollectorはタスクの実行に関するログを出力しています。ログを閲覧するには「ツール」メニューから「ログの表示」を選択します。



ログには以下の内容が表示されます。

①コード

識別コードが表示されます。識別コードとともに、そのレベルに応じた4種類のアイコンが表示されます。



[情報レベル]



[警告レベル]



[エラーレベル]



[不明]

②日時

ログの発生日時が表示されます。

③タスク

ログを出力したタスク名が表示されます。

④サーバ

タスクのダウンロード対象サーバ名が表示されます。

⑤メッセージ

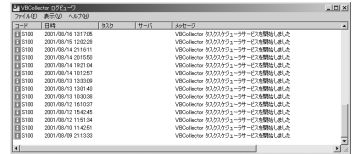
ログのメッセージが表示されます。

条件でログを選別して表示する

ログの種別、コード、日時でフィルタリングし、必要な情報だけを表示させることができます。

設定のしかた

1. 「表示」メニューから「フィルタ」を選択する



2. 「フィルタ」ダイアログが表示される

以下の条件を設定して [OK] ボタンをクリックすると、設定した条件に合致するログのみ表示されます。変更しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

●タスクを指定する

タスク名でフィルタリングする場合にチェックして、タスク名を入力します。

●サーバを指定する

サーバ名でフィルタリングする場合にチェックして、サーバ名を入力します。

●エラー種別

エラー種別によるフィルタリングの設定を行います。

【指定しない】

重要度・コードによる設定を無効にします。

【重要度を指定する】

「エラー」「警告」「情報」のエラーレベルで、表示させるレベルにチェックを入れます。

【コードを指定する】

ログの識別コードを入力して、該当する識別コードのログのみ表示させる場合にチェックを入れ、識別コードを入力します。

●日時

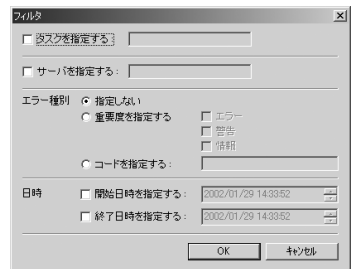
ログ出力日時によるフィルタリングの設定を行います。

【開始日時を指定する】

チェックを入れ、日時を入力すると、指定された日時以降に発生したログが表示されます。

【終了日時を指定する】

チェックを入れ、日時を入力すると、指定された日時以前に発生したログが表示されます。



ダウンロード容量の設定

タスクスケジュールに基づいてダウンロードを実行するための、保存先ドライブの空き容量が指定した割合に達した場合の対応や画像数の上限を設定することができます。

設定のしかた

1. 「ツール」メニューの「オプション」を選択する



2. 「オプション」ダイアログが表示される

(1) 保存先ドライブの必要最低空き容量

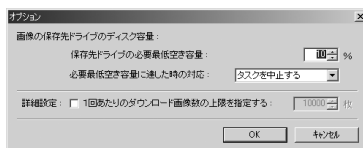
画像を保存するドライブが最低限確保すべき空き容量 (%) を、1 ～ 50 の範囲で設定します。

(2) 必要最低空き容量に達した時の対応

保存先ドライブがいっぱいになったときの対応を設定します。「タスクを中止する」か「古い画像を削除する」のどちらかを選択できます。

(3) 1 回あたりのダウンロード画像数の上限を指定する

チェックすると、ダウンロード 1 回あたりで映像を何枚まで PC に転送できるかを、1 ～ 10000 枚の範囲で設定できます。



3. [OK] ボタンをクリックする



故障かなと思ったら

この章では本機の動作、その他に不具合が生じたときの対処のしかたなどについて説明します。

トラブルシューティング

販売店に連絡する前に、以下のことを確認してください。ログメッセージが表示されている場合は、ログメッセージ一覧の内容と対策を参考にしてください。

本機が起動しない。カメラ LED が点灯しない

- AC ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 電源を入れ直してください (→ P.2-4)。
- カメラ LED が緑色に点灯しない場合はシステム異常です (→ P.1-9, 10)。リセットスイッチを押してください (→ P.8-5)。それでも直らない場合は販売店にご連絡ください。

VBIPl.exe が動作しない

- LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 本機の電源を OFF/ON してみてください (→ P.2-4)。電源を入れてから 20 分以上経過すると、VBIPl.exe に反応しなくなります。
- 本機と VBIPl.exe が動作している PC が、同じセグメント上の LAN に接続されているか確認してください。

本機のサンプルページが表示されない

- LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 本機のネットワークが正しく設定されているか確認してください。特に IP アドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイについては利用しているネットワークで使用可能な設定か確認してください。
- IP アドレスの変更を行った場合には、本機が一度再起動するまで有効になりません。
- 本機のアクセス制限を利用している場合には設定内容を確認してください (→ P.3-19)。
- ビューワ側のソフトの URL または IP アドレスの指定が正しいか確認してください。
- ルータの NAT 機能を利用している場合は、Web ページに記述する本機の IP アドレスが正しいか確認してください (→ P.5-26)。

映像が表示されない

- ビューワのソフトウェアが正しくインストールされているか確認してください (→ P.1-4)。同梱の CD-ROM に収録されているビューワソフトのユーザーズマニュアル (Mon-J.pdf) も参照してください。
- 映像の品質が悪い場合は、本機の画質設定を確認してください (→ P.3-11)。また、ビューワ側の PC などの表示色数を確認してください。
- 本機で同時にアクセスできるビューワの数が制限できます。制限を超えた場合には映像が表示されずにメッセージが表示されます (→ P.3-20)。
- Java 版ビューワで映像が見られない場合は、ブラウザのバージョンなどの動作環境を確認してください (→ P.1-6)。最新の情報は以下のホームページから参照できます。
(URL: <http://canon.jp/webview>)

カメラ制御ができない

- LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

パスワードを忘れてしまった

- リセットスイッチを押すと、本機の設定をすべて工場出荷時の状態に戻すことができます（→ P.8-5）。工場出荷時の管理用パスワードは「VB-C10」です。ただし、IP アドレスやサブネットマスクなどのネットワーク設定もすべて出荷時の値になりますので、再設定が必要になります。

映像の蓄積ができない

- 蓄積枚数は設定によって変化します。時々、必要のない蓄積映像は消去してください（→ P.3-22）。
- カメラの電源が入っているか、ケーブルは正しく接続されているか確認してください。



困ったときにはReadMeも合わせてご覧ください。ReadMeには本書に記載されていない重要な情報が書かれている場合があります。必ずお読みください。

ログメッセージ一覧

Syslogのログメッセージは、以下の3種類に分類されています。細分類はUNIXのsyslogに対応しています。

細分類	レベル	障害の程度
err	エラー	動作に支障のある異常（動作継続）
warning	警告	動作に支障のない異常
info	情報	正常動作に関する情報

システム関連のログメッセージ

● S004 システムの起動（info）

内容	Starting WebView
意味	WebView Livescope サーバの起動

アプリケーション関連のログメッセージ

● A007 可視範囲制限設定の異常（warning）

内容	inconsistent view restriction for camera [1]
意味	可視範囲制限の設定情報が破壊されている。これが発生すると、カメラ制御機能が使用できなくなる。
対策	工場出荷時設定に戻すか、または可視範囲制限の再設定を行う。

● A008 可視範囲制限設定に対応不能（warning）

内容	unacceptable view restriction for camera [1]
意味	望遠限界でも縦方向または横方向で可視範囲制限設定を満たせないことを意味する。このときズームは望遠限界に固定され、可視範囲制限設定を満たせない方向の雲台制御は禁止される。
対策	可視範囲制限を適正値に設定する。

● A011 カメラ制御部の異常（warning）

内容	VB-C10 (VB-C10R) [1] malfunction (%1)
%1	エラー (read write timeout ...)
意味	カメラ制御部に対する入出力エラー。
対策	繰り返し発生するときは故障であり、サービスマンコールが必要。

● A022 アプレットアーカイブのロード失敗（warning）

内容	archive/%1 not found
%1	アプレットアーカイブ名 (glimpse.cab glimpse.zip lvapplet.cab lvapplet.zip imagemap.gif)
意味	アプレットアーカイブファイルが存在しないか、または破損している。
対策	アプレットアーカイブディレクトリ 'archive' の下に、存在しない（または異常がある）ファイルをCD-ROM からコピーして再起動する。

● A023 外部デバイス入力の変化検出 (err)

内容	a %1 detected at %2
%1	外部デバイス入力変化 (Front-edge rear-edge)
%2	外部デバイス入力端子 (In1)
意味	外部デバイス入力端子 In1 にて入力の変化を検出した。Front-edge はオフ→オン、rear-edge はオン→オフの変化を意味する。



付録

主な仕様

VB-C10/VB-C10R		
ソフトウェア	OS	Linux
	プロトコル	TCP/IP、HTTP、BOOTP、FTP、WebView（キヤノン独自）
	映像圧縮方式	Motion-JPEG（映像品質可変 1～5）JPEG（静止画利用時）
	映像圧縮レート	0.1fps～30fps（可変）
	出力画像サイズ	160×120、320×240、640×480
	表示画像サイズ	80×60、160×120、320×240、640×480
	サーバ	HTTP、FTP、WebView Livescope
	ログ管理	syslog 形式
	カメラ制御	パン、チルト、ズーム、明るさ、シャッタースピード、フォーカスモード、可視範囲制限、制御時間制限
	接続制限	アクセス制限（パスワード）、映像接続時間、サービス時間帯、同時接続数（最大 20）
インターフェース	ネットワーク	Ethernet × 1（RJ45、10/100 自動切替え）
	表示用 LED	電源、ネットワークの状態表示
	接点入出力	入力=1、出力=1
本体仕様	寸法	VB-C10：106mm（W）×143.1mm（D）×111mm（H） VB-C10R：136mm（W）×143.1mm（D）×111.9mm（H） （ともに突起物含まず、VB-C10R は取付け板を含む）
	質量	VB-C10：645g VB-C10R：730g
	動作環境	温度 0～40℃、湿度 20～85%RH（結露不可）
	電源	AC アダプタ、消費電力 25W 以下

AC アダプタ	
形式	PA-V16
入力	AC100-240V 50/60Hz
出力	DC13V 1.8A（max.）
極性	外側（－）内側（＋）
サイズ	58mm（W）×118mm（D）×25mm（H）（突起物は含まず）
質量	約 205g

●仕様は改善などの理由で予告なく変更することがあります。

外部デバイス入出力端子

外部デバイス入力端子 (IN⁺、IN⁻)

外部デバイス入力端子は+端子と-端子で構成され、-端子は本体内部のGNDに接続されています。+端子と-端子に2線のケーブルを接続し、両端子間を電氣的に導通(ON)または絶縁(OFF)することにより、内部コントローラに対して割り込みを発生させます。設定については、第3章「設定手順」の「映像蓄積と外部デバイス入出力の設定ページ」を参照してください(→P.3-16)。

接続するセンサやスイッチは、それぞれの電源やGNDと電氣的に分離された端子を接続するようにしてください。

外部デバイス出力端子 (OUT A、OUT B)

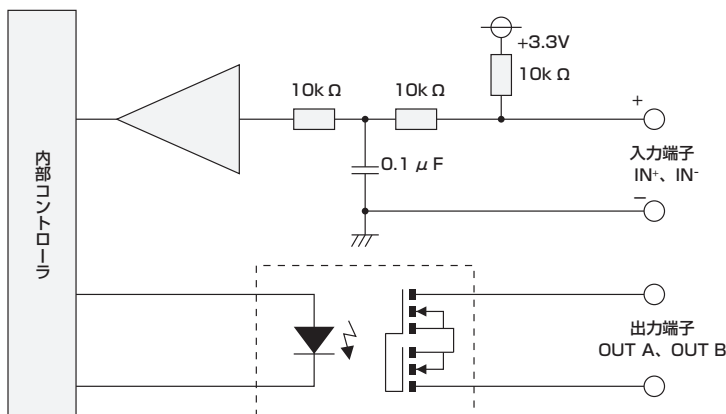
外部デバイス出力端子は二端子(OUT A、OUT B)で構成されています。OUT A、OUT Bに+、-の区別はありません。内部コントローラの制御により、二端子間を導通状態と絶縁状態に切り替えることができます。出力端子は光結合素子を用い、本体の内部回路とは分離されています。

*管理者ビューで、外部デバイス入力の確認と外部デバイス出力の操作ができます(→P.4-25)。

出力端子に接続する負荷は次の定格の範囲内で使用してください。

出力端子間の定格 :DC 最大電圧 50V
連続負荷電流 100mA

■内部接続図



工場出荷時設定に戻す

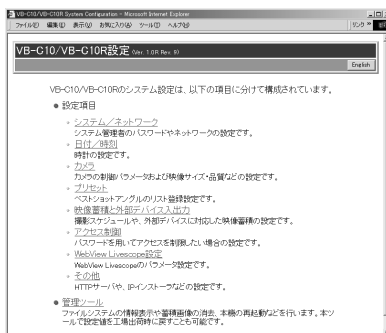
本機は多様な機能をサポートしている関係上、各機能の設定値はメモしておくことをおすすめします（→P.8-6）。設定値を忘れてしまったなどで、本機を一から設定し直したい場合には、いったん工場出荷時設定に戻してください。

* 工場出荷時の設定値については P.8-6 を参照してください。

Web ブラウザで管理ツールのページから出荷時設定に戻す

1. Web ブラウザを起動し、設定のタイトルページを表示する

設定のタイトルページを表示させるには、本機の IP アドレス、ユーザ名、管理用パスワードが必要です（→P.3-7）。



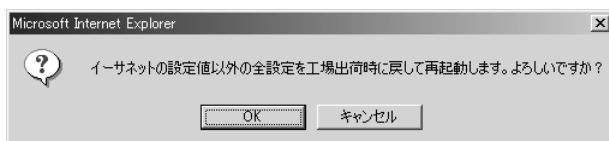
2. 設定のタイトルページ上で「管理ツール」をクリックする

管理ツールのページが表示されます。



3. 「工場出荷時に戻す」の【実行】ボタンをクリックする

工場出荷時の設定に戻してもよいかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。出荷時設定に戻してもよい場合は [OK] ボタンをクリックします。





この段階で [OK] ボタンをクリックすると、出荷時設定に戻す処理は中断できません。出荷時設定に戻したくないときは [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

4. 本機の設定が工場出荷時に戻る

本機のIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスなどネットワーク関連以外の設定値が工場出荷時に戻ります。

IPアドレスやパスワードが不明な場合

本機のIPアドレスや管理用パスワードが不明であったり忘れてしまった場合は、ネットワーク経由での操作ができません。この場合は、本機底面のリセットスイッチを押します。

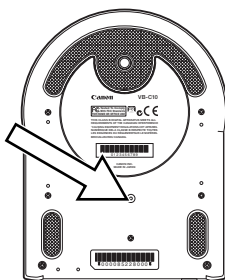
1. リセットスイッチを押したまま、本機の電源を OFF/ON する

リセットスイッチは底面よりも奥にあります。ゼムクリップの先端など、細いもので押してください。

本機の電源を OFF/ON する方法は、「電源の ON/OFF」(P.2-4)を参照してください。

2. 電源を入れた後も 5 秒以上リセットボタンを押し続ける

本機的全設定が工場出荷時に戻ります。



リセットボタンを押して工場出荷時の状態に戻すと、本機のIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスなどネットワークに関連した設定値もすべて工場出荷時に戻るため、接続していたPCから操作ができなくなります。同梱のCD-ROMに収録されている VBIPl.exe で、ご使用の環境に適合した IP アドレスを設定してください (→ P.3-3)。

工場出荷時設定一覧

工場出荷時の設定値です。設定を変更した際は、必ず設定値をメモしておきましょう。

項 目	設定値	設定値 1 (年 月 日)	設定値 2 (年 月 日)
●ユーザ名 (管理者 ID)	root	—	—
●管理用パスワード	VB-C10		
●設定ページのパス	admin	—	—
●日付と時間 グリニッジ標準時との時差	+9 (日本時間)		
●イーサネットアドレス IP アドレス サブネットマスク	192.168.100.1 255.255.0.0		
●デフォルト ゲートウェイアドレス	192.168.100.254		
●カメラ制御 ワイドコンバータ	使用しない		
●映像サイズ	320 × 240		
●映像品質	3		
●ホームポジションに移動 パン チルト ズーム 明るさ シャッタースピード フォーカスモード 可視範囲制限 上端 / 下端 左端 / 右端 望遠 / 広角	しない 0 0 0 標準 自動 自動 しない なし なし なし		
●プリセット	なし		
●映像蓄積	なし		
●アクセス制御	なし		
●ユーザリスト	なし		

項 目	設定値	設定値 1 (年 月 日)	設定値 2 (年 月 日)
● WebView Livescope 映像送信ポート カメラ制御ポート 最大クライアント数 最大制御権待ち数 最大フレームレート (fps) 映像接続時間 (秒) カメラ制御時間 (秒) 静止画取得待ち時間 (ミリ秒) サービス時間制限	65310 65311 20 20 30.0 0 20 1500 なし		
● その他 HTTP ポート Web ページの グローバルアドレス 定期的にパケットを 送信する 送信先 IP アドレス 送信間隔 IP インストーラ	80 なし しない なし なし ON		

記号

100/10BT Ethernet コネクタ ... 1-9, 1-10

A

AC アダプタ 1-8, 3-2, 3-3

AC ケーブル 1-8

C

CD-ROM 1-8, 3-3, 4-4, 6-7

CltSetup.exe 6-7

E

Ethernet 6-2, 6-4

F

FTP クライアント 5-8

G

GetStillImage のパラメータについて .. 5-25

Glimpse 5-3, 5-11, 5-19

H

HTTP サーバ 3-21

HTTP ポート番号 4-5

I

IP アドレス ... 2-5, 3-3, 3-4, 3-6, 3-7, 3-9,
3-10, 3-21, 4-5

IP アドレスの記述方法について 5-9

IP インストーラ 3-21

ISP 環境での構成例 2-5

J

Java 版ビューワ 1-6

Java 版ビューワの特長 5-3

Java 版ビューワのパラメータについて ... 5-17

Java 版ビューワを使用した

ホームページの作成方法 5-7

Java 版ビューワを使用した

ホームページの作成例 5-9

L

LAN 環境での構成例 2-5

LAN ケーブル 3-2

LiveApplet 5-3, 5-11, 5-17

M

MAC アドレス 1-11

N

NTP サーバに合わせる 3-10

V

VB-C10/VB-C10R の特長 1-2

VBAdmin 起動パネル 4-2, 4-6

VBCollector 1-7

VBCollector のインストール 6-7

VBCollector を起動する 6-8

VBIPi.exe 3-3, 3-21, 7-2

VB 管理ツール 1-6, 3-12, 4-2, 4-4

VB 管理ツールの概要 4-2

VB 管理ツールを起動する 4-5

W

WebView Livescope

ビューワソフトウェア 1-6

WebView Livescope MV ソフトウェア ... 1-7

WebView Livescope 設定の設定ページ .. 3-20

Web サーバを設定する 5-21

Web ブラウザで管理ツールのページから

出荷時設定に戻す 8-4

WindowsXP 3-3, 4-4, 6-7

ア

明るさ	3-12
アクセス時のライブ映像を	
指定フレーム数分の動画として表示する ...	5-24
静止画として表示する	5-24
アクセス制御の設定ページ	3-19
アプレットタグの記述	5-20
安全にお使いいただくために	vii

イ

イーサネット	3-9
イベント後蓄積	3-16
イベント前蓄積	3-16
イベント ログを見る	3-22

エ

映像サイズ	3-11
映像接続時間	3-20
映像送信ポート	3-20
映像蓄積と外部デバイス入出力の	
設定ページ	3-16
映像配信用ホームページについて	5-2
映像品質	3-11

オ

お手入れに関する注意	x
オプション商品	1-5
主な仕様	8-2
オンボードファイルシステムの情報	3-22

カ

外部デバイス出力端子 (OUT A, OUT B) ...	8-3
外部デバイスと連携して	
静止画蓄積機能を運用する	6-2
外部デバイス入力	3-16
外部デバイス入力・出力端子	1-9, 1-10
外部デバイス入力端子 (IN ⁺ , IN ⁻)	8-3

外部デバイスの操作	4-25
外部デバイス名	3-17
外部デバイス用入力・出力端子	6-2
外部デバイス用プラグ	1-8, 2-4, 6-2
各部の名称とはたらき	1-9
可視範囲制限	3-11, 3-12
可視範囲制限について	3-14
可視範囲制限の設定内容	3-13
可視範囲制限の有効 / 無効	4-26
可視範囲設定ツール	4-3, 4-12
可視範囲設定ツールの表示画面について ...	4-13
可視範囲を設定する	4-15
画像を開く / 保存する	4-11
カメラ LED	1-9, 1-10, 2-4
カメラ位置	3-17
カメラ制御時間	3-20
カメラ制御ポート	3-20
カメラの設定ページ	3-11
カメラヘッド	1-9, 1-10, 2-4, 3-13
カメラヘッドの動作範囲	3-13
カメラ名	3-11
管理者ビューワ	4-3, 4-15, 4-20, 4-24
管理者ビューワの特権	4-24
管理ツールの設定ページ	3-22
管理用パスワード	3-9, 8-5

キ

起動時の画面と切断時の画面を変更する ...	5-13
許可ユーザアカウント	3-19

ケ

現在の設定を見る	3-22
----------------	------

コ

工場出荷時設定一覧	8-6
工場出荷時設定に戻す	8-4
固定のグローバルアドレス 1 個による	
映像配信の例	5-26

サ

サーバ情報を編集する	6-10
サーバを登録する	6-8
三脚取付用ネジ穴	1-11
再起動	3-8
再接続	4-11
最大クライアント数	3-20
最大フレームレート	3-20
サブネットマスク	3-9, 8-5
三脚を使う	2-2
サンプルページ	3-6
サンプルページを見る	5-6

シ

システム / ネットワークの設定ページ	3-9
システム構成	1-4
指定したアングルのライブ映像を 静止画で表示する	5-25
シャッタースピード	3-12
使用上の注意	ix
初期化	2-4
初期設定をする	3-3
シリアル No	1-11

ス

ズーム	3-12
スケジュール	3-17
スケジュールを決めて 静止画蓄積機能を運用する	6-4

セ

静止画取得待ち時間	3-20
設置上の注意	viii
設置する	2-2
設定のタイトルページ	3-7, 3-8
接続情報を表示する	4-11

ソ

その他の設定ページ	3-21
-----------------	------

タ

タイムゾーン	3-10
ダウンロード容量の設定	6-18
タスク一覧の表示内容	6-13
タスクの実行と中止	6-12
タスクを登録する	6-10

チ

蓄積映像を閲覧する	6-6
蓄積画像の閲覧	6-14
チルト	3-12

テ

デフォルトゲートウェイアドレス ...	3-9, 8-5
電源接続端子	1-9, 1-10
電源に関する注意	x
天井に設置する	2-2

ト

動作を確認する	3-6
動作環境	1-6
トラブルシューティング	7-2

ニ

日常のお手入れ	xi
---------------	----

ネ

ネットワーク LED	1-9, 1-10
ネットワーク構成例	2-5

ハ

パスワード 3-4, 3-5, 3-7
 パノラマ画像を更新 / 削除する 4-10
 パノラマ画像を撮影する 4-9
 パノラマ作成ツール 4-2, 4-7
 パノラマ作成ツールの表示画面について ... 4-8
 ハブ 3-2
 パン 3-12

ヒ

ピア・ツー・ピア 3-2
 日付と時刻 3-10
 ビューワ 1-6

フ

フォーカスモード 3-12
 ブラウザだけを使用して映像を発信する .. 5-24
 プリセット設定ツール 4-3, 4-17
 プリセット設定ツールの表示画面について 4-18
 プリセットの設定ページ 3-15
 プリセットを設定する 4-20
 プロキシ 4-5

ヘ

ベース 1-9, 1-10
 別売り商品 1-5
 ヘルパー版ビューワ 1-6, 3-17, 4-24
 ヘルパー版ビューワの特長 5-5
 ヘルパー版ビューワを使用した
 ホームページの作成例 5-23
 ヘルパー版ビューワを使用して
 映像を配信する 5-21

ホ

ホームページのデータを保存する 5-8
 ホームポジション 3-12
 望遠・広角 3-12

モ

網接続機能 3-21
 持ち運びとときの注意 viii

ユ

ユーザー名 3-4, 3-5, 3-7
 ユーザへのサービス時間を設定する 3-20

リ

リセットスイッチ 1-11, 3-9, 8-5

ル

ルータ 1-4, 2-5

ロ

ログビューワ 4-3, 4-22
 ログメッセージ一覧 7-4
 ログを閲覧する 4-22, 6-16

ワ

ワイドコンバータ 1-5, 2-3